

第一類 法規、第六章 農業動産信用法關係

冊簿登記 數ノ記	冊簿登記 數ノ記	號番 表示 抵當權ノ目的タル動産ノ	豫	備
番登記 號記	番登記 號記			
番順位	番順位			

農業用動産抵當共同擔保目錄

附錄第五號

冊簿登記 數ノ記	冊簿登記 數ノ記	號番 表示 抵當權ノ目的タル動産ノ	豫	備
番登記 號記	番登記 號記			
番順位	番順位			

農業用動産抵當登記受附帳

區裁判所

附錄第四號

部	所有者ノ姓名	動産ノ種類	所在ノ場所 市區 町村	大字	字	土地ノ番地 號	登記簿 丁數	登記簿 番號	登記簿 冊數	備考

第一類 法規、第六章 農業動産信用法關係

年受月日ノ	受附番號	登記ノ目的	申氏請名人	備考

●農業用動産抵當登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ登記簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ノ納ムベキ手数料ノ件 (昭和八年十一月二十九日) (司法省令第三十七號)

農業用動産抵當登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ登記簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ノ納ムベキ手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號第一條、第二條、第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年十月一日ヨリ施行)

第七章 米穀統制法關係

●米穀統制法 (昭和八年三月二十九日) (法律第二十四號)

〔沿革〕 昭和十一年五月法律第二三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル米穀統制法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀統制法

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ米穀ノ統制ヲ圖

ル爲本法ニ依リ米穀ノ買入及賣渡ヲ行フ

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定シ之ヲ告示ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム政府ハ第一項ノ最低價格ノ決定ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ金利及保管料ヲ加算スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ定メタル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ最低價格又ハ最高價格ヲ維持スル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ最低價格ニ依ル賣渡ノ申込又ハ最高價格ニ依ル買入ノ申込ニ應ジテ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス

第四條 政府ハ道府縣ヨリ該地域外ニ又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ内地ニ移出スル米穀ノ數量ヲ月別平均的ナラシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ出廻期ニ於テ米穀ノ買入ヲ爲シ出廻期後ニ於テ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第四條ノ二 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ災害、事變其ノ他避クベカラザル事由アル場合ニ於テ米穀ノ配給上特ニ必要

アリト認ムルトキハ米穀ノ市價ニ惡影響ヲ及ボサザル場合ニ限リ所有米穀ノ總數量ヨリ最高價格ヲ維持スル爲必要ナル數量ヲ控除シタル數量ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ對シ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要ニ應ジ所有米穀ノ貯藏、買換、交換、加工及整理ノ爲ニスル賣渡並ニ輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸出ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

第七條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ粟、高粱、黍、小麥又ハ小麥粉ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第九條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀、粟、高粱、黍、小麥又ハ小麥粉ノ輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

第十條 米穀生産費、家計費並ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 政府ハ前條ニ規定スル事項其ノ他米穀ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ調査スル爲テ必要アリト認ムルトキハ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ吏員ハ其ノ身分ヲ證明スル證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第七條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入若ハ輸出シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ粟、高粱、黍、小麥若ハ小麥粉ヲ輸入シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀、粟、高粱、黍、小麥又ハ小麥粉ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限

ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

第十三條 第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年十月勅令第二七八號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行)

米穀法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前米穀法第三條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ本法第七條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本法施行前ニ米穀法ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

附則 (昭和十一年五月法律第二三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年九月勅令第三二六號ヲ以テ同年九月二十日ヨリ施行)

第四條ノ二ノ規定ニ依ル米穀ノ賣渡ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

●米穀統制法施行令(昭和八年十月二十三日勅令第二百八十號)

〔沿革〕 昭和十年十一月勅令第三〇八號、同十一年九月同第三二七號改正

朕米穀統制法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀統制法施行令

第一條 米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ毎年十二月東京市及大阪市ニ於ケル價格ニ付之ヲ公定ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ當該年産ノ内地米ニシテ農林大臣ノ告示スル銘柄及等級ノモノニ付之ヲ定ム

第二條 最低價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ノ總平均タラシムル計算ノ下ニ命令ノ定ムル所ニ依リ格差ニ從ヒ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム

前項ノ標準最低價格ハ當該年産米穀ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額ト米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ下値ニ割ニ相當スル價格ト下値ニ割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テハ前年十二月定メタル第一項ノ最低價格ニ農林大臣ノ定ムル金利及保管料ニ相當スル金額ヲ毎月加算シタルモノヲ以テ最低價格トス

四月ヨリ十月迄ノ間ニ於テハ三月ニ於ケル最低價格ヲ以テ最低價格トス第四項ノ金利ハ米穀證券ノ割引歩合ヲ、同項ノ保管料ハ農業倉庫ノ保管料ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第三條 最高價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最高價格ト前條第一項ノ標準最低價格トノ差額ヲ前條第一項ノ規定ニ依リ定メタル各銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ニ加ヘ之ヲ定ム

前項ノ標準最高價格ハ當該年ニ調査シタル家計費ヲ基礎トシテ算出シタル價格(家計米價)ト米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ上値ニ割ニ相當スル價格ト上値ニ割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四條 米穀統制法第二條ノ米穀生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年調査シタル各農家ノ玄米一石當生産費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ヲ平均シテ之ヲ算出ス
前項ノ玄米一石當生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號

第一類 法規、第七章 米穀統制法關係

ニ掲グル費用ノ合計額ヨリ副収入ノ金額ヲ控除シタルモノヲ米穀收量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

- 一 種糧代
 - 二 肥料代
 - 三 勞賃
 - 四 畜力費
 - 五 諸材料費
 - 六 農舍費
 - 七 農具費
 - 八 租稅其ノ他ノ公課
 - 九 部落協議費又ハ之ニ準ズルモノ(水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タルモノ)
 - 十 土地資本利子
 - 十一 小作料
 - 十二 米穀検査手数料
- 前項各號ニ掲グル事項、副収入及米穀收量ノ調査方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條** 第二條第二項ノ運賃諸掛ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル費用ノ合計額ヲ平均シ之ヲ算出ス
- 一 農林大臣ノ指定スル地方主要米穀集散地ニ於テ要スル小運送費及積込費

二 前號ノ地方主要米穀集散地ヨリ第一條ノ地迄ノ鐵道又ハ船舶ノ運賃

三 第一條ノ地ニ於テ要スル積卸賃及小運送費

第六條 第三條第二項ノ家計米價ハ命令ノ定ムル所ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算シテ之ヲ定ム

前項ノ白米一石當價格ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ毎年調査シタル各世帯ノ家計費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ニ依リ算定スル平均家計費中ノ米代ト平均家計費中ノ副食物費、嗜好品費、交際費、修養娛樂費、旅行費及貯金額ノ合計額ニ別ニ告示スル割合ヲ乗ジタル額トノ合計額ヲ平均一世帯當白米消費量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第七條 米穀統制法第二條第四項ノ規定ニ依ル最低價格又ハ最高價格ノ改定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條又ハ第三條ノ規定ニ準ジテ之ヲ行フ

米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルハ九月一日以後ニ限ル

第八條 米穀統制法第三條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ東京市及大阪市以外ノ地ヲ其ノ受渡地ニ指定シタルトキハ其ノ地ヨリ東京市又ハ大阪市ニ至ル迄ノ運賃諸掛ノ範圍内ニ於テ農林大臣ノ定ムル金額ヲ參酌シテ

第一項ノ各月推算移出數量ハ各月ニ於ケル各道府縣產米ノ地域外移出數量ノ年移出數量ニ對スル割合ヲ前五年ニ付平均シタルモノヲ當該道府縣ノ年推算移出數量ニ乗ジタルモノノ合計額トス

米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル朝鮮米又ハ臺灣米ノ買入數量ノ限度ハ前三項ノ規定ニ準ジテ算出シタル數量ノ限度トス

第十二條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依リ買入レタル米穀ノ數量ニ相當スル米穀ハ當該米穀年度内ニ於テ賣渡ヲ爲スモノトス但シ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スル米穀ノ農林大臣ノ指定スル市場ニ於ケル平均價格ガ標準最低價格ノ上値五分ニ相當スル價格以下ニ在ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ平均價格ハ前項ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタルモノノ一石當平均取引價格ノ總和ヲ平均シテ之ヲ定ム
前項ノ一石當平均取引價格ハ各銘柄及等級別ニ其ノ取引總金額ヲ取引總數量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第十三條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル朝鮮米及臺灣米ノ買入又ハ賣渡ハ朝鮮米ニ在リテハ朝鮮ニ於テ、臺灣米ニ在リテハ臺灣ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

買入又ハ賣渡ノ代金ヲ定ムルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ政府ハ米穀統制法第三條ノ規定ニ依ル賣渡又ハ買入ノ申込ニ應ゼザルコトヲ得
一 申込數量ガ命令ノ定ムル數量ニ達セザルトキ
二 買占其ノ他不當ノ利得ヲ圖ル目的ヲ以テ申込ヲ爲シタルモノト認メタルトキ

第十條 最高價格ニ依ル買入ノ申込アリタル場合ニ於テ買入ノ申込アリタル銘柄及等級ノ米穀ヲ所有セザルトキハ政府ハ買入申込者ニ於テ申込ノ際反對ノ意思ヲ表示シタル場合ヲ除クノ外他ノ銘柄及等級ノ米穀ヲ賣渡スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ第三條ノ規定ニ依ル最高價格ノ定ナキ銘柄及等級ノ米穀ヲ賣渡ス場合ニ於テハ其ノ價格ハ農林大臣ノ定メ公示ス

第十一條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル内地米ノ買入數量ハ當該米穀年度ニ於ケル年推算移出數量ヲ月平均シタルモノノ四月分ヲ當該米穀年度ニ於ケル十一月ヨリ二月ニ至ル各月推算移出數量ノ合計額ヨリ控除シタル數量ヲ限度トス
前項ノ年推算移出數量ハ命令ヲ以テ定ムル各道府縣別ノ第一回米穀豫想收穫高ニ當該道府縣ノ米穀生產高ニ對スル當該道府縣產米ノ地域外移出數量ノ割合ヲ前五年ニ付平均シタルモノヲ乗ジタルモノノ合計額トス

第十三條ノ二 米穀統制法第四條ノ二ノ規定ニ依ル米穀ノ賣渡ハ道府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、産業組合、農會等ニ對シ農林大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ讓渡又ハ貸付ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ行フ

第十四條 米穀ノ買換ヲ行フ場合ニ於ケル賣渡及買入ハ同時期ニ於テ之ヲ行フ但シ八月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ賣渡ヲ行ヒ新米ノ出廻期ニ於テ買入ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ買入ヲ爲ス場合ニ於テ第十二條第一項但書ノ平均價格ガ標準最高價格ヲ現ニ超エ又ハ超エントスルノ虞アルトキハ買入ハ其ノ間之ヲ行ハザルモノトス

第十五條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依ル米穀ノ貸付ハ道府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、産業組合、農會等ニ對シ農林大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ貸付又ハ賣渡ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ行フ

第十六條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依リ米穀ノ貸付ヲ受ケタル道府縣ハ貸付ヲ受ケタル米穀ト同一數量ノ米穀ヲ貸付ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ於テ農林大臣ノ指定スル時期ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ返還スベキ米穀ハ農林大臣ノ指定スル所ニ從ヒ返還スベキ時期ノ屬スル年當該年產又ハ其ノ前年產ノ米穀ニシテ貸付ヲ受ケタル米穀ト同一ノ銘柄及等級ノモノ

ノ又ハ之ト同格ノモノタルコトヲ要ス

第十七條 貸付又ハ返還ノ爲ニスル米穀ノ受渡ハ農林大臣ノ指定スル倉庫ニ於テ之ヲ行フ

第十八條 米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ハ内地ニ於テハ農林大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ハ豫メ農林大臣ト議シ毎年許可ニ依リ輸入セラルベキ米穀ノ數量ヲ定ム其ノ數量ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セズ

一 通商航海條約ニ別段ノ定アルトキ

二 政府ガ米穀統制法ニ依リ米穀ヲ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ委託ヲ受ケ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ

三 船用品又ハ旅客ノ携帶品タル米穀、標本米其ノ他之ニ準ズベキ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ

前項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 主務大臣ハ米穀生産費、家計費並ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ノ爲道府縣、市町村及市町村長ニ對シ調査上必要ナル事務ヲ行フベキコトヲ命ジ並ニ適當ト認ムル者ニ對シ記帳及報告ヲ命ズルコトヲ得

ヲ得

第二十一條 農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタル米穀ノ相場及數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第二十二條 日本銀行ハ卸賣物價ニ關スル調査ノ結果ヲ毎月農林大臣ニ報告スベシ

第二十三條 本令中米穀年度ト稱スルハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

附則

本令ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十一月一日ヨリ施行）

米穀統制法施行令ハ之ヲ廢止ス

米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ昭和八年ニ限り十一月及十二月ニ之ヲ公定ス

前項ノ最低價格ノ決定ニ付參酌スベキ米穀生産費ハ十一月ニ公定スルモノニ付テハ米穀統制法施行令第五條ノ規定ニ依リ算出シタル昭和七年産米穀ノ生産費、十二月ニ公定スルモノニ付テハ昭和八年産米穀ノ生産費トス

昭和八年産米穀ノ生産費ニ付本令施行前米穀統制法施行令ニ依リ調査シタルモノハ本令ニ依リ之ヲ調査シタルモノト看做ス

米穀統制法第二條ノ最高價格ハ當分ノ内第三條ノ規定ニ拘ラ

ズ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

米穀ノ輸入ハ當分ノ内總テ米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

昭和八年勅令第二百七十一號ハ之ヲ廢止ス

附則（昭和十一年九月勅令第三二七號）

本令ハ昭和十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年九月二十日ヨリ施行）

第二條第四項乃至第六項ノ改正規定ハ昭和十一年十二月ニ定ムル最低價格ヨリ之ヲ適用ス

●米穀統制法施行規則抄

（昭和八年十月二十四日）
（農林省令第二十號）

【沿革】 昭和十二年一月省令第二號、同年六月同第二四號改正米穀統制法施行規則左ノ通定ム

米穀統制法施行規則

第三十九條 米穀現在高調査ハ毎年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時現在ニ於テ内地ニ現在スル米穀ニ付之ヲ行フ但シ左ニ掲グル米穀ニ付テハ之ヲ行ハザルモノトス

●米穀統制法ノ公定價格ニ依ル賣渡

及買入ノ心得書（昭和八年十一月一日）
（農林省告示第四百六號）

米穀統制法ノ公定價格ニ依ル賣渡及買入ノ心得書左ノ通定ム

賣渡心得書

- 一 調査期日ニ於テ保税地域及外國貿易船ニ現在スル米穀
- 二 内地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米
- 三 八月一日、九月一日及十一月一日現在ノ調査ニ在リテハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生産セラレタル内地米
- 前項ノ調査ハ内地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ粳、玄米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ粳、玄米、白米及碎米ニ區分シテ之ヲ行フ
- 第四十條** 左ニ掲グル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル米穀ニシテ前條ノ規定ニ依リ調査セラルベキモノノ數量ニ付地方長官ニ對シ様式第三號ニ依リ申告ヲ爲スベシ
- 一 倉庫營業者ノ倉庫
- 二 運送營業者、運送取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫
- 三 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫
- 四 前各號ノ外農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ之ニ準ズルモノニシテ地方長官ノ指定シタルモノノ倉庫

第一條 賣渡ノ申込ヲ爲サントスル者ハ受渡ヲ希望スル政府指定倉庫ノ所在地ヲ管理地域トスル米穀事務所ニ米穀統制法施行規則様式第一號ノ賣渡申込書(正副二通)ヲ提出スベシ

第二條 賣渡ノ申込ヲ爲サントスル者ハ一俵(呎)ニ付壹圓以上ノ申込保證金ヲ現金又ハ無記名邦貨國債ヲ以テ納付スベシ

申込保證金ハ契約成立ト同時ニ之ヲ契約保證金ニ充當ス

全國米穀販賣購買組合聯合會ノ申込並ニ帝國農會ヲ代理人トスル申込ニ付テハ申込保證金及契約保證金ハ之ヲ免除ス

第三條 一口ノ賣渡申込數量ハ同一銘柄百俵(呎)以上ニシテ同一等級粒種(公定價格表ノ附記ニ依リ價格ノ異ナルモノハ別等級粒種ト看做ス)ノモノ二十俵(呎)以上タルコトヲ要ス但シ政府ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 政府買入ヲ決定シタルトキハ受渡ノ場所及期日ヲ定メ之ヲ申込者ニ通知ス

前項ノ期日ハ買入決定ノ通知ヲ發スル日ノ翌日ヨリ起算シ十五日以内ニ於テ之ヲ定ム

第五條 申込者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク請書(正副二通)ヲ當該米穀事務所ニ提出スベシ

第六條 受渡米ハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、道府縣ノ移出検査又ハ之ニ準ズル検査ニ合格シタル二重俵入(佐賀縣米及會津米ハ呎入、鹿兒島縣米ハ三本繩複式編俵入差支ナシ)内地水稻梗玄米ニシテ公定價格表ニ記載スル銘柄、等級及粒種ニ該當シ且之ニ相當スル品位ヲ有スルモノタルコト

二、變質米、蟲害米、濡米其ノ他ノ事故米又ハ輕俵ニ非サルモノタルコト

第七條 受渡米ノ數量ニ付テハ契約數量ノ百分ノ五以内ノ増減ヲ認ムルコトアルベシ

第八條 賣主受渡米ヲ政府指定ノ倉庫ニ入庫シタルトキハ倉入通知書ヲ當該米穀事務所ニ提出シテ検査ヲ求ムベシ

第九條 政府倉庫ニ入庫スル受渡米ノ水揚、倉入其ノ他ノ荷役ハ政府ノ指定スル者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十條 政府ハ受渡米ノ百分ノ五以上ニ付検査ヲ行フ

前項ノ検査ニ對シテハ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第十一條 検査ニ合格シタル受渡米ニ付テハ政府ハ賣主ニ對シ検査合格證ヲ交付ス

検査ニ合格セザル受渡米ニ付テハ政府ハ賣主ヲシテ受渡期限迄ニ代米ノ提供ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 政府倉庫ニ入庫シタル受渡米ニシテ検査ニ合格セザルモノハ指定期限迄ニ之ヲ搬出スルコトヲ要ス

賣主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ前項ノ搬出ヲ了セザルトキハ政府ハ遲延日數一日ニ付一俵(呎)金壹錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收シ又ハ賣主ノ負擔ニ於テ民間倉庫ニ寄託スルコトアルベシ

第十三條 賣主受渡米ノ倉庫證券又ハ入庫證書ニ検査合格證ヲ添へ提出スルトキハ政府ハ之ヲ引換ニ現品領收證ヲ交付ス

前項ノ倉庫證券ハ當該倉庫業者ニ於テ賣主ノ負擔ニ屬スル保管料ノ支拂ヲ了シタル旨ヲ證明シタルモノタルコトヲ要ス

第十四條 政府指定ノ民間倉庫ニ入庫シタル受渡米ノ保管料ハ現品領收證發行ノ日ノ屬スル期迄賣主ノ負擔トス但シ神戸市ノ場合ニ限リ其ノ發行ノ日ガ一日又ハ十六日ナルトキハ其ノ日ノ屬スル期ヨリ政府ノ負擔トス

第十五條 政府指定ノ民間倉庫ニ入庫シタル受渡米ノ危險負擔ハ現品領收證ヲ發行シタル日迄賣主ニ屬スルモノトス

第十六條 買入米ノ代價ハ米穀證券ヲ以テ之ヲ支拂フ

米穀證券發行ノ請求ハ現品領收證ノ交付ヲ受ケタル後請求書ニ印鑑一通ヲ添へ之ヲ爲スベシ

書ニ印鑑一通ヲ添へ之ヲ爲スベシ

第十七條 賣主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ受渡期限迄ニ現品ノ受渡ヲ了セザルトキハ遲延シタル數量ニ對シ遲延日數一日ニ付一俵(呎)金貳錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收ス

賣主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ申込ヲ取消シ又ハ契約ヲ解除シタルトキハ申込保證金又ハ契約保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス但シ一部履行ヲ認メタル場合ニ於テハ契約保證金ハ不足部分ニ應ジ之ヲ政府ノ所得トス

保證金ノ納付ヲ免除セラレタル者其ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ申込ヲ取消シ又ハ契約ヲ解除シタルトキハ前項ニ準ジ

政府一俵(呎)ニ付金壹圓ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收ス

前三項ハ政府ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

買入心得書

第一條 買入ノ申込ヲ爲サントスル者ハ受渡ヲ希望スル政府指定倉庫ノ所在地ヲ管理地域トスル米穀事務所ニ米穀統制法施行規則様式第二號ノ買入申込書(正副二通)ヲ提出スベシ

第二條 買入ノ申込ヲ爲サントスル者ハ一俵(呎)ニ付金壹圓以上ノ申込保證金ヲ現金又ハ無記名邦貨國債ヲ以テ納付スベシ

申込保證金ハ契約成立ト同時ニ之ヲ契約保證金ニ充當ス

契約保證金ハ現金ニ限り之ヲ買入代金ニ充當ス

第三條 一口ノ買受申込數量ハ同一銘柄百俵以上タルコトヲ要ス

第四條 買入ノ申込ヲ爲サントスル者買入米穀ノ銘柄及等級ニ付希望ノ順位アル場合ニ於テハ其ノ順位ヲ、申込ヲ爲シタル銘柄及等級以外ノ米穀ノ買入ヲ希望セザル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ買入申込書ニ記載スベシ

第五條 政府賣渡ヲ決定シタルトキハ受渡ノ場所及期日ヲ定メ之ヲ申込者ニ通知ス

前項ノ期日ハ賣渡決定ノ通知ヲ發スル日ノ翌日ヨリ起算シ十五日以内ニ於テ之ヲ定ム

第六條 前條ノ通知ヲ受ケタル申込者ハ遲滞ナク請書（正副二通）ヲ提出シ代金ヲ納入シタル上指定期限迄ニ現品ノ引渡ヲ受クベシ

前項ノ代金ノ納入ハ納入告知書ニ依リ日本銀行本支店又ハ其ノ代理店ニ之ヲ爲スベシ

第七條 現品ノ引渡ハ在姿ノ儘トシ政府倉庫ニ保管セラルルモノニ在リテハ米穀出庫證、民間倉庫ニ寄託セラルルモノニ在リテハ荷渡指圖書ニ依リ之ヲ行フ

第八條 買主政府倉庫ニ保管セラルル米穀ノ引渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ指定期限迄ニ之ヲ搬出スルコトヲ要ス

前項ノ搬出ニ付テハ政府ノ指定スル者ヲシテ倉出、貯積其ノ他ノ荷役ヲ爲サシムルコトヲ要ス

買主期限迄ニ第一項ノ搬出ヲ爲サザルトキハ政府ハ一俵（呎）ニ付一日金貳錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收スルコトアルベシ搬出ヲ了セザルトキ其ノ未了部分ニ付亦同ジ

第九條 民間倉庫ニ寄託セラルル買受米ノ保管料ハ荷渡指圖書發行ノ日ノ屬スル期迄政府ノ負擔トス但シ神戸市ノ場合ニ限り其ノ發行ノ日ガ一日又ハ十六日ナルトキハ其ノ日ノ屬スル期ヨリ買主ノ負擔トス

買主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ期限迄ニ前項ノ買受米ノ引渡ヲ受ケザルトキハ期限ノ日ノ屬スル期以後ノ保管料ハ買主ノ負擔トス

第十條 民間倉庫ニ寄託セラルル買受米ノ危險負擔ハ荷渡指圖書ヲ發行シタル日ヨリ買主ニ屬スルモノトス

第十一條 買主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ期限迄ニ代金ヲ納入セザルトキハ政府ハ一俵（呎）ニ付一日金貳錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收スルコトアルベシ

第十二條 買主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ申込ヲ取消シ又ハ契約ヲ解除シタルトキハ申込保證金又ハ契約保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

●米穀買入手續

（大正十年五月三十一日 農商務省告示第百二十三號）

米穀買入手續左ノ通定ム

米穀買入手續

- 一 賣却申込ヲ爲サントスル者ハ様式第一號ニ準シ銘柄、等級及數量ヲ記載シタル書面ニ一石ニ付金貳圓ノ申込保證金（現金又ハ無記名國債）及印鑑二通ヲ添ヘ買入事務所ニ之ヲ差出スヘシ尙公共團體等ニシテ賣却ニ付議決ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
- 前項ノ保證金ハ公共團體、産業組合及農業倉庫業者ニ在リテハ之ヲ要セズ
- 第一項ノ保證金ハ契約締結ノ際契約保證金ニ之ヲ充當ス
- 二 買入米ハ二重俵裝ノモノニ限ル
- 三 買入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ指定期日迄ニ様式第二號ノ請書ヲ買入事務所ニ差出スヘシ
- 四 請書ヲ差出シタル者ハ指定期日迄ニ現品ヲ指定倉庫ニ納メ遲滞ナク様式第三號ノ倉入濟通知書ヲ差出スヘシ
- 五 買入米ハ五十石ヲ限度トシテ分納ヲ認ムルコトアルヘシ
- 六 銘柄、等級及俵數並濡米及亂俵ノ有無ハ全部ニ付之ヲ點檢ス
- 品質及容量ハ總量ノ約百分ノ三ニ付之ヲ検査ス若シ不合格

品アル場合ニ於テハ更ニ總量ノ約百分ノ三ニ付之ヲ検査シ不合格品アルトキハ全部ヲ不合格トス

七 検査ノ結果ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

八 買入米ノ検査ヲ了リタルトキハ買入事務所ハ倉荷證券ト引換ニ現品領收書ヲ交付ス

九 道府縣内ノ產地ニ依リ買入價格ヲ異ニスル場合ニ於テ道府縣米穀検査規則若ハ之ニ準スルモノニ依ル產地名ノ表示ナキモノ又ハ其ノ表示不明ナルモノノ買入價格ハ其ノ道府縣同等級産米ノ最低買入價格ニ依ル

十 買入代價ノ支拂ニ關シテハ米穀證券發行規程ノ定ムル所ニ依ル

米穀證券ノ請求書ハ様式第四號ニ依ルヘシ

十一 賣主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ指定期日迄ニ受渡ヲ了セザルトキハ受渡未了ノ部分ニ對シ遲延日數一日毎ニ一石ニ付金十錢ノ違約金ヲ徵收ス

十二 賣主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トス

内 譯

銘柄	等級	生産地	數量		代價		
			俵數	石數	石當單價	金額	
		郡市	村町			圓	圓
計							

(二) 引渡期日及場所

引渡期日	引渡數量		引渡場所
	俵數	石數	
月 日			倉庫

(三) 契約保證金 圓也

但シ下記ノ申込保證金ヲ以テ充當ス

現 金		圓
國 債		
計		

様式第三號

倉 入 濟 通 知 書

大正 年 月 日

買入事務所御中

住所 賣主氏 名

下記ノ通倉入濟ニ付此段及御通知候也

倉入月日	銘柄	等級	生産地	數量	
				俵數	石數
			郡市	村町	
計					

上記ノ通相違ナキコトヲ證明候也

倉 庫 名

様式第一號

賣 渡 申 込 書

大正 年 月 日

買入事務所御中

住所 申込人氏 名

大正十年農商務省告示第百十四號及大正十年農商務省告示第百二十三號ノ米穀買入ニ關スル各條項承諾ノ上下記ノ物件賣渡此段申込候也

銘柄	等級	生産地	數量	
			俵數	石數
		郡市	村町	
計				

保 證 金	現 金		圓
	國 債		
計			

參 考 事 項

引渡希望ノ時期	米ノ所在地	横濱ノ倉庫渡シ希望ノ者ハ其旨
	郡市	村町

- 〔注意〕 (一) 生産地ハ郡町村名ヲ記載スヘシ
 (二) 東京ノ買入事務所ニ申込ム者ニ限リ横濱ノ倉庫渡シノ希望アリヤ否ヤヲ記載スヘシ

様式第二號

印 紙 一萬分ノ五

請 書

大正 年 月 日

買入事務所御中

住所 賣主氏 名

大正十年農商務省告示第百十四號及大正十年農商務省告示第百二十三號ノ米穀買入ニ關スル各條項承諾ノ上下記ノ通賣渡候ニ付テハ無相違履行可仕請書差出候也

- (一) 總石數 石
 此代價金 圓 錢也

様式第四號

米穀證券請求書

一 額面總金額 圓 錢也
内譯

額面金額	枚	數	發行月日	取扱店名	備考
圓					

右大正 年 月 日 申込決定第 號ニ依ル米穀證券及請求候也

大正 年 月 日

住所

名 氏
(商號其他ノ名稱)

買入事務所御中

備考

一 圓以下ノ端數アルトキハ最後ノ一枚ニ合併スルコト

一 發行月日ハ米穀ノ受渡ヲ爲シタル日トスルコト
一 印章ハ實買契約ニ使用シタルモノト同一ノモノヲ押捺スルコト

額面金額算出明細表

銘	柄	數	量	石	當單價	金額
				石		
					圓	
						圓
計						

●米穀ノ買入代價ニ對シ金利加算ニ

關スル件 (昭和八年十二月二十七日 勅令第三百二十三號)

朕米穀ノ買入代價ニ對シ金利加算ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀統制法第三條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入ヲ爲スニ當リ其ノ代價ヲ證券ヲ以テ交付スル場合ニ於テハ同法第二條ノ規定ニ依ル最低價格(米穀統制法施行令第八條ノ規定ニ依リ代金ヲ

定メタルトキハ其ノ代金)ニ證券ノ發行ノ日ヨリ償還ノ日迄ノ金利ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノヲ以テ米穀ノ買入代價ト爲スコトヲ得
前項ノ金利ハ米穀供給調節特別會計法第四條ノ規定ニ依リ該證券ニ付政府ノ定ムル割引歩合トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●米穀自治管理法 (昭和十一年五月二十八日 法律第二十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル米穀自治管理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀自治管理法

- 第一條 本法ハ内地、朝鮮及臺灣ヲ通ズル過剩米穀ヲ統制スル爲内地、朝鮮及臺灣ニ於テ米穀ノ自治管理ヲ行ハシムルコトヲ目的トス
- 第二條 米穀生産者、土地ニ付權利ヲ有スル者ニシテ米穀ヲ小作料トシテ受クルモノ及命令ヲ以テ指定スル之ニ準ズル者ハ米穀統制組合ヲ設立スルコトヲ得
- 第三條 米穀統制組合ハ法人トシ第一條ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的トス
- 第四條 米穀統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ニ限り

第一類 法規、第七章 米穀統制法關係

之ヲ行フモノトス

- 一 第四十三條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ組合ニ於テ統制スベキ米穀ノ數量ヲ組合員ニ對シ割當ツルコト
- 二 組合ニ於テ統制スベキ米穀ヲ貯藏スルコト
- 三 前號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付組合員ニ資金ノ融通又ハ其ノ斡旋ヲ爲スコト
- 四 第四十九條、第五十條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ米穀ノ賣渡ヲ爲スコト
- 五 貯藏米穀ノ倉庫證券ヲ發行スルコト
- 六 第二號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニシテ貯藏ヲ解除シタルモノヲ委託ヲ受ケ販賣又ハ保管シ其ノ他米穀ノ自治管理ニ附帶シ必要ナル行爲ヲ爲スコト
- 前項第五號ノ倉庫證券及其ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 米穀統制組合ノ地區ハ内地ニ在リテハ市町村、朝鮮ニ在リテハ府郡島、臺灣ニ在リテハ廳又ハ郡市ノ區域ニ依ル
- 特別ノ事情アルトキハ米穀統制組合ノ地區ハ前項ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外市町村等ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル米穀統制組合ノ地區モ亦之ニ應ジテ増減アリタルモノトス

第六條 米穀統制組合ノ名稱中ニハ米穀統制組合ナル文字ヲ用フベシ

本法ニ依リ設立シタル米穀統制組合ニ非ザレバ其ノ名稱中ニ米穀統制組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第七條 米穀統制組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ第二條ニ掲グル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第八條 米穀統制組合ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第九條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ米穀統制組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ
設立ヲ命ゼラレタル者命令ノ定ムル期間内ニ設立ノ認可ヲ

申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 米穀統制組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ遲滞ナク組合設立ノ旨並ニ組合長及副組合長ノ住所及氏名ヲ告示スベシ

第十一條 米穀統制組合成立シタルトキハ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合員トス

第二條ニ該當スル者ニシテ第七條ノ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有セザルモノハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ米穀統制組合ニ加入スルコトヲ得

第十二條 米穀統制組合ニ總代會ヲ置ク

總代會ハ組合長、副組合長及總代ヲ以テ之ヲ組織ス

第十三條 米穀統制組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ總代ヲ選舉スベシ

第十四條 左ニ掲グル事項ハ總代會ノ議決ヲ經ベシ
一 收支豫算
二 經費ノ分賦收入方法
三 事業報告及收支決算
四 借入金
五 定款ノ變更

六 第三十七條ニ於テ準用スル第八條ノ同意
七 第四十三條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ割當

前項第一號、第二號、第四號及第五號ニ掲グル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 定款ノ變更ハ總代會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

定款ノ變更ガ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依リ議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラルベキ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外總代會及役員ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 特別ノ事情アル米穀統制組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ設ケズ組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

總代會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第十八條 米穀統制組合ニ左ノ役員ヲ置ク
組合長 一人
副組合長 一人
評議員 數人

第一類 法規、第七章 米穀統制法關係

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合長及副組合長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

役員ノ選任及解任ハ總代會ニ於テ之ヲ行フ

役員ノ解任並ニ第二項但書ノ規定ニ依リ組合長及副組合長ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合長ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ行政官廳ハ總代ヲ指定シ組合長ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

組合長及副組合長ノ選任及退任ハ第四項及第二十六條ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳第四項ノ認可、第五項ノ指定若ハ第二十六條ノ解任ヲ爲シ又ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示スベシ

第十九條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應ジ並ニ組合ノ業務執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十條 總代會ノ議決ヲ經ベキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總代會成立セザルトキ又ハ之ヲ召集スルノ暇ナキトキハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外組合長之ヲ專決處

分スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ組合長ハ次ノ總代會ニ之ヲ報告スベシ

第二十一條 米穀統制組合ハ第十八條ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ職員ヲ置クコトヲ得

前項ノ職員ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

米穀統制組合ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ米穀統制組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合長ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀統制組合ノ經費及過怠金ノ分賦徵收、滯納處分、先取特權ノ順位及時効ニ關シテハ命令ノ定

ムル所ニ依ル

經費ノ分賦及過怠金ノ徵收ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟(朝鮮ニ在リテハ異議ノ申立、臺灣ニ在リテハ異議ノ申立及訴願ニ限ル)ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十四條 使用料及手数料ノ徵收、米穀ノ寄託其ノ他米穀統制組合ト組合員トノ間ニ於ケル權利義務ニ關シテハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 行政官廳ハ米穀統制組合ニ對シ組合ノ事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、組合ノ業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 行政官廳ハ米穀統制組合ノ決議若ハ選舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議、選舉若ハ當選ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、總代ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 米穀統制組合解散又ハ合併ヲ爲サントスルトキ

ハ總代會ノ議決ヲ經且其ノ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得尙合併ノ場合ニ在リテハ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

米穀統制組合分割ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ準ズル議決及同意ノ外分割ノ各組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條及第十五條第一項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外解散、合併又ハ分割ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 米穀ヲ取扱フ販賣組合(以下米穀販賣組合ト稱ス)ノ存スル市町村ニ於テ特別ノ事情アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ

米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ナキ市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第二十九條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ團體員ニ非ズシテ其ノ區域内ニ於テ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體員ニ準ジ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フ團體ハ前項ニ規定スル者ヨリ團體員ノ例ニ準ジ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ於ケル前項ノ團體ノ監督及總會又ハ總代會ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ヲ設クルコトヲ得

第三十一條 米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ圖リ米穀ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ地方米穀統制組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第三十二條 地方米穀統制組合聯合會ハ法人トス

第三十三條 地方米穀統制組合聯合會ノ地區ハ内地ニ在リテハ道府縣、朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州ノ區域ニ依ル

第三十四條 地方米穀統制組合聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十五條 地方米穀統制組合聯合會ノ議員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 地方米穀統制組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長

副會長

評議員

役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依ル會長及副會長ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 第四條第一項、第六條、第八條乃至第十條、第十一條第一項、第十四條乃至第十六條、第十八條第三項乃至第十七條、第十九條乃至第二十一條、第二十二條第一項及第二十三條乃至第二十六條ノ規定竝ニ第二十七條中解散ニ關スル規定ハ地方米穀統制組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ道府縣ヲ區域トスル米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會(以下道府縣米穀販賣組合聯合會ト稱ス)ハ地方米穀統制組合聯合會

ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十九條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ所屬組合ニ準ジ第三十七條ニ於テ準用スル第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

第四十條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第四十一條 政府ハ毎年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀需給推算ヲ行ヒ米穀ノ供給過剩ナリト認ムルトキハ其ノ過剩數量ノ範圍内ニ於テ定ムル一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

前項ノ米穀需給推算ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移出

數量ノ増加趨勢ノ外ニ米穀管外移出數量、米穀收穫ノ豊凶等ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

第四十二條 前條第一項ノ米穀需給推算及統制スベキ米穀ノ數量竝ニ同條第三項ノ割當ノ割合ニ付テハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム

米穀自治管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 政府ハ第四十一條ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ付定マリタル數量ヲ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ニ對シ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ジ、地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ團體員及第二十九條ニ規定スル者ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムベキ米穀ノ數量ノ割當ニ付テハ前二項ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依リ割當ヲ爲サザル場合ニ於テハ政府ハ之ニ代リ割當ヲ爲

スコトヲ得

第四十五條 前二條ノ割當ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ貯藏スルコトヲ要ス但シ其ノ貯藏ヲ解除シタルモノ及第四十九條又ハ第五十條ノ規定ニ依リ政府ノ買入ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員ハ第四十三條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ寄託スルコトヲ要ス第二十九條及第三十條ニ規定スル者ニ付亦同ジ

第四十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ第二項ノ場合及勅令ノ定ムル場合ヲ除クノ外第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ爲スコトヲ得ズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 政府ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ政府ハ之ニ代リ賣渡ノ申込アリタル場合

ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮及臺灣ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ定メタル價格トス

第五十條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニシテ當該米穀年度ヲ超ユルモ其ノ貯藏ヲ解除セラレザルモノニ付買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 勅令ヲ以テ指定スル地ニ於ケル米穀取扱業者ハ米穀商統制組合ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ米穀取扱業者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 米穀商統制組合ハ法人トシ第一條ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的トス

第五十三條 第四條第一項、第六條及第八條乃至第二十七條ノ規定ハ米穀商統制組合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀取扱業者ノ組織スル商業組合又ハ重要物産同業組合法若ハ朝鮮重要物産同業組合法ニ依リ同業組合ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀商統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ第四十一條ノ統制ヲ爲スモ米穀ノ供給過剩ニシテ米價ガ米穀統制法ニ基キテ發スル命令ニ定ムル標準最低價格ヲ下ラントスル虞アリト認ムルトキハ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ前條ノ一定數量ヲ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ズ

第四十三條乃至第四十八條及第五十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 政府ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ前條ノ規定ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮米又ハ臺灣米ニ在リテハ勅令ノ定ムル一定價格以內ニ於テ時價ニ準據シテ定メタル價格トス

第五十八條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第十二條、第十八條、第十九條及第三十六條ノ規定(第三十七條又ハ第五十三條ニ於

テ準用スル場合ヲ含ム)ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十九條 地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザルトキ亦同ジ

第六十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第六十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體第四十六條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキハ其ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ組合又ハ團體第四十八條第一項ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

第六十二條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體、地方米

穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員、第二十一條ノ職員、總代、議員、組合員又ハ代議員本法ニ依リ割當又ハ貯藏ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十三條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六十四條 第四十九條、第五十條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第五十七條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計屬ニセシム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年九月勅令第三二四號ヲ以テ同年九月二十日ヨリ施行)

第四十一條第一項ニ規定スル一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ當分ノ内同條第三項ノ規定ニ拘ラズ内地百分ノ三十五、朝鮮百分ノ四十三、臺灣百分ノ二十二トス但シ政府ハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀收穫ノ豊凶等ニ依リ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ變更スルコトヲ妨グズ

●米穀自治管理法施行令(昭和十一年九月十六日勅令第三百二十五號)

朕米穀自治管理法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀自治管理法施行令

第一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四條第一項第五號ノ倉庫證券(自治管理倉庫證券)ヲ發行セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ寄託者ノ請求ニ依リ寄託物ノ自治管理倉庫證券ヲ交付スルトヲ要ス

商法第三百八十三條ノ二第二項及第三百八十三條ノ三ノ規定ハ自治管理倉庫證券ニ之ヲ準用ス

第三條 自治管理倉庫證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ發行

者之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 自治管理倉庫證券ナル文字
- 二 寄託ヲ受ケタル米穀ノ種類、銘柄、等級、數量並ニ其ノ荷造ノ種類、個數及記號
- 三 寄託者ノ氏名又ハ名稱
- 四 保管ノ場所
- 五 第二十一條ノ規定ニ依リ受寄物ヲ再保管セシメタルトキハ再保管者ノ氏名又ハ名稱
- 六 保管料ヲ徵收スルトキハ其ノ保管料
- 七 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ保險金額、保險期間及保險者ノ商號
- 八 證券ノ作成地及作成ノ年月日

第四條 自治管理倉庫證券ハ記名式ナルコトヲ要ス

自治管理倉庫證券ノ所持人ハ證券ノ發行者ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得ズ

前項ノ承諾ヲ爲シタル發行者ハ證券ニ其ノ旨ヲ記載スルトヲ要ス

第五條 商法第三百七十五條第一項、第三百七十六條及第三百八十一條乃至第三百八十三條ノ規定ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ自治管理倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 地方長官ハ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル決議若ハ役員ノ行爲又ハ第十三條ノ規定(第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ總代ノ選舉ガ法令、定款若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議又ハ總代ノ選舉若ハ當選ヲ取消シ、改選ヲ命ジ又ハ其ノ事業ヲ停止スルコトヲ得

地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ第七條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六條 自治管理倉庫證券ノ所持人ハ其ノ米穀ニ付米穀自治管理法第四十八條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ貯藏ノ解除アリタルトキハ證券ノ發行者ニ對シ其ノ證券ニ貯藏ノ解除アリタル旨ノ記載ヲ請求スルコトヲ得

自治管理倉庫證券ノ所持人證券ニ前項ノ記載ヲ受ケタルトキハ第四條第二項ノ承諾ヲ得ズシテ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ米穀販賣組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ヲ其ノ組合員トスルモノニ限リ米穀自治管理法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ地方ノ事情及其ノ組合ノ事業ノ狀況等ヲ參酌シテ之ヲ爲スベシ

地方長官ハ市農會又ハ町村農會ニ對シ其ノ市町村ニ於テ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ナキ場合ニ限リ米穀自治管理法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲スコトヲ得

第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 前條ノ許可ヲ受ケタル團體ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ米穀統制組合ノ事業ヲ休止又ハ廢止スルコト

ヲ得ズ

第十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル左ニ掲グル事項ハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 事業報告及收支決算
- 四 借入金(一時借入金ヲ除ク)
- 五 米穀自治管理法第三十七條ニ於テ準用スル同法第八條ノ同意

前項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項各號ニ掲グル事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總會若ハ總代會成立セザルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナ

キトキハ定款又ハ會則ノ定ムル所ニ依リ理事又ハ會長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ理事又ハ會長ハ次ノ總會又ハ總代會ニ之ヲ報告スベシ

第十一條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル收入支出ハ他ノ事業ニ關スル會計ト區分シ之ヲ經理スベシ

第十二條 米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 團體員ニシテ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者

二 米穀自治管理法第二十九條ニ規定スル者

三 地方長官ニ於テ任命シタル特別議員

第十三條 米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 團體員ニシテ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヨリ選出シタル總代

二 米穀自治管理法第二十九條ニ規定スル者ヨリ選出シタル總代

三 地方長官ニ於テ任命シタル特別議員

第十四條 朝鮮及臺灣ニ於テ米穀ヲ取扱フ産業組合又ハ農會

米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ付テハ第七條第一項第二項及第八條乃至前條ノ規定ニ準ジ朝鮮總督及臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 地方長官ハ道府縣米穀販賣組合聯合會ニシテ其ノ所屬組合中米穀統制組合ノ事業ヲ行フ組合ガ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ノ二分ノ一以上ニ達スルモノニ限リ米穀自治管理法第三十八條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラズ農林大臣ノ認可ヲ得テ米穀自治管理法第三十八條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スコトヲ得

第七條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第八條及第九條ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第十七條 米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 所屬組合ニシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ代表者

二 其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズンテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者

三 農林大臣ニ於テ任命シタル特別議員

第十八條 米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 所屬組合ニシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ代表者ヨリ選出シタル總代

二 其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズンテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者ヨリ選出シタル總代

三 農林大臣ニ於テ任命シタル特別議員

第十九條 米穀自治管理法第四十一條第一項ノ米穀需給推算ハ毎年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀豫想收穫高(臺灣ノ第一期作ニ付テハ推定高)、十一月一日ノ米穀現在高、過去ノ消費狀況ヲ參酌シタル米穀消費見込高及次ノ米穀年度ニ持越サルルヲ適當ト認ムル米穀ノ數量ヲ基準トシテ之ヲ行フ

第二十條 朝鮮總督又ハ臺灣總督ハ地方米穀統制組合聯合會ナキトキハ統制セシムベキ米穀ノ數量ヲ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ直接割當ツルコトヲ得

第二十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ米穀自治管理法第四十七條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ寄託ヲ受ケ貯藏スベキ米穀ヲ其ノ責任ヲ以テ再保管セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再保管ヲ爲スコトヲ得ル者ハ命令ヲ以テ定ムル者ニ限ル

再保管ノ目的タル米穀ニ付發行セラレタル倉庫證券アル場合ニ於テハ當該倉庫證券ヲ發行シタル者ニ之ヲ返還シタル後ニ非ザレバ自治管理倉庫證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 米穀自治管理法第四十七條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ寄託ヲ受ケ貯藏スベキ米穀ハ他ノ米穀ト區分シ之ヲ保管スベシ

第二十三條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ米穀自治管理法第四十六條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ農林大臣、朝鮮總督又ハ臺灣總督、第四號ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ其ノ貯藏ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一 米穀統制法施行令第十二條但書ノ平均價格ガ同令第二條ノ標準最低價格ノ上値一割ニ相當スル價格以上ニ在ルトキ

二 貯藏ヲ開始シタル米穀年度ヲ越エタルトキ

三 災害、事變其ノ他避クベカラザル事由アル場合ニ於テ特ニ必要アルトキ

四 損傷シタル米穀ニシテ處分ヲ要スルモノアルトキ

第二十四條 農林大臣、朝鮮總督又ハ臺灣總督前條第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ米穀自治管理法第四十六條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ於テ貯藏シタル米穀ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條 米穀自治管理法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル買入價格ハ朝鮮米又ハ臺灣米ノ生産費、運賃諸掛及米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ其ノ價格ハ米穀統制法施行令第二條ノ標準最低價格ヨリ内地米トノ格差及運賃諸掛等ニ相當スル額ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十六條 米穀自治管理法第五十條第一項(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ買入價格ハ同法第四十九條第二項(同法第五十條第一項適用ノ場合)又ハ第五十七條第二項(同法第五十條第一項適用ノ場合)ノ買入價格ヨリ古米格ニ付爲シタル補償額ヲ控除シタル額トス但シ古米格ニ付補償ヲ爲サザル場合ニ於テハ米穀自治管理法第四十九條第二項又ハ第五十七條第二項ノ買入價格ヲ以テ其ノ買入價格トス

第二十七條 米穀自治管理法第五十一條第一項ノ規定ニ依ル

米穀取扱業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定數量ノ米穀ヲ取扱フ卸賣商(問屋ヲ含ム)ニ限ル

第二十八條 米穀自治管理法第五十五條ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ米穀ノ統制ヲ命ズルコトヲ得ルハ米穀統制法施行令第十二條第一項但書ノ平均價格ガ同令第二條ノ標準最低價格ヲ下ラントスル處アリト認ムルトキニ限ル

第二十九條 米穀自治管理法第五十七條第二項ノ規定ニ依ル朝鮮米又ハ臺灣米ノ買入價格ハ米穀統制法施行令第二條ノ標準最低價格、内地米トノ格差、運賃諸掛等ヲ參酌シテ農林大臣ノ定ムル價格ノ範圍内ニ於テ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第三十條 第七條乃至第十四條ノ規定ハ米穀商統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第三十一條 米穀統制組合又ハ米穀商統制組合ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ米穀統制組合又ハ米穀商統制組合ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

制組合又ハ米穀商統制組合ヲ經由スベシ

第三十四條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員(米穀自治管理法第二十九條ニ規定スル者ヲ含ム)又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員(米穀自治管理法第五十四條第二項ニ於テ準用スル同法第二十九條ニ規定スル者ヲ含ム)ニシテ米穀自治管理法第四十三條第二項ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 内地及臺灣ニ在リテハ前條ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合

第三十三條 米穀自治管理法第二十二條第二項又ハ第三項ノ規定(同法第五十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

米穀自治管理法第二十二條第三項ノ規定ニ依ル處分ニ付地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル米穀統

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ内地及臺灣ニ在リテハ其ノ組合ノ組合長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滞ナク決定ヲ爲シ朝鮮ニ在リテハ其ノ組合ノ組合長ノ申請ニ依リ地方長官遲滞ナク決定ヲ爲スベシ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内地及臺灣ニ在リテハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内地ニ在リテハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴シ、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル米穀統制組合又ハ米穀商統制組合ヲ經由スベシ

合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ヲ經由スベシ

第三十六條 異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ第三十四條第一項ノ規定ニ依ル異議ノ申立ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ七日以内ニ之ヲ爲スベシ
異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ米穀自治管理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年九月二十日ヨリ施行）

●米穀自治管理法施行規則

（昭和十一年九月十六日）
（農林省令第二十五號）

米穀自治管理法施行規則左ノ通定ム

米穀自治管理法施行規則

第一條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ貯藏米穀保管ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
前項ノ規程ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 保管料ニ關スル事項
- 二 保管期間ニ關スル事項
- 三 入庫及出庫ニ關スル事項
- 四 證券ヲ發行スル場合ニ在リテハ證券發行ニ關スル事項
- 五 保險ニ關スル事項

第二條 自治管理倉庫證券發行ノ認可申請書ニハ定款又ハ會則及前條ノ保管ニ關スル規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

- 一 申請ノ理由
- 二 倉庫ノ所在地
- 三 倉庫ノ棟數、建坪、構造及收容力
- 四 倉庫及敷地ノ使用ノ權利ニ關スル事項
- 五 附屬ノ設備ニ關スル事項

前項第二號及第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三條 市町村ノ廢置分合又ハ之ニ伴フ境界變更アリタル場合ニ於テハ米穀自治管理法第五條第一項ノ區域ノ増減ニ拘ラズ其ノ區域ヲ地區トスル米穀統制組合ノ地區ハ之ニ應ジテ増減スルトコトナシ

第四條 米穀統制組合ハ左ニ掲グル者ヲ以テ其ノ組合員トス但シ地方長官地方ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ農

林大臣ノ認可ヲ受ケテ區域ヲ定メ第一號乃至第五號ノ組合員タル資格ヲ變更スルコトヲ得

- 一 其ノ地區内ニ於テ水稻田五段歩以上ヲ自作スル者
 - 二 其ノ地區内ニ於テ水稻田一町歩以上ヲ小作スル者
 - 三 其ノ地區内ニ於ケル水稻田一町歩以上ニ付權利ヲ有シ米穀ヲ小作料トシテ受クル者
 - 四 其ノ地區内ニ於テ水稻田ヲ自作及小作スル者ニシテ其ノ自作スル面積ノ二倍ニ相當スル面積ト其ノ小作スル面積トノ合計ガ一町歩以上ニ達スルモノ
 - 五 其ノ地區内ニ於テ水稻田ヲ自作若ハ小作シ又ハ水稻田ヲ自作及小作スル者ニシテ其ノ地區内ニ於ケル水稻田ニ付權利ヲ有シ米穀ヲ小作料トシテ受クルモノノ中其ノ水稻田ノ面積ノ合計ガ一町歩以上ニ達スルモノ但シ自作スル面積ニ付テハ其ノ二倍ニ相當スル面積ヲ以テ計算ス
 - 六 前各號ニ掲グル者ニ準ズルモノトシテ農林大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ指定シタルモノ
- 地方長官前項但書ノ規定ニ依ル變更ヲ爲シタルトキ又ハ前項第六號ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ
- 第五條** 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ニ居住セザル組合員ヲシテ其ノ地區内ニ代理人ヲ設ケシムルコトヲ得

米穀統制組合ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得

第六條 米穀統制組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ地區、創立費用、收支概算及經費ノ分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

第七條 創立總會ハ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 發起人創立總會ヲ招集セントスルトキハ少クトモ十日日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スベシ

第九條 創立總會ノ議事ハ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ議定スルコトヲ得ズ

創立總會ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス
前項ノ規定ニ依ル委任ヲ受ケタル者ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ
創立總會ノ議長ハ出席者中ヨリ之ヲ互選スベシ
第三十二條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第十條 米穀統制組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第十一條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク設立認可申請書ヲ地方長官ニ差出スベシ

前項ノ認可申請書ニハ定款、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事録ノ謄本ヲ添付スベシ

米穀自治管理法第五條第二項ノ場合ニ於テハ前項ニ掲グルモノノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

第十二條 地方長官米穀統制組合ノ設立ヲ命ジタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ告示スベシ

一 地區

二 創立委員ノ氏名及住所

第十三條 創立委員ハ組合員タル資格ヲ要スル者ニ創立費用、收支概算及經費ノ分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ遲滞ナク創立總會ヲ招集シ前條ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ設立認可申請書ヲ地方長官ニ差出スベシ

第七條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 米穀統制組合ノ定款ニハ米穀自治管理法及同法ニ基キテ發スル命令ニ規定スルモノヲ除クノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 地區

四 事務所ノ所在地

五 事業及其ノ執行ニ關スル規定

六 總代及總代會ニ關スル規定

七 役員ニ關スル規定

八 會計ニ關スル規定

第十五條 米穀統制組合設立當時ノ役員ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第十六條 米穀統制組合ハ組合員名簿ヲ調製シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クベシ

前項ノ組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 組合員ノ氏名及住所

二 組合員タル資格

三 代理人ノ氏名及住所

第十七條 米穀自治管理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ米穀統制組合ニ加入シタル者ハ總代會ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ組合ヨリ脱退スルコトヲ得ズ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ米穀統制組合ノ總代タルコトヲ得ズ

一 禁治産者又ハ準禁治産者

二 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十九條 總代ノ選舉ニ關スル事務ハ組合長之ヲ管理ス

選舉ハ單記無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十條 總代ノ選舉ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ選出スベキ總代ノ定數ヲ以テ其ノ有効投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジトキハ組合長又ハ其ノ指名シタル者抽籤シテ當選者ヲ定ムベシ

第二十一條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外總代ノ選舉ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第二十二條 總代ノ選舉法令又ハ定款ニ違反シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ選舉人ハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ當選決定ノ日ヨリ三十日以内ニ選舉又ハ當選ノ取消ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得選舉人前項ノ申立ヲ爲ストキハ米穀統制組合ヲ經由シテ申

立書ヲ地方長官ニ差出スベシ此ノ場合ニ於テハ米穀統制組合ハ意見ヲ附シ七日以内ニ地方長官ニ之ヲ進達スベシ

總代ハ選舉又ハ當選ノ取消アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハズ

第二十三條 選舉ノ取消アリタルトキハ米穀統制組合ハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ

當選ノ取消アリタルトキハ組合長ハ直ニ第二十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムベシ

第二十四條 總代ノ任期ハ定款ノ定ムル所ニ依リ事業年度ニ從ヒ四年以内トス但シ補闕ノ總代ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トシ新ニ設ケタル總代ノ任期ハ他ノ總代ノ殘任期間トス

第二十五條 總代會ハ組合長之ヲ招集ス

總代會ヲ組織スル者ハ其ノ總數ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後十四日以内ニ總代會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ總代會ヲ招集スルコト能ハザルトキハ地方長官ハ總代ヲ指定シテ總代會ヲ招集セシムルコトヲ得

第二十六條 總代會ヲ招集スルニハ少クトモ七日前ニ會議ノ

目的タル事項、日時及場所ヲ總代會ヲ組織スル者ニ通知スベシ

前項ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十七條 總代會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 總代會ノ議長ハ組合長、組合長事故アルトキハ副組合長ヲ以テ之ニ充ツ組合長及副組合長共ニ事故アルトキ又ハ第二十五條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第二十九條 總代會ハ之ヲ組織スル者ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ但シ同一ノ事項ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タザルトキ又ハ招集ニ應ズルモ出席者定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 總代會ノ議事ハ米穀自治管理法及同法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 總代會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ其ノ總代會ヲ組織スル者ノ意見ヲ徵シ總代會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第三十二條 總代會ノ議長ハ議事録ヲ作り左ニ掲グル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スベシ

- 一 開會ノ日時及場所
- 二 總代會ヲ組織スル者ノ定數及員數
- 三 出席者ノ員數
- 四 議事ノ要領
- 五 議決シタル事項及贊否ノ數

第三十三條 米穀統制組合ノ事業年度ハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

第三十四條 米穀統制組合ノ經費ノ賦課ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員割及貯藏米穀ノ石數割ニ依ルベシ但シ貯藏ヲ爲サザル年度ニ於テハ組合員割ノミニ依ルコトヲ得

前項ノ組合員割ハ一人ニ付金五十錢以内トス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三十五條 米穀統制組合ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年十月二十日迄ニ之ヲ地方長官ニ差出スベシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總代會ノ議決ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ差出スベシ

第三十六條 米穀統制組合ノ定款、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ變更並ニ借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添付スベシ尚借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、借入先及償還

ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第三十七條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總代會ノ承認ヲ受ケ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スベシ

前項ノ書類ニハ當該事業年度末日現在ニ依リ調整シタル財産目錄ヲ添附スベシ

第三十八條 米穀自治管理法第十八條第四項ノ規定ニ依ル組合長及副組合長ノ選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スベシ

第三十九條 第十八條ノ規定ハ米穀統制組合ノ役員ニ之ヲ準用ス

第四十條 役員ノ選任ハ投票ニ依リ之ヲ行フ第十九條乃至第二十三條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

總代會ハ出席者中異議ナキトキハ前項ノ選任ニ付指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選者トスベキヤ否ヲ會議ニ付シ出席者全員ノ同意ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

第四十一條 第二十四條ノ規定ハ米穀統制組合ノ役員ノ任期ニ之ヲ準用ス役員ハ其ノ任期滿了シタルトキト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十二條 第三十五條及第三十六條ノ規定ハ米穀自治管理

法第二十條第一項又ハ米穀自治管理法施行令第十條第三項ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 米穀自治管理法第十四條第一項第五號及第七號ニ掲グル事項ハ組合長之ヲ專決處分スルコトヲ得ズ

第四十四條 第六條乃至第十條ノ規定ハ米穀統制組合ノ合併又ハ分割ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 米穀統制組合分割セントスルトキハ分割ノ各組合ノ權利義務ノ限度ヲ定ムベシ

第四十六條 米穀統制組合ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區ノ増減ニ關スル定款變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ尙合併ノ場合ニ於テハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各組合ノ定款及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第四十七條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル組合ハ第四十五條ノ規定ニ依リテ定マリタル限度ニ於テ從前ノ組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第四十八條 米穀統制組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキ又ハ總代會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同ジ

第五十條 清算人ハ米穀統制組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第五十一條 地方長官必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第五十二條 清算終了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第五十三條 米穀販賣組合又ハ市農會若ハ町村農會ノ米穀自治管理法施行令第七條ノ許可申請書ニハ理由書及定款又ハ會則ノ變更ニ關スル總會又ハ總代會ノ議事録ノ謄本ヲ添付スベシ

第五十四條 地方長官前條ノ團體ニ對シ米穀自治管理法施行令第七條ノ許可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨並ニ團體ノ名稱、區域、理事又ハ會長及副會長ノ氏名及住所ヲ告示スベシ前項ノ規定ニ依リ告示シタル事項ニ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五十五條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法施行令第八條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ休止又ハ廢止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經テ地方長官ニ申請書ヲ差出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ議事録ノ謄本ヲ添付スベシ

第五十六條 地方長官米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ米穀自治管理法施行令第八條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ休止若ハ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ米穀自治管理法施行令第九條ノ規定ニ依リ其ノ事業ヲ停止シ若ハ同令第七條ノ許可ノ取消ヲ爲シタル場合ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五十七條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法ニ關スル事業ニ付テハ米穀統制組合ノ事業年度ニ依ルベシ

第五十八條 米穀自治管理法施行令第十條第一項第四號ノ一時借入金ハ借入ノ日ヨリ一年以内ニ償還スルモノヲ謂フ

第五十九條 第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第六十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ其ノ團體ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有

スル者ガ百人未滿ナル場合又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ總會ニ代ヘ總會ノ議決ニ依ルコトヲ得

第六十一條 第十八條乃至第二十四條ノ規定ハ米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會ニ關シ之ヲ準用ス

第二十五條乃至第三十二條ノ規定ハ米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會又ハ總會ニ關シ之ヲ準用ス

第六十二條 米穀自治管理法第三十五條ノ規定ニ依リ地方米穀統制組合聯合會ノ議員タルベキ者ハ左ニ掲グルモノトス

一 米穀統制組合ノ組合長

二 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ理事但シ理事數人アル場合ニ於テハ理事ノ互選シタル者

三 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ市農會又ハ町村農會ノ會長

第六十三條 第六條乃至第十六條、第二十五條乃至第四十三條、第四十六條中解散ニ關スル規定及第四十八條乃至第五十二條ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第六十四條 第五十三條乃至第五十七條ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第六十五條 米穀自治管理法施行令第十七條及同令第十八條ニ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者トアルハ左ニ掲グルモノトス

一 米穀統制組合ノ組合長

二 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ理事但シ理事數人アル場合ニ於テハ理事ノ互選シタル者

三 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ市農會又ハ町村農會ノ會長

第六十六條 第六十一條第一項ノ規定ハ米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會又ハ總會ニ關シ之ヲ準用ス

第六十七條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ其ノ團體ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ノ數三十未滿ナル場合又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ總會ニ代ヘ總會ノ議決ニ依ルコトヲ得

第六十八條 農林大臣米穀自治管理法第四十三條又ハ同法第五十六條ノ規定ニ依リ割當ヲ爲ス場合ハ地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ區域内ニ於ケル米穀ノ販賣高、生産高、區域外ヘノ移出高等ヲ參酌スルモノトス

前項ノ販賣高ハ前五箇年中ノ中庸作柄ノ年ニ於ケルモノ、生産高ハ第二回米穀豫想收穫高、區域外ヘノ移出高ハ前五箇年平均トス

前項ノ販賣高ハ前五箇年中ノ中庸作柄ノ年ニ於ケルモノ、生産高ハ第二回米穀豫想收穫高、區域外ヘノ移出高ハ前五箇年平均トス

第一項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ内地ヲ區域トスル米穀販賣組合聯合會ノ意見ヲ徵スルモノトス

第六十九條 地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ區域内ニ於ケル米穀ノ販賣高、生産高等ヲ參酌スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ販賣高及生産高ニ之ヲ準用ス

第七十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ團體員ニシテ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者及米穀自治管理法第二十九條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ同條ニ規定スル者ニ對シ割當ツベシ

定款又ハ會則ニ特別ノ規定アル場合ハ前項ニ規定スルモノノ外團體員ニシテ米穀自治管理法第二條ニ該當スル者ニ對シ其ノ申出ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ割當ヲ受クベキ者ノ米穀ノ販賣高等ヲ參酌スベシ此ノ場合ニ於テ優先割當ヲ申出ヅルモノアルトキハ先ヅ其ノ者ニ割當ヲ爲スコト

ヲ得

前項ノ割當ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外一人ニ付概四十石ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七十二條 農林大臣米穀自治管理法第五十六條ノ規定ニ依リ米穀商統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ割當ヲ爲ス場合ハ團體員及米穀自治管理法第五十四條第二項ニ於テ準用スル同法第二十九條ニ規定スル者ノ米穀ノ取扱高、手持高等ヲ參酌スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ米穀商統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ意見ヲ徵スルモノトス

第七十三條 米穀商統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第五十六條第二項ニ於テ準用スル同法第四十三條ノ規定ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ割當ヲ受クベキ者ノ米穀ノ取扱高、手持高等ヲ參酌スベシ

第七十一條第一項後段ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 米穀自治管理法第四十四條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ハ地方長官之ヲ行フ

第六十九條乃至第七十一條、第七十三條及第七十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體

體又ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第七十六條 米穀自治管理法第四十七條(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ寄託ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ指定スル所ニ從ヒ農林大臣ノ定ムル條件ニ適合スル當該年産ノ水稻梗粳ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ定ムル所ニ依リ粳ノ二分ノ一ニ相當スル容量ノ當該年産ノ玄米ニシテ米穀統制法施行令第一條第二項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ告示スル銘柄等級ノモノヲ以テ粳ニ代フルコトヲ得

第七十七條 米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ヨリ割當ヲ受ケタル者前條ノ寄託ヲ爲サザルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ寄託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

第七十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ米穀ノ貯藏ノ解除ヲ

爲サントスルトキハ同條第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ地方長官ヲ經由シテ農林大臣ニ、第四號ノ場合ニ在リテハ地方長官ニ解除ノ許可ヲ申請スベシ

第七十九條 米穀自治管理法施行令第二十五條ノ買入價格ノ標準トナルベキ價格ノ決定ニ付テハ米穀統制法施行令第二條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第八十條 米穀自治管理法施行令第二十七條ノ卸賣商(問屋ヲ含ム)ハ引續キ最近三箇年以上一定數量ノ米穀ヲ取扱ヒタル者トス

前項ノ數量ハ米穀自治管理法第五十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタル地毎ニ農林大臣之ヲ定メ告示ス

第八十一條 本則中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ關スル規定ハ米穀商統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス但シ第七十一條第二項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十二條 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林大臣ニ報告スベシ

- 一 米穀統制組合又ハ米穀商統制組合ノ設立、解散、合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキ
- 二 地方米穀統制組合聯合會ノ設立又ハ解散ノ認可ヲ爲シタルトキ

- 三 米穀自治管理法第九條第三項ノ規定（同法第三十七條及第五十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル處分ヲ爲シタルトキ
- 四 米穀自治管理法第二十五條ノ規定（同法第三十七條及第五十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依リ定款、收支豫算若ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ又ハ米穀自治管理法第二十六條ノ規定（同法第三十七條及第五十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ
- 五 米穀自治管理法施行令第七條（同令第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ同令第十五條ノ許可ヲ爲シタルトキ
- 六 米穀統制組合若ハ米穀商統制組合又ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ其ノ事業ノ休止若ハ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ米穀自治管理法施行令第九條（同令第十六條及第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ處分ヲ爲シタルトキ
- 七 米穀自治管理法施行令第十二條第三號又ハ同令第十三條第三號（同令第二十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ特別議員ヲ任命シタルトキ
- 八 第七十四條ノ規定ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ

行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ割當ヲ爲シタルトキ

九 地方米穀統制組合聯合會ヨリ第七十五條ノ規定ニ依リ届出アリタルトキ

十 米穀自治管理法施行令第二十三條第四號ニ該當スル場合ニ於テ解除ノ許可ヲ爲シタルトキ

附則

本令ハ米穀自治管理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年九月二十日ヨリ施行）

●米穀自治管理法施行令第二十一條ノ再保管ニ關スル件

（昭和十一年十一月十九日）
（農林省令第三十四號）

米穀自治管理法施行令第二十一條ノ再保管ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 米穀自治管理法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ爲スコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 農業倉庫業者、聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ米穀自治管理法施行令第二十

一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ其ノ事業ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出デタルモノ

二 米穀自治管理法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ其ノ事業ト爲スコトニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタル者

タルトキハ同條第二項ノ規定ニ依リ出庫指圖書ノ交付ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ再保管者ハ出庫指圖書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第五條 再保管者第三條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケタル場合ヲ除ク外再保管セシメタル者ノ請求ニ因ラズシテ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●米穀自治管理法ニ依リ寄託スベキ穀ノ銘柄、等級及買入價格

（昭和十一年十二月二十九日）
（農林省告示第四百六十七號）

第三條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體再保管ノ目的タル米穀ニ付貯藏ノ解除アリタルトキハ再保管者及寄託者又ハ自治管理倉庫證券ノ所持人ニ對シ遲滞ナク解除セラレタル米穀ノ銘柄、等級、數量及解除ノ年月日ヲ通知スベシ

前項ノ團體再保管ノ目的タル米穀ニ付解除アリタル場合ニ於テ寄託者又ハ自治管理倉庫證券ノ所持人ノ請求アリタルトキハ再保管者ニ對スル出庫指圖書ヲ交付スベシ但シ自治管理倉庫證券ノ發行アリタル場合ハ之ト引換ニ非ザレバ交付スルコトヲ得ズ

第四條 再保管者前條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケ

米穀自治管理法ニ依リ寄託スベキ穀ハ道府縣ノ検査ニ合格シ左記價格表ニ記載スル銘柄、等級ニ該當スルモノトシ同法第四十九條又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ買入ルベキ場合ノ買入價格ハ左記價格表ノ通トス

米穀自治管理法第四十九條又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ買入ルベキ昭和十一年産内地穀ノ價格（水稻梗穀一石當）

第一類 法規、第七章 米穀統制法關係
一 東京市ニ於ケル價格

銘柄	等級	價格	附記
北海道	旭川管内支	一二・九四	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	所管管内支	一二・八三	
	右管内支	一二・七二	
青森	青森	一三・六〇	愛國種(縦繩赤色ノモノ)三五錢下
	岩手	一四・一五	
宮城	本石	一四・一〇	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	仙南	一三・七七	
秋田	本莊	一四・二一	愛國種(縦繩赤色ノモノ)三五錢下
	地廻	一四・一〇	
山形	庄内山居	一三・九三	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	庄内鶴岡	一四・二一	
福島	庄内縣檢	一三・九三	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	磐城	一三・八二	
會津	磐城	一三・九三	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	代	一三・九三	
會津	代	一三・七七	〔黑石米、弘前米各一五錢上、上北、三戸各郡產米一五錢下〕
	津	一三・七七	

銘柄	等級	價格	附記
茨城	茨城	一三・九九	早證印米ヲ除ク
	栃木	一三・九九	
	群馬	一三・九九	
千葉	千葉	一三・九九	丸ヲ證印米ヲ除ク
	東京	一三・七七	
神奈川	神奈川	一三・七七	小判ヲ七印米ヲ除ク
	新潟	一三・六〇	
富山	富山	一三・六〇	荒川米一五錢上、銀坊主種、農林一號種、陸羽川米一五錢上、銀坊主種、農林一號種、陸羽川米一五錢上、銀坊主種、農林一號種、陸羽川米一五錢上
	山梨	一三・七一	
長野	長野	一三・七七	〔縣檢一、二等粗ハ本表ノ一等ニ、三等粗ハ二等ニ、四等粗ハ三等ニ夫々該當スルモノトス〕
	長野	一三・七七	
銘柄	二 大阪市ニ於ケル價格	一三・一四	〔縣檢一、二等粗ハ本表ノ一等ニ、三等粗ハ二等ニ、四等粗ハ三等ニ夫々該當スルモノトス〕
	一等	一三・〇三	
	二等	一三・〇三	
靜岡	靜岡	一三・九四	旭證印米二五錢上
	石川	一三・六〇	
	石川	一三・六〇	
福井	福井	一三・七七	〔縣檢一、二等粗ハ本表ノ一等ニ、三等粗ハ二等ニ、四等粗ハ三等ニ夫々該當スルモノトス〕
	福井	一三・七七	

第一類 法規、第七章 米穀統制法關係

昭和十二年一月以降十月迄各月ノ價格

一、昭和十二年一月ノ價格ハ本表ノ價格ニ金拾錢ヲ加算シタル額トス

二、昭和十二年二月ノ價格ハ本表ノ價格ニ金貳拾錢ヲ加算シタル額トス

三、昭和十二年三月ヨリ昭和十二年十月迄ノ各月ノ價格ハ本表ノ價格ニ金參拾錢ヲ加算シタル額トス

(附記) 左記ノ地ヲ受渡地トスルトキハ東京市又ハ大阪市ニ於ケル價格ヨリ左記ノ金額ヲ控除ス

一、東京市ニ於ケル場合

受渡地	金額
北海道所在指定倉庫	金七十八錢
青森縣所在指定倉庫	金四十二錢
岩手縣所在指定倉庫	金三十一錢
宮城縣所在指定倉庫	金二十六錢
福島縣所在指定倉庫	金二十二錢
秋田縣所在指定倉庫	金三十五錢
山形縣所在指定倉庫	金二十九錢
新潟縣所在指定倉庫	金二十三錢
富山縣所在指定倉庫	金二十九錢
山梨縣所在指定倉庫	金十五錢

長野縣所在指定倉庫

栃木縣所在指定倉庫

群馬縣所在指定倉庫

茨城縣所在指定倉庫

千葉縣所在指定倉庫

埼玉縣所在指定倉庫

二、大阪市ニ於ケル場合

受渡地	金額
靜岡縣所在指定倉庫	金二十六錢
石川縣所在指定倉庫	金二十三錢
福井縣所在指定倉庫	金二十錢
岐阜縣所在指定倉庫	金十七錢
愛知縣所在指定倉庫	金十八錢
三重縣所在指定倉庫	金十三錢
滋賀縣所在指定倉庫	金八錢
京都府所在指定倉庫	金七錢
兵庫縣所在指定倉庫	金六錢
奈良縣所在指定倉庫	金六錢
和歌山縣所在指定倉庫	金十錢
鳥取縣所在指定倉庫	金二十三錢
島根縣所在指定倉庫	金二十七錢

岡山縣所在指定倉庫	金十七錢
廣島縣所在指定倉庫	金二十三錢
山口縣所在指定倉庫	金三十一錢
德島縣所在指定倉庫	金八錢
香川縣所在指定倉庫	金十一錢
愛媛縣所在指定倉庫	金十五錢
高知縣所在指定倉庫	金十錢
福岡縣所在指定倉庫	金三十一錢
佐賀縣所在指定倉庫	金三十六錢
長崎縣所在指定倉庫	金三十五錢
熊本縣所在指定倉庫	金三十七錢
大分縣所在指定倉庫	金三十錢
宮崎縣所在指定倉庫	金三十八錢
鹿兒島縣所在指定倉庫	金四十三錢

●米穀配給統制法 (昭和十四年四月十二日法律第八十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル米穀配給統制法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀配給統制法

第一條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行ハントスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ク

ベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者命令ノ定ムル所ニ依リ正當ノ事由ナクシテ業務ヲ開始セザルトキ又ハ其ノ業務ヲ休止シタルトキハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三條 政府第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行為ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第四條 政府ハ特ニ必要アル場合米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ヲ爲ス者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ配給統制ニ關スル命令ヲ爲スコトヲ得

政府必要ト認ムルトキハ何時ニテモ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第五條 米穀市場ハ日本米穀株式會社ニ限り之ヲ開設スルコトヲ得

日本米穀株式會社米穀市場ヲ開設セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市場毎ニ政府ノ認可ヲ受クベシ

第六條 米穀市場ノ賣買取引ハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決済ヲ行ハントスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ク

爲スコトヲ得ズ但シ履行期ニ於ケル決濟ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

日本米穀株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀市場ノ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシメ又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得米穀市場ノ賣買取引ノ方法其ノ他賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 米穀市場ノ賣買取引ノ價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ニ準據シテ定ムル價格ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條 米穀市場ノ賣買取引ハ其ノ市場ノ市場員ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

市場員タラントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ免許ヲ受クベシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第二項ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ
一 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ非ザル者

二 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

四 米穀市場ノ市場員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ

五 第二十條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者

六 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ

七 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第十條 米穀市場ノ市場員前條第一號乃至第四號、第六號若ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ日本米穀株式會社ノ役員ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

政府ハ不正ノ手段ニ依リ第八條第二項ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外市場員ノ資格其ノ他市場員ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 市場員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本米穀株式會社ニ身元保證金ヲ納付スベシ

第十三條 日本米穀株式會社ハ米穀市場ノ秩序ヲ保持スル爲メ定款ノ定ムル所ニ依リ市場員ノ業務ヲ停止シ、千圓以内ノ

過怠金ヲ課シ又ハ政府ノ認可ヲ受ケ市場員ヲ除名スルコトヲ得

第十四條 市場員ハ業務ヲ廢止シタル後ト雖モ米穀市場ノ賣買取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍業務ヲ廢止セザルモノト看做ス

市場員死亡シ若ハ解散シ又ハ其ノ免許ヲ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ米穀市場ノ賣買取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テ市場員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ日本米穀株式會社ハ定款ノ定ムル所ニ依リ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 市場員ハ其ノ米穀市場ニ依ラズシテ米穀ノ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於ケル米穀ノ賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 市場員ハ委託ヲ受ケタル米穀市場ノ賣買取引ニ付米穀市場ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタル市場員ハ日本米穀株式會社定款ノ

定ムル所ニ依リ之ニ二週間以上業務停止ヲ命ジ又ハ之ヲ除名スベシ

第十七條 日本米穀株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ米穀市場ノ賣買取引ノ違約ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責ニ任ズルコトヲ得

日本米穀株式會社前項ノ規定ニ依リ損害ヲ賠償シタルトキハ違約者ニ對シ其ノ賠償シタル金額及之ニ要シタル費用ニ付求償權ヲ有ス

第十八條 日本米穀株式會社ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ノ委託ヲ爲シタル者ハ委託契約ニ基キテ生ズル債權ニ關シ其ノ市場員ノ身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第一項ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府ハ市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ニ關シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府必要ト認ムルトキハ何時ニテモ市場員ニ對シ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ市場員ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第二十條 政府市場員ノ行爲ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ

害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第二十一條 日本米穀株式會社ハ米穀ノ配給ノ統制ヲ圖ル爲

必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二十二條 日本米穀株式會社ノ資本ハ三千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十三條 日本米穀株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公

共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務

ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權

ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ

所有スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ日本米穀株式會社ニ出

資スベシ

前項ノ規定ニ依ル出資拂込金ハ米穀需給調節特別會計ノ歲

出トシ該出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ

所屬物件トス

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之

ヲ異ニスルコトヲ得

第二十五條 日本米穀株式會社ニ非ザルモノハ日本米穀株式

會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二十六條 日本米穀株式會社ニ役員トシテ理事長副理事長

各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

理事長ハ日本米穀株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代行シ理事長

缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ日

本米穀株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監査ス

第二十七條 理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五

年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノ

トシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

日本米穀株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職

ヲ退キタル後五箇年間日本米穀株式會社ノ役員ト爲ルコト

ヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ

此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ

職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケ

タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 日本米穀株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 米穀市場ノ開設

二 政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入又ハ賣渡

三 前二號ノ事業ニ附帶スル事業

四 其ノ他本會社ノ目的達成上必要ナル事業

日本米穀株式會社前項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ營マント

スルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

日本米穀株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受

クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止

スルコトヲ得ズ

第三十條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ勅令ヲ以テ

定ムル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ米穀

市場ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ市場員トノ間ニ資金

ノ供與、損益ノ分配其ノ他市場員ノ義務ニ付特別ノ利害關

係ヲ有スルコトヲ得ズ

第三十一條 政府ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併

及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ

生ゼズ

第三十三條 政府ハ日本米穀株式會社監理官ヲ置キ日本米穀

株式會社ノ業務ヲ監視セシム

日本米穀株式會社監理官ハ何時ニテモ日本米穀株式會社ノ

金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日

本米穀株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報

告セシムルコトヲ得

日本米穀株式會社者監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出

席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 日本米穀株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ

得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタ

ル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有ス

ル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本米穀株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益

金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ

對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者

ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ

爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總

株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政

府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所

有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以

テ之ヲ配當スベシ

第三十五條 政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ米穀ノ配給統制

上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 政府ハ日本米穀株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ノ取消、役員ノ改任又ハ事業ノ停止若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 米穀市場ニ類似ノ施設ニ依リ取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ市場員トノ間ニ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第一條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行ヒタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル

者

二 第四條第一項又ハ第十九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四十二條 第四條第二項又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人米穀市場ノ賣買取引又ハ政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入若ハ賣渡ニ關スル職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第四十五條 米穀市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ

虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 米穀市場ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者
二 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第四十七條 米穀市場ニ依ラズシテ米穀市場ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第四十八條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十條又ハ第四十一條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ズ

第四十九條 第四十條及第四十一條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條

日本米穀株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第二十九條第一項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第三十五條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

日本米穀株式會社ノ理事長、副理事長又ハ理事第二十八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十一條 第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本米穀株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ株主ヲ募集スベシ
株式申込證ニハ定款認可ノ年月並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ
設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ
設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
創立總會ニ於テハ第二十七條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ
創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本米穀株式會社理事長ニ引渡スベシ

第五十五條 取引所法ハ米穀ニ關シテハ之ヲ適用セズ
前項ノ規定施行前米穀ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ニ於テ爲シタル米穀ノ賣買取引ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ其ノ取引ヲ結了スルコトヲ得
第一項ノ規定施行前米穀ニ關スル行爲ニシテ取引所法ノ罰則ヲ適用スベカリシモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十六條 日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者ガ本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買取ルモノトス
日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ本法公布ノ際現ニ存スル米穀ヲ賣買取引スル取引所ノ使用人及取引員ニシテ前條ノ規定施行ノ日迄引續キ其ノ業務ニ從事スルモノニ關シ必要ナル措置ヲ爲スモノトス
政府前二項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ米穀取引事業審議委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス
米穀取引事業審議委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録稅法ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル
北海道、府縣及市町村其他之ニ準ズベキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第五十八條 第二十五條ノ規定施行ノ際現ニ日本米穀株式會

社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十一條 規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十九條 昭和十四年四月一日現ニ第一條ノ許可ヲ受クベキ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六十條 取引所稅法中第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第二十一條ノ二 日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル賣買取引ヲ除クノ外日本米穀株式會社及其ノ米穀市場ヲ取引所、其ノ市場員ヲ取引員ト看做シ本法中取引稅ニ關スル規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ニ拘ラス賣買各約定金高ニ對シ萬分ノ一二五ノ稅率ニ依ル
米穀配給統制法第十六條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ第十七條ノ例ニ依ル

日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ第一項ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シタルトキハ第十七條ノ二ノ例ニ依

ル

【參考條文】

昭和八年 三月二十法律第二十四號米穀統制法抄錄
九日公布

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定シ之ヲ告示ス
前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム
政府ハ第一項ノ最低價格ノ決定ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ金利及保管料ヲ加算スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ定メタル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズル虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得

● 穀共同貯藏助成法 (昭和十一年五月二十八日) (法律第二十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル穀共同貯藏助成法ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム

穀共同貯藏助成法

第一條 政府ハ產業組合、農會其ノ他勅令ヲ以テ指定スル團體ガ米穀ノ出廻數量ノ調節又ハ備荒貯蓄ノ目的ヲ以テ穀ヲ貯藏スルトキハ之ヲ助成スル爲貯藏團體ニ對シ米穀需給調

節特別會計ニ屬スル米穀ヲ交付スルコトヲ得
前項ノ交付ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第一項ノ規定ニ依リ交付スル助成米ノ數量ハ毎年三十萬石ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條 政府ハ本法ニ基テ命令ニ違反シタル團體ニ對シ其ノ交付ヲ受ケタル米穀ノ價格ニ相當スル金額ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第三條 本法ニ依ル助成米ノ交付ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年九月勅令第三二八號ヲ以テ同年九月二十日ヨリ施行)

● 米穀ノ應急措置ニ關スル法律ノ施行令

(昭和十一年九月十六日 勅令第三百二十九號)

朕親共同貯藏助成法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

親共同貯藏助成法施行令

第一條 親共同貯藏助成法第一條第一項ノ規定ニ依リ左ノ團體ヲ指定ス

- 一 市町村其ノ他之ニ準ズルモノ
- 二 農事實行組合

三 郷倉組合

第二條 農林大臣親共同貯藏助成法第一條ノ規定ニ依リ米穀ヲ交付セントスル場合ハ其ノ旨、交付スベキ米穀ノ數量ノ限度、助成米交付ノ條件其ノ他交付ニ關シ必要ナル事項ヲ告示ス

第三條 親共同貯藏助成法第一條ノ規定ニ依リ貯藏團體ニ交付スル助成米ノ數量ハ當該團體ノ貯藏スル親ノ數量ノ百分ノ五(親ヲ以テ交付スル場合ハ百分ノ十)ヲ超ユルコトヲ得ズ

附則

本令ハ親共同貯藏助成法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十一年九月二十日ヨリ施行)

● 米穀ノ應急措置ニ關スル法律

(昭和十二年九月十日 法律第九十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル米穀ノ應急措置ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ軍用ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ノ賣渡ヲ行フコトヲ得

前項ノ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ必要ナル數量ノ米穀ヲ保有

本令ハ昭和十二年法律第九十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年十二月一日ヨリ施行)

● 自治管理倉庫建設補助ニ關スル法律

(昭和十一年九月二十一日 法律第九十三號 各地方長官宛米穀局長 依命通牒)

米穀自治管理法實施ニ伴ヒ建設ヲ必要トスル米穀貯藏倉庫ノ建設費用ニ付助成金ヲ交付スル道府縣ニ對シ昭和十一年度豫算ニ於テ左記自治管理倉庫建設補助要項ニ依リ補助金ヲ交付スルコトト相成候條依命此段及通牒候也

記

自治管理倉庫建設補助要項

- 一 倉庫ノ建設主體ハ米穀統制組合竝ニ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合及農會トス
- 二 補助金ハ建設費ノ三分ノ二以內ニシテ一坪當本屋ニ對シ四十六圓六十六錢以內トス
- 三 補助金ハ敷地購入費及整地費ニ對シテハ之ヲ交付セズ
- 四 補助金ノ交付ヲ受ケ建設スベキ倉庫ハ燻蒸可能ナルモノニシテ坪當リ収容力三十三石程度ノモノナルコトヲ要ス
- 五 補助金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ昭和十一年十月三十日迄ニ農林大臣ニ之ヲ

附則

スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米價ガ米穀統制法ニ基キテ發スル命令ニ定ムル標準最高價格ノ一定割合ニ相當スル價格以下ナル場合ニ限り米穀統制委員會ニ諮問シテ米穀ノ買入ヲ行フコトヲ得

● 米穀ノ應急措置ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件

(昭和十二年十一月二十七日 勅令第六百七十三號)

朕昭和十二年法律第九十號米穀ノ應急措置ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府方昭和十二年法律第九十號第二條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入ヲ爲スコトヲ得ルハ米穀統制法施行令第十二條第一項但書ノ平均價格ガ同令第三條ノ標準最高價格ノ下値一割ニ相當スル價格以下ナル場合ニ限ル

提出スベシ

- (一) 様式第一號ノ自治管理倉庫建設助成金交付豫定書
- (二) 收支豫算書
- (三) 助成金交付ニ關スル規程又ハ條件ヲ記載シタル書類
前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- 五 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣前號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントストキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 六 道府縣ニ於テ本年度内ニ補助金ノ支出ヲ了スルコト能ハザルトキハ其ノ殘額ヲ事業ト共ニ翌年度ニ繰越スコトヲ得但シ此ノ場合ニ在リテハ翌年度四月十五日迄ニ農林大臣ニ届出ツベシ
- 七 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ收支決算書及様式第二號ノ成績書ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
- 八 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ其ノ助成金ヲ交付スル場合ニ於テハ左ノ條件ヲ附スベシ
(一) 米穀自治管理法ニ依リ米穀ノ貯藏ヲ爲スベキ場合ニ於テハ農林大臣ノ別ニ定ムル條件ニ依リ寄託ニ應ズルコト

- (二) 建設シタル倉庫ヲ處分セントスル場合ニ於テハ地方長官ヲ經由シ農林大臣ノ認可ヲ受クベキコト
- (三) 倉庫ノ利用狀況ニ關シ毎年十一月三十日迄ニ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ報告スルコト
- (四) 倉庫建設者ニシテ前各號ニ違反シタルトキハ既ニ交付シタル助成金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベキコト
- 九 農林大臣ハ前號ニ依リ助成金ノ返還ヲ受ケタル道府縣ニ對シ助成金中補助金ニ相當スル金額ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ
- 十 不正ノ手段ニ依リ助成金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントシタルノ事實ヲ認知シタルトキハ其ノ處分ニ付豫メ農林大臣ニ協議スベシ
- 十一 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ
(一) 本要項ノ規定又ハ補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
(二) 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
(三) 支出額ガ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

様式第一號

自治管理倉庫建設助成金交付豫定書

團體名	建設地	構造	坪當	工費	助成	助成金交	備考
計		概要坪數	坪當	算額	坪數	付定額	
		圓	圓	圓	圓	圓	

注意

- 一、建設地ハ何郡何町(村)字何々何番地ト明記ノコト
- 二、建設坪數、坪當單價及工費豫算額ハ倉庫本屋ニ付記載ノコト
- 三、助成坪數欄ニハ建設坪數中助成金ヲ受ケ建設スル坪數ヲ記載ノコト
- 四、備考欄ニハ下屋其ノ他附屬建物ノ坪數ヲ記載ノコト

様式第二號

自治管理倉庫建設助成金交付成績書

團體名	建設地	構造	坪當	工費	助成	助成金交	備考
計		概要坪數	坪當	算額	坪數	交付額	
		圓	圓	圓	圓	圓	

注意

倉庫本屋ノミニ關シ記載スルモノニシテ其ノ記載方ニ付テハ様式第一號注意参照ノコト

●米穀自治管理法施行ニ伴フ糶検査

二 關スル件

(昭和十一年九月十日 二米第一八五一號) 各地方長官宛米穀局長、農務局長通牒

米穀自治管理法ニ依リ統制ヲ命ゼラレ貯藏スル米穀ハ當該年産水稻粳粳タルコトヲ原則トシ且右ハ同法ノ規定ニ依リ政府ニ於テ買入ヲ爲ス場合モ可有之候ニ付テハ糶検査ハ同法ノ運用上極メテ必要ナルモノト被認候條貯藏糶検査ニ付可然御配意相成度此段及通牒候也

追而糶検査ニ關シテハ別紙糶検査要項ニ依リ實施相成様致度尙糶検査ノ實施ニ當リテハ小作米授受ガ圓滑ニ行ハルル様特ニ御留意相成度申添候

一 検査ハ糶ノ品質、乾燥、調製、量目及包裝ニ付之ヲ行フコト

二 検査ノ等級ハ別ニ定ムル所ノ標準糶ニ依リ一等、二等、三等及等外ニ之ヲ區別スルコト

三 前項ノ一等糶ハ玄米二等以上、二等糶ハ玄米三等、三等糶ハ玄米四等ヲ主トシテ生産シ得ルモノタルコト

乾燥ハ長期貯藏ニ支障ナキモノタルヲ要シ(含有水分ハ大體一五%以下ノモノトス)調製ハ脱穀後精撰シテ秕藁

- 屑等ノ夾雜物ヲ除去シ、其ノ一升重量成ル可ク二百八十
匁以上ノモノトスルコト
- 三 糶ノ一包裝ハ成ル可ク正味容量四斗入トスルコト
- 四 糶ノ包裝ハ俵又ハ叭トシ相當期間ノ貯藏ニ支障ナキモノ
タルコト

第八章 蠶・繭・絲關係

●製絲業法 (昭和七年九月七日 法律第二十九號)

〔沿革〕 昭和八年三月法律第三一號、同十一年五月同第一一號
改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル製絲業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

製絲業法

- 第一條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除
クノ外器械生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ謂フ
- 器械生絲ノ製造工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會ハ
命令ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ適用ニ付テハ之
ヲ製絲業者ト看做ス
- 第二條 製絲業者タラントスル者ハ主務大臣ノ免許ヲ受クベ
シ

前項ノ免許ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 主務大臣ハ製絲業者ニ對シ製絲業ノ統制上必要ナル
事項ヲ命ズルコトヲ得

第四條 製絲業者免許ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ事業ヲ開
始セザルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

製絲業者引續キ二年以上其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ爲サザ
ルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限
スルコトヲ得

第五條 製絲業者ノ所爲ニシテ本法ニ基キテ發スル命令若ハ
處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムル
トキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限シ
若ハ停止スルコトヲ得

第六條 主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキ
ハ製絲業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官
吏ヲシテ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢
シ若ハ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票
ヲ携帯スベシ

第七條 第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰
金ニ處ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處
ス

ス

- 一 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 二 第四條第二項ノ規定ニ依ル制限又ハ第五條ノ規定ニ依
ル制限若ハ停止ノ處分ニ違反シタル者
- 三 正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル臨檢査ヲ拒
ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲
シタル者

第九條 製絲業者正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル報
告ヲ怠リタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 製絲業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人
其ノ他ノ從業者ガ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反
シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ
免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ製絲業者
ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役
其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治
産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關
シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ
在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年十月勅令第

三一號ヲ以テ同年十月二十日ヨリ施行ス)

本法施行ノ際現ニ製絲業者タル者又ハ其ノ承繼人ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ免許ヲ受ケタ
ル者ト看做ス

附則 (昭和八年三月法律第三一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年七月勅令第
一九四號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行)

登錄稅法第十九條第七號中「産業組合中央會、」ノ下ニ「生絲
共同施設組合、」ヲ、「産業組合法、」ノ下ニ「製絲業法、」ヲ加フ
日本勸業銀行法第十五條第三項及第三十二條第一項第三號、
農工銀行法第七條ノ五及第二十三條第三號並ニ北海道拓殖銀
行法第八條第四項中「産業組合、」ノ下ニ「生絲共同施設組合、」
ヲ加フ

●製絲業法施行規則 (昭和七年十月十五日 農林省令第三十二號)

〔沿革〕 昭和八年七月省令第一四號、同十一年八月同第二〇號、
同年十二月同第三六號、同十三年二月同第三號改正

製絲業法施行規則左ノ通定ム

製絲業法施行規則

第一條 製絲業法第一條ノ器械生絲トハ繰棒ノ廻轉及繰絲湯
ノ給熱又ハ繰棒ノ廻轉若ハ繰絲湯ノ給熱ヲ器械的操作ニ依

リ行フ繰絲機ニ依リ單繭ヨリ製造スル生絲ヲ謂フ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ製絲業法第一條第一項ノ製絲業者ヨリ之ヲ除外ス

一 利用組合ノ有スル製絲工場ヲ利用シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

二 他ノ者ニ委託シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

第三條 製絲業法第二條ノ免許ハ製絲工場毎ニ之ヲ爲スモノトス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ヲ爲サズ

一 揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ場合ヲ除クノ外製絲工場ニ百五十釜以上ノ繰絲機ヲ備ヘザルトキ

二 免許申請者ガ製絲業ノ免許ヲ取消サレ又ハ事業ノ制限ヲ受ケタル後二年ヲ經過セザル者ナルトキ

三 免許申請者ガ製絲業法第五條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ受ケ事業休止中ノ者ナルトキ

四 免許申請者ガ製絲業法第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セザル者ナルトキ

五 前各號ノ外農林大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキ

前項第一號ノ規定ハ自家用生絲ノ製造ノミヲ行フ製絲工場ニ付テハ之ヲ適用セズ

農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ産業組合又ハ産業組合聯合會ノ製絲工場ニシテ百五十釜未満百釜以上ノ繰絲機ヲ備フルモノニ付製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルベシ

第五條 製絲業ノ免許申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 事業計畫書

二 設備要領書

三 免許ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目録及貸借對照表

四 二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類

五 製絲業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ大要ヲ記載シタル書類

二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ一人ヲ代表者ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ免許申請書ニ記載スベシ

第一項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第六條 繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 製絲工場ノ所在場所

二 揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハザル場合ニ於テハ之ヲ行フ製絲工場ノ名稱及所在場所

三 一年間ノ原料繭消費見込數量

四 一年間ノ目的織度別生絲製造見込數量

五 従業員ノ種類及員數

六 起業費ノ收支概算

七 事業ノ收支概算

八 事業開始ノ豫定年月日

揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ前項第一號及第五號乃至第八號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 一年間ノ生絲取扱見込數量

二 取扱生絲ニ付繰絲ノ工程ヲ行フ工場ノ名稱、所在場所及一年間ノ目的織度別生絲製造見込數量

第七條 設備要領書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 建物ノ種類及面積並ニ構造ノ概要

二 繰絲機ノ名稱、釜數及緒數

三 揚返機ノ窓數

四 煮繭機ノ名稱、煮繭能力及臺數

五 生絲ノ整理及検査ニ關スル設備ノ種類、名稱及員數

六 繭ノ乾燥及貯藏ニ關スル設備ノ名稱、能力及員數

前項ノ設備要領書ニハ敷地内ノ建物及設備ノ配置圖並ニ敷地附近ノ概況圖ヲ添附スベシ

第八條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハザル製絲工場ニ於テ新ニ揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハントスルトキ

二 繰絲機又ハ揚返機ノ増設、改設又ハ廢棄ヲ行ハントスルトキ

前項ノ認可申請書ニハ設備要領書並ニ事業ノ擴張又ハ繰絲機若ハ揚返機ノ増設、改設若ハ廢棄ニ伴フ起業費ノ收支概算及事業ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

前條ノ規定ハ前項ノ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ引續キ其ノ事業ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 製絲業者死亡シ又ハ解散シタルトキ

二 免許ヲ受ケタル製絲工場ニ付事業ノ廢止アリタルトキ

三 免許ヲ受ケタル製絲工場滅失シタルトキ

第十條 製絲業者ハ毎年七月三十一日迄ニ前年六月一日ヨリ當年五月三十一日迄ノ一年間ノ事業概況書ヲ農林大臣ニ提

出スベシ

第十一條 左ニ掲グル場合ニ於テハ製絲業者ハ遲滞ナク農林

大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

一 製絲業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所若ハ事務所ヲ變更シタルトキ

二 製絲業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ

三 製絲業者其ノ事業ヲ開始シタルトキ

四 製絲業者タル法人ノ代表者又ハ第五條第二項ノ代表者ニ變更アリタルトキ

五 製絲業者製絲工場ノ名稱ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

六 製絲業者引續キ十五日以上其ノ事業ノ全部若ハ一部ヲ休止シ又ハ休止シタル事業ヲ再び開始シタルトキ

七 製絲業者其ノ事業ヲ廢止シタルトキ

八 製絲工場ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ

九 製絲業者タル法人其ノ組織ヲ變更シタルトキ

十 製絲業者製絲工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ置キタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

十一 製絲業者製絲業以外ノ事業ヲ新ニ兼營シタルトキ又ハ兼營事業ヲ廢止シタルトキ

十二 第八條ノ認可ヲ受ケタル事業ヲ開始シ又ハ工事ヲ完

了シタルトキ

十三 製絲工場ニ付所有權ノ移轉アリタルトキ

十四 相續又ハ合併ニ因リ製絲業ヲ承繼シタルトキ

十五 他ノ者ヨリ生絲製造(揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ場合ヲ除ク)ノ委託ヲ受ケタルトキ

前項第九號ノ場合ニ於テハ組織變更アリタルコトヲ證スル書類、定款、財産目録及貸借對照表ヲ、第十四號ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類並ニ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ在リテハ定款、財産目録及貸借對照表ヲ、第十五號ノ場合ニ於テハ委託契約書ノ謄本及從業員ノ種類別現在數ヲ記載シタル書類ヲ具シ其ノ届出ヲ爲スベシ

第十一條ノ二 農林大臣製絲業法第三條ノ規定ニ依リ製絲業ノ統制上必要ナル事項ヲ命ズル場合ニ於テハ豫メ其ノ從フベキ事項及從フベキ者ノ資格其ノ他必要ナル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

第十二條 製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

第十三條乃至第二十五條 (削除)

第二十六條 本則ノ適用ニ關シ多條線絲機(十以上ノ緒ヲ備フル線絲機ヲ謂フ)ノ釜數ヲ計算ニ付テハ釜數ヲ計算スベ

キ多條線絲機ヲ通ジ總緒數ヲ十ヲ以テ除シタル數ヲ以テ其ノ釜數トス

第二十七條 製絲業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ製絲工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

第二十八條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 免許又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第二十九條 製絲業者本則ノ規定ニ依ル届出若ハ事業概況書ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ事業概況書ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 本令ハ製絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和七年十月二十日ヨリ施行ス)

第三十一條 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者及其ノ包括承繼人トス

一 製絲業法施行ノ際現ニ製絲業ヲ行フ目的ヲ以テ製絲工場ヲ有スル者

二 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會

三 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ノ建設工事を實施シテツアル者

第三十二條 前條ノ規定ニ該當スル者ハ製絲業法施行ノ日ヨリ二月内ニ製絲工場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ農林大臣ニ届出ヅベシ

一 最近二年間ニ於ケル事業ノ概況

二 前條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ製絲工場ノ建設工

事ニ着手シタル年月日、其ノ工事進捗ノ程度及事業開始ノ豫定年月日

第五條ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スベキ事業計畫書ニハ線絲ノ工程ヲ行フ

製絲工場ニ在リテハ第六條第一號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ、揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ニ在リテハ同條同項第一號及第五號並ニ同條第二項各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

第七條ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スベキ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ農林大臣ハ第四條第一

- 項第一號ノ規定ニ拘ラズ製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルベシ
- 一 本令施行前一年内ニ減失シタル製絲工場ヲ有シタル者又ハ其ノ包括承繼人同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ
- 二 本令施行ノ際貸付中ナリシ製絲工場ノ返還ヲ受ケ製絲業ヲ行ハントスル者其ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ
- 三 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者當該製絲工場減失シタル爲同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付減失シタル日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ
- 四 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者天災又ハ公益上ノ必要ニ因リ當該製絲工場ニ於テ事業ヲ繼續スルコト能ハザル爲他ノ場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ但シ事業廢止ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免

- 許ヲ受ケタル者ト看做サルル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニシテ共同ノ施設ニ依リ製絲業ノ一部ヲ行フモノ共同事業遂行ノ必要上製絲工場ノ移轉ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該製絲工場ト同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ
- 六 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者共同シテ製絲業ヲ行ハントスル場合ニ於テ其ノ合同シタル製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ
- 前項ノ免許申請書ニハ第五條乃至第七條ノ規定ニ依ル書類ノ外左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ在リテハ減失ノ時期及原因竝ニ減失シタル製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類
- 二 前項第二號ノ場合ニ在リテハ本令施行ノ際貸付中ナリシコトヲ證スル書類
- 三 前項第四號ノ場合ニ在リテハ當該製絲工場ニ於テ事業ヲ繼續スルコト能ハザル事由及事業廢止ノ時期竝ニ其ノ製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類
- 四 前項第五號ノ場合ニ在リテハ製絲工場ノ移轉ヲ必要ト

スル事由ヲ記載シタル書類

五 前項第六號ノ場合ニ在リテハ製絲工場ノ合同ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書類

附 則 (昭和十一年八月農林省令第二〇號)

本令ハ昭和十一年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十一年九月一日ヨリ施行)

本令施行ノ際現ニ他ノ者ヨリ生絲製造ノ委託ヲ受ケ其ノ事業ヲ行フ者ハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ第十條第一項第十五號ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベシ

附 則 (昭和十三年二月農林省令第三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ繰棒ノ廻轉又ハ繰絲湯ノ給熱ノ何レカ一ノミヲ器械的操作ニ依リ行フ繰絲機ニ依ル器械生絲ノ製造ヲ業トスル者引續キ其ノ事業ヲ行ハントスルトキハ本令施行ノ日ヨリ三月以内ニ製絲業ノ免許ヲ申請スベシ

前項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ處分ヲ受クル迄引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ第二項ニ掲グル者ニ對シ第四條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルベシ

別記

表

第 號 年 月 日 交付

製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票

官 職	農林省又ハ道府縣印
氏 名	氏 名

縱 八・五 釐
横 六・〇 釐

製絲業法施行規則ニ依ル統制事項

(昭和十一年十二月二十九日農林省告示第四百六十六號)

製絲業法施行規則第十條ノ二ノ規定ニ依リ左ノ通定ム

製絲業法第一條第一項ノ製絲業者ハ昭和十二年四月一日ヨリ全國製絲業組合聯合會ノ製絲業整備改善施設規程第六條ノ定ムル事項ニ、同法同條第二項ノ製絲業者ハ同日ヨリ全國産業組合製絲組合聯合會ノ産業組合製絲整備助成施設規程第三條ノ定ムル事項ニ從フベシ

●蠶絲業組合法 (昭和六年三月二十八日 法律第二十四號)

【沿革】 昭和七年九月法律第三〇號、同十一年五月同第一〇號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル蠶絲業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

蠶絲業組合法

第一章 蠶絲業組合

第一節 總則

第一條 蠶絲業組合ハ左ノ六種トス

- 一 養蠶業組合
- 二 蠶種業組合
- 三 産業組合製絲組合
- 四 製絲業組合
- 五 生絲問屋業組合
- 六 生絲輸出業組合

第二條 蠶絲業組合ハ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 蠶絲業組合ハ法人トス

第四條 蠶絲業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 蠶絲業組合ハ蠶絲業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議

スルコトヲ得

蠶絲業組合ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第六條 行政官廳ハ蠶絲業組合ニ對シ蠶絲業ニ關スル報告書ノ提出及蠶絲業ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得

第七條 蠶絲業組合ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ養蠶業組合、蠶種業組合、産業組合、製絲組合、製絲業組合、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ナル文字ヲ用フベシ
蠶絲業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第八條 蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ役員又ハ検査員ヲシテ組合員ノ事務所若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ當該役員又ハ検査員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

第九條 蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

蠶絲業組合ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ蠶絲業組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ
前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之

ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル徵收金ノ賦課徵收及滯納處分ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立若ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十條 蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 蠶絲業組合ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物産同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脫退スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ蠶絲業組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ蠶絲業組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ業務ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 蠶絲業組合ノ解散及分合ニ關スル事項ハ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

第十五條 本章ニ於テ市町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

第二節 養蠶業組合

第十六條 養蠶業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 蠶品種ノ統一ニ關スル施設
 - 二 養蠶業ノ指導獎勵ニ關スル施設
 - 三 繭ノ檢査ニ關スル施設
 - 四 繭ノ取引方法ノ改善ニ關スル施設
 - 五 蠶病ノ豫防ニ關スル施設
 - 六 養蠶業ニ關スル研究及調査
 - 七 養蠶業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
 - 八 前各號ニ掲グルモノノ外養蠶業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
- 第十七條 養蠶業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得
前項ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ノ地區モ亦之ニ應ジテ増減アリタルモノトス
- 第十八條 養蠶業組合ハ其ノ地區内ニ於ケル左ニ掲グル者ヲ以テ其ノ組合員トス

一 養蠶實行組合

二 養蠶實行組合ノ組合員ニ非ザル養蠶者ニシテ命令ヲ以テ規定スルモノ

第十九條 養蠶實行組合ハ一定ノ地區内ノ養蠶者ヲ以テ之ヲ組織シ養蠶業ニ關シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

養蠶實行組合ハ法人トス

養蠶實行組合ノ地區ハ部落其ノ他之ニ準ズル區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第二十條 養蠶實行組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 組合員ノ養蠶業ニ必要ナル物ノ共同購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ養蠶業ニ關スル共同施設
- 二 組合員ノ生産シタル繭ノ處理ニ關スル施設
- 三 組合員ノ養蠶業ノ統制ニ關スル施設
- 四 組合員ノ養蠶業ニ關スル共済及備荒施設
- 五 組合員ノ養蠶業ニ關スル指導、研究及調査
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第二十一條 養蠶實行組合ハ其ノ名稱中ニ養蠶實行組合ナル文字ヲ用フベシ

養蠶實行組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十二條 養蠶實行組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ地區内ノ養蠶者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作成シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

規約ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 目的
 - 二 名稱
 - 三 地區
 - 四 事務所ノ所在地
 - 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
 - 六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
 - 七 役員ニ關スル規定
 - 八 組合費其ノ他會計及資産ニ關スル規定
 - 九 損失分擔ニ關スル規定
 - 十 組合ガ公告ヲ爲ス方法
 - 十一 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 第二十三條 養蠶實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

- 一 前條第二項第一號乃至第四號及第十一號ニ掲グル事項
 - 二 設立認可ノ年月日
 - 三 理事及監事ノ氏名及住所
- 前項ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第二十四條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十五條 養蠶實行組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第二十五條ノ二 組合員タル資格ヲ有スル者養蠶實行組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十五條ノ三 養蠶實行組合ノ分合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條ノ四 養蠶實行組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合ノ分割
- 五 組合員ガ七人未滿ニ減ジタルトキ

六 組合ノ破産

七 行政官廳ノ處分

第二十六條 民法第三十八條、第四十四條第一項、第四十七條、第四十八條、第五十條、第五十一條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至第六十六條、第六十九條、第七十條及第七十二條乃至第八十二條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第一百七十七條、第一百九十九條乃至第二百二十二條、第三百六條乃至第三百三十八條、第四百二十二條、第四百十三條、第四百四十七條乃至第五百十條ノ二、第五百五十一條乃至第五百五十一條ノ四、第五百五十一條ノ六乃至第五百五十七條及第七百七十五條乃至第七百七十七條並ニ産業組合法第二十五條、第三十四條ノ二、第三十五條、第四十八條ノ二、第六十條第一項(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十條ノ二、第六十一條(清算ニ關スル規定ヲ除ク)及第六十五條(合併ニ關スル規定ヲ除ク)ノ規定ハ養蠶實行組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

第二十七條 養蠶業組合ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ第十八條第一號及第二號ニ掲グル者ノ各三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ

行政官廳ノ認可ヲ受クベシ但シ其ノ地區内ノ養蠶者ノ過半數ヲ養蠶實行組合ノ組合員タル場合ニ於テハ設立ノ同意ハ養蠶實行組合ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスル

前項ノ創立總會ノ決議ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 養蠶業組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第二十九條 養蠶業組合成立シタルトキハ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有スルモノハ總テ其ノ組合員トス

第三十條 養蠶業組合ノ地區内ニ於テ養蠶業ニ關スル事業ヲ行フ法人ニシテ命令ヲ以テ規定スルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ養蠶業組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ養蠶業組合ノ組合員ト爲リタルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ組合ヲ脱退スルコトヲ得ズ

第三十一條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ區域ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ養蠶業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル設立ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 養蠶業組合ニ總會ヲ置ク總會ハ議員ヲ以テ之ヲ組織ス

養蠶業組合ノ議員ノ選任及解任ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 命令ヲ以テ規定スル統制ニ關スル施設
- 四 事業報告及收支決算
- 五 借入金
- 六 基本財産ノ造成、管理及處分
- 七 定款ノ變更
- 八 役員ノ選任及解任
- 九 第六十五條ノ議員ノ選任及解任
- 十 第六十三條第一項ノ同意

前項第一號乃至第三號、第五號、第七號及第八號ニ掲グル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十四條 總會ハ組合長之ヲ招集ス

議員ハ總議員ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル

後二週間以内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スルコト能ハザルトキハ行政官廳ハ議員ヲ指定シテ總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第三十五條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十六條 第三十三條第一項第三號、第七號及第八號ニ掲グル事項ハ總會ニ於テ議員ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

定款ノ變更方地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラレベキ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ第二十七條第一項ノ規定ニ準ズル同意アルコトヲ要ス

第三十七條 總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ徵シ總會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第三十八條 養蠶業組合ニ組合長一人ヲ置ク養蠶業組合ハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

前二項ノ役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル

トキハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第三十九條 組合長ハ養蠶業組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス

第四十條 總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルモノハ組合長定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ組合長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムベシ

第四十一條 養蠶實行組合ノ理事、監事又ハ清算人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依ル報告若ハ届出ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

五 組合ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ

六 本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

七 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

八 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ忘リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
九 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三節 蠶種業組合

第四十二條 蠶種業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 蠶品種ノ統一ニ關スル施設
 - 二 蠶種製造ノ指導獎勵ニ關スル施設
 - 三 蠶種ノ検査ニ關スル施設
 - 四 蠶病ノ豫防ニ關スル施設
 - 五 蠶種ニ關スル研究及調査
 - 六 蠶種製造業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
 - 七 前各號ニ掲グルモノノ外蠶種製造業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
- 第四十三條 蠶種業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得
- 第四十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ増減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 蠶種業組合ハ其ノ地區内ニ於テ蠶種ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第四十四條ノ二 蠶種業組合ニ總會ヲ置ク
總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十四條ノ三 蠶種業組合ハ命令及定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得
總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總代會ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條乃至第三十一條及第三十三條乃至第四十條ノ規定ハ蠶種業組合ニ之ヲ準用ス

第四節 産業組合製絲組合及製絲業組合

- 一 原料繭及其ノ受入方法ノ統一ニ關スル施設
- 二 生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
- 三 産業組合製絲ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 四 生絲ノ検査ニ關スル施設
- 五 産業組合製絲ニ關スル研究及調査
- 六 産業組合製絲ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 七 前各號ニ掲グルモノノ外産業組合製絲ノ改良發達及統

制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十七條 製絲業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
- 二 製絲業ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 三 生絲ノ検査ニ關スル施設
- 四 製絲業ニ従事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
- 五 製絲業ニ關スル研究及調査
- 六 製絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 七 前各號ニ掲グルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十八條 産業組合製絲組合及製絲業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第四十九條 産業組合製絲組合ハ其ノ地區内ニ於テ製絲ヲ爲シ又ハ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十條 製絲業組合ハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員

トス

第五十一條 第二十七條乃至第二十九條、第三十一條、第三十三條乃至第四十條及第四十四條ノ二ノ規定ハ産業組合製絲組合及製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第三十條及第四十四條ノ三ノ規定ハ製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第五節 生絲問屋業組合及生絲輸出業組合

- 一 生絲ノ取引方法ノ改善及統一ニ關スル施設
- 二 生絲取引ニ關スル研究及調査
- 三 生絲取引ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外生絲取引ノ改良發達及統制ニ關スル施設

第五十三條 生絲問屋業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依リ生絲輸出業組合ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第五十四條 生絲問屋業組合ハ其ノ地區内ニ於テ生絲取引ノ仲立又ハ取次ヲ業トスル者並ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス産業組合

及産業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十五條 生絲輸出業組合ハ其ノ地區内ニ於テ生絲ノ輸出ヲ業トスル者並ニ生絲ノ輸出ヲ爲ス産業組合及産業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十六條 第二十七條乃至第二十九條、第三十一條、第三十三條乃至第四十條及第四十四條ノ二ノ規定ハ生絲問屋業組合及生絲輸出業組合ニ之ヲ準用ス但シ第三十三條第一項第九號中第六十五條トアルハ之ヲ第六十五條又ハ第七十六條トシ第三十三條第一項第十號中第六十三條第一項トアルハ之ヲ第六十三條第一項又ハ第七十五條第一項トス

第二章 蠶絲業組合聯合會

第五十七條 蠶絲業組合聯合會ハ左ノ七種トス

- 一 道府縣養蠶業組合聯合會
 - 二 全國養蠶業組合聯合會
 - 三 全國蠶種業組合聯合會
 - 四 全國産業組合製絲組合聯合會
 - 五 全國製絲業組合聯合會
 - 六 全國生絲問屋業組合聯合會
 - 七 全國生絲輸出業組合聯合會
- 第五十八條 蠶絲業組合聯合會ハ蠶絲業組合又ハ道府縣養蠶業組合聯合會ノ聯絡ヲ圖リ其ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ規定スルモノヲ以テ、全國製絲業組合聯合會ハ製絲業組合ヲ以テ、全國生絲問屋業組合聯合會ハ生絲問屋業組合ヲ以テ、全國生絲輸出業組合聯合會ハ生絲輸出業組合ヲ以テ、其ノ組合員トス

第六十三條 蠶絲業組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スルモノノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ創立總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 蠶絲業組合聯合會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スルモノハ總テ其ノ會員トス

第六十五條 蠶絲業組合聯合會ニ總會ヲ置ク總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス

蠶絲業組合聯合會ノ議員ハ其ノ會員ニ於テ之ヲ選任ス前項ニ規定スルモノノ外議員ノ選任及解任ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條 蠶絲業組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一人
- 副會長 一人又ハ二人

第一類 法規、第八章 蠶・繭・絲關係

テ目的トス

第五十九條 蠶絲業組合聯合會ハ法人トス

第六十條 蠶絲業組合聯合會ノ地區ハ道府縣養蠶業組合聯合會ニ在リテハ道府縣ノ區域ニ依リ其ノ他ノモノニ在リテハ全國ノ區域ニ依ル

第六十一條 蠶絲業組合聯合會ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ道、府若ハ縣養蠶業組合聯合會、全國養蠶業組合聯合會、全國蠶種業組合聯合會、全國産業組合製絲組合聯合會、全國製絲業組合聯合會、全國生絲問屋業組合聯合會又ハ全國生絲輸出業組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

蠶絲業組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六十二條 道府縣養蠶業組合聯合會ハ其ノ地區内ノ養蠶業組合ヲ以テ其ノ會員トス

全國養蠶業組合聯合會ハ道府縣養蠶業組合聯合會及道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ヲ以テ其ノ會員トス

評議員 數人

前項ノ役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第六十七條 會長ハ蠶絲業組合聯合會ヲ代表シ會務ヲ總理ス副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ並ニ會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第六十八條 第四條乃至第六條、第九條第一項、第十條、第十二條乃至第十四條、第二十八條、第三十一條、第三十三條乃至第三十五條、第三十六條第一項、第三十七條及第四十條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第五十七條第二號乃至第七號ノ蠶絲業組合聯合會ニ付テハ第三十三條第一項第九號中第六十五條トアルハ之ヲ第七十六條トシ第三十三條第一項第十號中第六十三條第一項トアルハ之ヲ第七十五條第一項トス

第三章 日本中央蠶絲會

第六十九條 日本中央蠶絲會ハ蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合聯合會ニ之ヲ準用ス

合ノ聯絡並ニ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七十條 日本中央蠶絲會ハ法人トス

第七十一條 日本中央蠶絲會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡及統制ニ關スル施設

二 蠶絲業ニ關スル研究及調査

三 蠶絲類ノ販路擴張ニ關スル施設

四 蠶絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁

五 前各號ニ掲グルモノノ外蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第七十二條 日本中央蠶絲會ノ地區ハ全國ノ區域ニ依ル

第七十三條 日本中央蠶絲會ノ名稱ニハ日本中央蠶絲會ナル文字ヲ用フベシ

日本中央蠶絲會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第七十四條 日本中央蠶絲會ハ第五十七條第二號乃至第七號ノ蠶絲業組合聯合會ヲ以テ其ノ會員トス

全國生絲問屋業組合聯合會又ハ全國生絲輸出業組合聯合會ナキ場合ニ限り前項ニ規定スルモノノ外生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ヲ以テ其ノ會員トス

第七十五條 日本中央蠶絲會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スルモノノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ創立總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ會員タル資格ヲ有スルモノノ員數ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ニ以上アル場合ニ於テハ之ヲ一箇ノ生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ト看做ス

第七十六條 日本中央蠶絲會ニ總會ヲ置ク總會ハ會長、副會長、議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

日本中央蠶絲會ノ議員ハ其ノ會員タル蠶絲業組合聯合會又ハ蠶絲業組合ニ於テ之ヲ選任シ特別議員ハ主務大臣之ヲ命ズ

特別議員ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一以内トス

前二項ニ規定スルモノノ外議員ノ選任及解任並ニ特別議員ノ命免ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 日本中央蠶絲會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人
副會長 一人又ハ二人

評議員 數人

前項ノ役員ハ議員及特別議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第七十八條 日本中央蠶絲會ノ會員蠶絲業ノ統制ニ關スル施設ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本中央蠶絲會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

日本中央蠶絲會前項ノ承認ヲ爲スニハ其ノ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第四條乃至第六條、第九條第一項、第十二條乃至第十四條、第二十八條、第三十三條乃至第三十五條、第三十六條第一項、第三十七條、第四十條、第六十四條及第六十七條ノ規定ハ日本中央蠶絲會ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年七月勅令第一七四號ヲ以テ同年同月十五日ヨリ施行)

重要物産同業組合法ニ依リ道府縣ヲ地區トシ設置シタル蠶絲業者ノ同業組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ本法ニ依ル蠶絲業組合ト看做ス

日本中央蠶絲會成立シタルトキハ其ノ成立ノ日ヨリ一年以内

ニ蠶絲業同業組合中央會ハ解散ヲ爲スコトヲ要ス

附則 (昭和十一年五月法律第一〇號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十一月勅令第三八九號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ存スル蠶絲實行組合ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス但シ第三項ノ規定ニ依リ認可ヲ受クル迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

前項ノ組合ハ本法施行ノ日ヨリ二年以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第二項ノ組合ハ前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ二週間以内ニ主たる事務所ノ所在地ニ於テ其ノ認可ノ年月日、監事ノ氏名及住所並ニ第二十二條第二項第三號及第十一號ニ掲グル事項ノ登記ヲ爲スベシ

第二項ノ組合ニシテ第三項ノ期間内ニ同項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケザルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

本法施行ノ際現ニ存スル蠶絲業組合ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限り其ノ構成者、總會及役員ニ關シ第十八條、第三十二條第二項第三項、第三十四條第二項第四項、第三十六條、第三十七條及第三十八條第三項ノ改正規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ組合同項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ地區内ニ於ケル第十八條第二號ニ掲グル者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六項ノ組合ニシテ同項ノ期間内ニ同項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケザルモノハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ解散ス

産業組合法第十條ノ三ニ左ノ二項ヲ加フ

農事實行組合ヲ設立スルニハ其ノ地區内ノ農業者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作成スルコトヲ要ス

農事實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ規約、役員ノ氏名及住所並ニ設立ノ年月日ヲ具シ行政官廳ニ之ヲ届出ツ

ベシ届出デタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

産業組合法第十條ノ四ヲ左ノ如ク改ム

第十條ノ四 蠶絲業組合法第二十一條、第二十二條第二項、第二十三條乃至第二十五條、第二十六條及第四十一條、民法第四十四條第二項、第五十二條第一項、第五十六條乃至第五十八條及第六十八條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ農事實行組合ニ之ヲ準用ス但シ蠶絲業組合法第二十三條第二項第一號中第一號乃至第四號及第十一號トアルハ之ヲ第一號、第二號及第四號トシ同項第二號中設立認可トアルハ之ヲ設立トシ同項第三號中理事及監事トアルハ之ヲ理事トシ同法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル民法

ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル養蠶業組合ヲ經由スベシ

前項ノ規定ハ前條第三項ノ規定ニ依リ農林大臣ニ訴願セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 蠶絲業組合法第九條第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五條 異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 養蠶業組合解散ヲ爲サントスルトキハ蠶絲業組合法第十八條第一號及第三十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意並ニ同法第十八條第二號ノ規定ニ依ル組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得行政官廳ノ認可ヲ受クベシ但シ同法第十八條第一號及第三十條第一項ノ規定ニ依ル組合員ニ屬スル養蠶者ノ數が同法第十八條第二號ノ規定ニ依ル組合員ノ數ヲ超ユル場合ニ於テハ解散ノ同意ハ同法第十

第三十八條第二項及第四十七條、産業組合法並ニ非訟事件手續法第五十條ノ二ノ規定ヲ除ク

【沿革】 昭和十一年十一月勅令第三九〇號改正
朕蠶絲業組合法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

蠶絲業組合法施行令
第一條 蠶絲業組合ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徴收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ蠶絲業組合ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ蠶絲業組合ノ組合長ハ遲滞ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スベシ

第二條 養蠶業組合（道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ヲ除ク）ノ組合員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ當該養蠶業組合ノ組合長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合又ハ養蠶業組合以外ノ蠶絲業組合ノ組合員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定

八條第一號及第三十條第一項ノ規定ニ依ル組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ足ル

養蠶業組合以外ノ蠶絲業組合解散ヲ爲サントスルトキハ其ノ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第七條 蠶絲業組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第八條 蠶絲業組合解散シタルトキハ組合長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會若ハ總代會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同ジ

第九條 清算人ハ蠶絲業組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條 行政官廳必要ト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第十一條 蠶絲業組合併ヲ爲サントスルトキハ各蠶絲業組合ハ其ノ組合員ノ第六條ノ規定ニ準ズル同意ヲ得行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

合併ニ因リテ蠶絲業組合ヲ設立セントスル場合ニ於テハ定

第一類 法規、第八章 蠶・繭・絲關係

二四三

款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各蠶絲業組合ノ組合長共同シテ之ヲ爲シ各蠶絲業組合ノ總會又ハ總會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ承認ハ各蠶絲業組合ノ總會又ハ總會ニ於テ總會又ハ總會ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第二項ノ總會又ハ總會ニ於テハ總會又ハ總會ヲ組織スル者ハ總會又ハ總會ヲ組織スル他ノ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル委任ヲ受ケタル者ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第十二條 蠶絲業組合分割ヲ爲サントスルトキハ其ノ組合員ノ第六條ノ規定ニ準ズル同意ノ外分割ノ各蠶絲業組合ノ組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ第六條ノ規定ニ準ズル同意ヲ得テ總會又ハ總會ヲ開キ命令ノ定ムル所ニ依リ各蠶絲業組合ノ權利義務ノ限度ヲ定メ定款ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 合併後存続スル蠶絲業組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル蠶絲業組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル蠶絲業組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル蠶絲業組合ハ前條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ蠶絲業組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第十四條 養蠶實行組合合併ヲ爲サントスルトキハ總會組合員ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

合併ニ因リテ養蠶實行組合ヲ設立セントスル場合ニ於テハ規約ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各養蠶實行組合ノ理事共同シテ之ヲ爲シ各養蠶實行組合ノ總會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第十五條 養蠶實行組合分割ヲ爲サントスルトキハ總會ニ於テ分割ノ各養蠶實行組合ノ權利義務ノ限度ヲ定メ且各養蠶實行組合ノ組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ニ於テ各別ニ其ノ規約ヲ議決スベシ

第十六條 養蠶實行組合合併又ハ分割ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間以内ニ財産目録ヲ作ルベシ

養蠶實行組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シテ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ規約ノ定ムル方法ニ從ヒ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スベシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間内ニ合併又ハ分割ニ對シ異議ヲ述ベザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ養蠶實行組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ズ

第十七條 養蠶實行組合ノ合併又ハ分割ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 第十三條ノ規定ハ養蠶實行組合ノ合併又ハ分割ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 養蠶實行組合ガ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル養蠶實行組合ニ在リテハ設立ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割後存続スル養蠶實行組合ニ在リテハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル養蠶實行組合ニ在リテハ解散ノ登記ヲ爲スベシ

第二十條 養蠶實行組合ノ合併又ハ分割ニ因ル設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ規約、申請人ノ資格ヲ證スル書面、總會ノ決議ノ謄本、第十六條第二項及第四項ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面並ニ合併若ハ分割ノ認可書又ハ地方長官ノ認證アル謄本ヲ添付スベシ

第二十一條 養蠶實行組合ノ合併又ハ分割ニ因ル變更ノ登記

ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面、登記事項ノ變更ヲ證スル書面、第十六條第二項及第四項ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面並ニ合併若ハ分割ノ認可書又ハ地方長官ノ認證アル謄本ヲ添付スベシ

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人ガ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要セズ

第二十二條 養蠶實行組合ノ合併又ハ分割ニ因ル解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ總會ノ決議ノ謄本、第十六條第二項及第四項ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面並ニ合併若ハ分割ノ認可書又ハ地方長官ノ認證アル謄本ヲ添付スベシ

第二十三條 第六條第二項及第七條乃至第十條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會及日本中央蠶絲會ニ之ヲ準用ス但シ日本中央蠶絲會ノ解散ノ場合ニ於ケル會員ノ員數ノ計算ニ付テハ蠶絲業組合法第七十四條第二項ノ規定ニ依リ會員タル生絲間屋業組合又ハ生絲輸出業組合二以上アル場合ニ於テハ之ヲ一箇ノ生絲間屋業組合又ハ生絲輸出業組合ト看做ス

蠶絲業組合聯合會又ハ日本中央蠶絲會ノ會員前項ノ規定ニ依リ準用スル第六條第二項ノ同意ヲ爲スニ付テハ其ノ總會

ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

附則

本令ハ蠶絲業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年七月十五日ヨリ施行）

附則（昭和十一年十一月勅令第三九〇號）

本令ハ昭和十一年法律第十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年十一月十日ヨリ施行）

●蠶絲業組合法施行規則（昭和六年七月十日）
（農林省令第十七號）

【沿革】 昭和十一年十一月省令第三二號改正

蠶絲業組合法施行規則左ノ通定ム

蠶絲業組合法施行規則

第一章 蠶絲業組合

第一條 養蠶實行組合ノ組合員ニ非ザル養蠶者ニシテ蠶絲業

組合法第十八條第二號ノ規定ニ依リ養蠶業組合ノ組合員ト爲ルモノハ一箇年ヲ通ジテ蠶種二十グラム以上ノ掃立ヲ爲ス者トス

地方長官ニ於テ養蠶實行組合ノ組合員ニ非ザル養蠶者ニシテ前項ニ掲グルモノノ外特ニ養蠶業組合ニ加入セシムルノ必要アリト認ムル者アルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第一條ノ二 養蠶實行組合ノ設立認可申請書ニハ規約及設立

者ノ一年間ノ繭生産額ノ概定數並ニ地區内養蠶者ノ數及其ノ一年間ノ繭生産額ノ概定數ヲ記載シタル書面ヲ添附シ尙蠶絲業組合法第十九條第三項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第一條ノ三 地方長官養蠶實行組合ノ設立ヲ認可シタルトキハ其ノ養蠶實行組合ノ名稱、地區、事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スベシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第一條ノ四 養蠶實行組合ハ理事又ハ監事ノ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第一條ノ五 養蠶實行組合ノ規約變更及總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書及總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附スベシ

第一條ノ六 養蠶實行組合ノ合併ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録ノ謄本、財産目錄及合併後存続スル養蠶實行組合又ハ合併ニ因リテ設立スル養蠶實行組合ノ規約ヲ添附スベシ

第一條ノ七 養蠶實行組合ノ分割ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録ノ謄本、財産目錄並ニ分割ノ各養蠶實行組合ノ規約及權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第一條ノ八 養蠶實行組合合併又ハ分割ノ場合ニ於テ蠶絲業組合法施行令第十六條第二項及第四項ノ規定ニ依リ手續ヲ了シタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シ遲滞ナク地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第一條ノ九 養蠶實行組合ノ解散、合併又ハ分割アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二條 蠶絲業組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ地區、創立費用、收支概算及經費ノ分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

第三條 發起人創立總會ヲ招集セントスルトキハ少クとも二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スベシ

第三條ノ二 養蠶業組合ノ創立總會ニ於テハ蠶絲業組合法第十八條第一號ノ規定ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合員ノ數ニ相當スル簡數ノ議決權ヲ有シ同條第二號ノ規定ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ一人一箇ノ議決權ヲ有ス

蠶絲業組合法第十八條第一號ノ規定ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ議決權ノ簡數ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第三條ノ三 養蠶業組合ノ創立總會ノ決議ハ議決權總數ノ半

數以上ニ相當スル議決權ヲ有スル者出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ爲ス

養蠶業組合以外ノ蠶絲業組合ノ創立總會ノ決議ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ爲ス

第四條 創立總會ニ於テハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

創立總會ノ議長ハ出席者ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

第二十一條ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第五條 蠶絲業組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第六條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク設立認可申請書ヲ行政官廳ニ提出スベシ

前項ノ認可申請書ニハ定款、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ記載シタル書面、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書並ニ議事録ノ謄本ヲ添附スベシ

第二十四條第四項ノ規定ハ第一項ノ認可申請書ニ之ヲ準用

蠶絲業組合法第十七條第一項但書ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依リ添附スベキ書類ノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

第七條 農林大臣蠶絲業組合ノ設立ヲ命ジタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ告示ス

- 一 蠶絲業組合ノ種類
- 二 區域

三 創立委員ノ氏名又ハ名稱及住所
 前項第三號ノ創立委員ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ命ズ

第八條 創立委員ハ定款ヲ作成シ農林大臣ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

蠶絲業組合成立シタルトキハ創立委員ハ互選ニ依リ最初ノ役員ノ就任アル迄組合長ノ職務ヲ行フ者ヲ定ムベシ

前項ノ組合長ノ職務ヲ行フ者ハ遲滞ナク總會ヲ召集スベシ前項ノ總會ニ於テハ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

蠶絲業組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費用及其ノ償却方法ハ第三項ノ總會ノ承認ヲ經ベシ

第九條 蠶絲業組合ノ定款ニハ蠶絲業組合法及同法ニ基キテ

發スル命令ニ規定スルモノノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 事業
- 三 名稱
- 四 地區
- 五 事務所ノ所在地
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 會議ニ關スル規定
- 八 會計ニ關スル規定

第十條 行政官廳蠶絲業組合ノ設立ヲ認可シタルトキハ其ノ蠶絲業組合ノ名稱、地區、事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スベシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第十一條 蠶絲業組合法第三十條第一項ノ規定ニ依ル養蠶業組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得ル者ハ販賣組合又ハ販賣組合聯合會トス

蠶絲業組合法第四十五條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條第一項ノ規定ニ依リ蠶種業組合又ハ製絲業組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得ル者ハ蠶絲共同施設組合トス

遲滞ナク之ヲ訂正スベシ
 組合員名簿ノ閱覽ヲ求ムル者アリタルトキハ蠶絲業組合ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十二條 蠶絲業組合法第三十條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ定款ノ謄本及事業報告書ヲ添付スベシ

前項ノ規定ハ蠶絲業組合法第四十五條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第十三條 蠶絲業組合法第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ事業報告書及脱退ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

前項ノ規定ハ蠶絲業組合法第四十五條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第十四條 左ニ掲グル者ハ製絲業組合ノ組合員ヨリ之ヲ除外ス

- 一 玉絲又ハ野蠶絲ノミノ製造ヲ業トスル者
- 二 座繰ノ方法ニ依リテノミノ生絲ノ製造ヲ業トスル者

第十五條 蠶絲業組合ハ組合員名簿ヲ調製シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クベシ

組合員名簿ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 組合員ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所
- 二 經費賦課ノ基礎ト爲ルベキ事項

組合員名簿ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ蠶絲業組合ハ

第一類 法規、第八章 蠶・繭・絲關係

特別ノ事由アル場合ニ於テハ養蠶業組合ノ議員ノ選任ニ關シ前三條ノ規定ニ拘ラズ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條ノ六 第十五條ノ二第二項ノ規定ニ依ル選舉人ノ互選及第十五條ノ三第一項ノ規定ニ依ル議員ノ互選ニ關スル事務ハ養蠶業組合ノ組合長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者選舉管理者ト爲リ之ヲ擔任スベシ

第十六條 總會又ハ總代會ヲ召集セントスルトキハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ總會又ハ總代會ヲ組織スル者ニ通知スベシ

第十七條 總會又ハ總代會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 總會又ハ總代會ニ於テハ總會又ハ總代會ヲ組織スル者ハ總會又ハ總代會ヲ組織スル他ノ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス前項ノ規定ニ依ル委任ヲ受ケタル者ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第十九條 總會又ハ總代會ノ議長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外組合長ヲ以テ之ニ充ツ組合長事故アルトキ又ハ蠶絲業組合法第三十四條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第十八條ノ二 組合員百人以上ノ蠶種業組合又ハ製絲業組合ニ非ザレバ總代會ヲ設クルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條ノ三 總代ノ定數及選舉ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第二十七條 規定ハ總代ニ之ヲ準用ス

第十九條 蠶絲業組合法第三十三條第一項ノ規定ニ依リ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ベキ統制ニ關スル施設左ノ如シ但シ日本中央蠶絲會又ハ蠶絲業組合聯合會ノ決議ニ依リ行フモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 生産ノ調節ニ關スル施設

二 取引數量、取引價格及取引又ハ處理方法ノ統制ニ關スル施設

第二十條 總會又ハ總代會ノ議長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外組合長ヲ以テ之ニ充ツ組合長事故アルトキ又ハ蠶絲業組合法第三十四條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第二十一條 總會又ハ總代會ノ議長ハ議事録ヲ作り左ニ掲グル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名又ハ記名捺印スベシ

一 開會ノ日時及場所

二 總會又ハ總代會ヲ組織スル者ノ員數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項及贊否ノ數

第二十二條 蠶絲業組合ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十三條 收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年二月末日迄ニ行政官廳ニ之ヲ提出スベシ但シ第八條第四項ノ規定ニ依リ議決シタル收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ認可申請書ハ總會終了後遲滞ナク之ヲ提出スベシ

第二十四條 蠶絲業組合法第三十三條第一項第三號、第七號及第八號ニ掲グル事項ノ認可申請書ニハ總會又ハ總代會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スベシ

定款、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ變更並ニ借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スベシ尙借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、擔保ノ有無及種別、借入先並ニ償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

統制ニ關スル施設ノ認可申請書ニハ其ノ施設ヲ行ハントスル事由及施設ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スベシ

第二十五條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總會又ハ總代會ノ承認ヲ受ケ遲滞ナク行政官廳ニ之ヲ提出スベシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ蠶絲業組合ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出ツベシ

一 定款ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 役員ノ退任アリタルトキ

三 清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第二十七條 蠶絲業組合ノ役員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ四箇年トス但シ補闕ノ役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トシ新ニ設ケタル役員ノ任期ハ他ノ役員ノ殘任期間トス

蠶絲業組合ノ新設其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ蠶絲業組合ノ役員ト就任ノ年度ヲ異ニスル役員ノ任期ハ他ノ蠶絲業組合ノ役員ノ殘任期間トス

役員ハ其ノ任期滿了シタルトキト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十八條 蠶絲業組合ノ解散ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第二十九條 蠶絲業組合ノ清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨行政官廳ニ届出ツベシ

第三十條 蠶絲業組合ノ合併ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリ

リタルコトヲ證スル書面及合併後存続スル蠶絲業組合又ハ合併ニ因リテ設立スル蠶絲業組合ノ定款ヲ添付スベシ

第三十一條 蠶絲業組合法施行令第十二條ノ總會又ハ總代會ニ於テハ分割ノ各蠶絲業組合ノ權利義務ノ限度ニ付テハ總會又ハ總代會ヲ組織スル者ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決シ分割ノ各蠶絲業組合ノ定款其ノ他必要ナル事項ニ付テハ養蠶業組合ニ在リテハ分割ノ各養蠶業組合ノ地區内ノ議員各別ニ其ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決シ養蠶業組合以外ノ蠶絲業組合ニ在リテハ分割ノ各蠶絲業組合ノ地區内ノ組合員若ハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ分割ノ各蠶絲業組合ノ地區内ノ總代各別ニ其ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第三十二條 蠶絲業組合ノ分割ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、分割ノ各蠶絲業組合ノ定款及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

第三十三條 行政官廳蠶絲業組合ノ解散、合併又ハ分割ヲ認可シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二章 蠶絲業組合聯合會及日本中央蠶絲會

第三十四條 蠶絲業組合法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ全國産業組合製絲組合聯合會ノ會員ト爲ル産業組合又ハ産業

組合聯合會ハ農林大臣之ヲ指定ス

第三十四條ノ二 蠶絲業組合法第六十八條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條第一項ノ規定ニ依リ道府縣養蠶業組合聯合會ノ會員ト爲ルコトヲ得ル者ハ其ノ區域ガ郡市ノ區域ヲ超ユル販賣組合又ハ販賣組合聯合會トス

蠶絲業組合法第六十八條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條第一項ノ規定ニ依リ全國養蠶業組合聯合會ノ會員ト爲ルコトヲ得ル者ハ其ノ區域ガ道府縣ノ區域ヲ超ユル販賣組合聯合會トス

第十二條第一項及第十三條第一項ノ規定ハ蠶絲業組合法第六十八條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條ノ規定ニ依リ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第三十四條ノ三 蠶絲業組合聯合會ノ議員ハ其ノ會員ニ於テ各其ノ役員中ヨリ之ヲ選任ス

第三十五條 蠶絲業組合聯合會ノ會員ハ議員事故アル場合之ニ代ハルベキ豫備議員ヲ選任スベシ

前條ノ規定ハ前項ノ豫備議員ニ之ヲ準用ス

第三十六條 蠶絲業組合聯合會ノ議員及豫備議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十七條 第二十七條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會ノ議員及豫備議員ニ之ヲ準用ス

第三十八條 蠶絲業組合聯合會ノ總會ノ議長ハ會則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會長ヲ以テ、會長事故アルトキハ副會長ヲ以テ之ニ充ツ會長及副會長共ニ事故アルトキ又ハ蠶絲業組合法第六十八條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十四條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第三十九條 日本中央蠶絲會設立ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク總會ヲ開キ初年度ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ其ノ認可申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第四十條 日本中央蠶絲會ノ議員ハ其ノ會員タル蠶絲業聯合會、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ニ於テ蠶絲業組合聯合會ニ在リテハ其ノ役員又ハ議員ノ中ヨリ、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ニ在リテハ其ノ役員又ハ組合員ノ中ヨリ之ヲ選任ス

第四十一條 日本中央蠶絲會ノ議員ノ定數ハ三十人以内トシ各會員ニ付之ヲ同數ニ配當スベシ
前項ノ會員ニ付テハ蠶絲業組合法第七十四條第二項ノ規定ニ依リ會員タル生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ニ以上アル場合ニ於テハ之ヲ各一箇ノ會員ト看做ス

第四十二條 日本中央蠶絲會ノ會員ハ議員事故アル場合之ニ代ハルベキ豫備議員ヲ選任スベシ

前二條ノ規定ハ前項ノ豫備議員ニ之ヲ準用ス

第四十三條 第二十七條ノ規定ハ日本中央蠶絲會ノ議員、豫備議員及特別議員ニ之ヲ準用ス

第四十四條 日本中央蠶絲會ノ會員ノ行フ蠶絲業ノ統制ニ關スル施設ニシテ蠶絲業組合法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ日本中央蠶絲會ノ承認ヲ受ケタルコトヲ要スルモノ左ノ如シ但シ日本中央蠶絲會ノ決議ニ依リ行フモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 生産ノ調節ニ關スル施設
二 取引數量、取引價格及取引又ハ處理方法ノ統制ニ關スル施設

日本中央蠶絲會ノ會員前項ニ規定スル施設ニ付承認ヲ受ケントスルトキハ其ノ施設ヲ行ハントスル事由及施設ノ概要ヲ具シ承認申請書ヲ日本中央蠶絲會ニ提出スベシ
前項ノ承認申請書ニハ總會ノ議事録ノ謄本ヲ添付スベシ

第四十五條 前條第一項ニ規定スル施設ニ付日本中央蠶絲會ノ會員ノ農林大臣ニ提出スル認可申請書ニハ日本中央蠶絲會ノ承認アリタルコトヲ證スル書面ヲ添付スベシ

第四十六條 第二條、第三條、第四條第三項、第四項、第五條、第六條第一項乃至第三項、第九條、第十條、第十六條、第十七條、第十九條、第二十一條乃至第二十九條及第三十

三條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會及日本中央蠶絲會ニ之ヲ準用ス但シ第三條及第十六條中二週間トアルハ蠶絲業組合第五十七條第二號乃至第七號ノ蠶絲業組合聯合會及日本中央蠶絲會ニ在リテハ之ヲ三週間トス
第七條及第八條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會ニ之ヲ準用ス第三十六條及第三十八條ノ規定ハ日本中央蠶絲會ニ之ヲ準用ス但シ第三十八條中第六十八條トアルハ之ヲ第七十九條トス

第三章 雜則

第四十七條 蠶絲業組合及道府縣蠶業組合聯合會ヨリ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林大臣ニ報告スベシ
一 養蠶業組合ノ設立、解散、合併又ハ分割ヲ認可シタルトキ

二 蠶絲業組合法第十二條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲シ又ハ同法第十三條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

三 蠶絲業組合法第三十三條第一項第三號又ハ第七號ニ掲グル事項ノ認可ヲ爲シタルトキ

四 養蠶實行組合ノ設立、解散、合併若ハ分割ヲ認可シタルトキ

ルトキ又ハ養蠶實行組合ノ解散ノ届出アリタルトキ
五 蠶絲業組合法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル産業組合法第六十條第一項又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シタルトキ

第四十八條ノ二 本則ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

第四十九條 蠶絲業組合法第十二條及第十三條ノ行政官廳ハ地方長官及農林大臣トス

蠶絲業組合法第六十八條第一項及第七十九條ノ規定ニ依リ準用スル同法第十二條及第十三條ノ行政官廳ハ道府縣蠶業組合聯合會ニ在リテハ地方長官及農林大臣トシ其ノ他ノ蠶絲業組合聯合會及日本中央蠶絲會ニ在リテハ農林大臣トス

蠶絲業組合法第二十二條第一項ノ行政官廳ハ地方長官トス蠶絲業組合法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル民法第三十八條第二項、第七十二條第二項及第七十七條ノ主務官廳ハ地方長官トシ、産業組合法第六十條第一項ノ監督官廳ハ地方長官及農林大臣トス

蠶絲業組合法第二十七條第一項、第三十條、第三十三條第二項及第三十四條第三項、第四項ノ行政官廳ハ地方長官トス

ス但シ道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ニ在リテハ農林大臣トス

蠶絲業組合法第四十五條、第五十一條第一項及第五十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第二十七條第一項ノ行政官廳ハ農林大臣トス

蠶絲業組合法第四十五條、第五十一條第二項及第六十八條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十條ノ行政官廳ハ農林大臣トス

蠶絲業組合法第四十五條、第五十一條第一項、第五十六條、第六十八條第一項及第七十九條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條第二項及第三十四條第三項、第四項ノ行政官廳ハ農林大臣トス

蠶絲業組合法施行令第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條第一項及第十二條並ニ本則第二十五條、第二十六條及第二十九條ノ行政官廳ハ養蠶業組合（道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ヲ除ク）ニ在リテハ地方長官トシ道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合及養蠶業組合以外ノ蠶絲業組合ニ在リテハ農林大臣トス

蠶絲業組合法施行令第二十三條第一項ノ規定ニ依リ準用スル同法第六條第二項、第八條第二項、第九條第二項及第十條並ニ本則第四十六條第一項ノ規定ニ依リ準用スル本則第

二十五條、第二十六條及第二十九條ノ行政官廳ハ農林大臣トス

附則

本令ハ蠶絲業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年七月十五日ヨリ施行）

重要物産同業組合法ニ依リ道府縣ヲ地區トシ設置シタル蠶絲業者ノ同業組合蠶絲業組合法ニ依リ蠶絲業組合ト爲ラントスル場合ニ於テハ組合會又ハ總會ヲ開キ蠶絲業組合ノ定款ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ組合會又ハ總會ニ於テハ之ヲ組織スル者ノ半數以上出席シ其ノ表決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ議決スルコトヲ要ス第六條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

農林大臣蠶絲業組合法附則第二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ蠶絲業組合ノ名稱、地區、事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示ス其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

附則（昭和十一年十一月農林省令第三二號）

本令ハ昭和十一年法律第十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年十一月十日ヨリ施行）但シ第二十七條第二項ノ改正規定ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ養蠶業組合ノ組合員タル農會ハ其ノ養蠶業組合ガ昭和十一年法律第十號附則第六項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受クル迄第十一條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ蠶絲業組合聯合會ノ議員又ハ豫備議員タル者ハ第三十四條ノ三ノ改正規定ニ拘ラズ仍其ノ任期中議員又ハ豫備議員タル資格アルモノトス

養蠶業組合昭和十一年法律第十號附則第六項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受クル際現ニ其ノ役員タル者ニシテ道府縣養蠶業組合聯合會又ハ全國養蠶業組合聯合會ノ議員又ハ豫備議員タル者ハ仍其ノ任期中議員又ハ豫備議員タル資格アルモノトス

蠶絲業組合及蠶絲業組合聯合會ノ役員、議員、豫備議員及選舉人ニシテ昭和十四年三月三十一日ヲ以テ任期滿了セザルモノハ同日ヲ以テ任期滿了シタルモノト看做ス

昭和十一年法律第十號施行ノ際現ニ存スル養蠶實行組合同法附則第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ現ニ監事ヲ置カザルモノニ在リテハ監事ヲ選任シ申請書ニ規約及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

一 組合ノ地區内ノ養蠶者ノ數及其ノ一年間ノ繭生産額ノ概定數

二 組合員ノ數及其ノ一年間ノ繭生産額ノ概定數

三 蠶絲業組合法第十九條第三項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由

四 新ニ監事ヲ選任シタルモノニ在リテハ其ノ氏名

昭和十一年法律第十號施行ノ際現ニ存スル養蠶實行組合同法施行ノ日ヨリ二年以内ニ合併又ハ分割ノ認可ヲ受ケタルトキハ同法附則第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

昭和十一年法律第十號施行ノ際現ニ存スル養蠶業組合同法附則第六項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ同法附則第七項ノ規定ニ依リ組合員ト爲ルベキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得タル後總會ニ於テ定款ノ變更、役員ノ選任、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ申請書ヲ行政官廳ニ提出スベシ但シ組合員タル養蠶實行組合ノ組合員ノ數ガ同法附則第七項ノ規定ニ依リ組合員ト爲ルベキ者ノ數ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ同意ハ之ヲ要セズ

前項ノ申請書ニハ定款、役員ノ履歷書、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ記載シタル書面、總會ノ議事録ノ謄本及前項ノ規定ニ依リ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ養蠶實行組合ノ組合員ノ數ガ昭和十一年法律第十號附則第七項ノ規定ニ依リ養蠶業組合ノ組合員ト爲ルベキ者ノ數ヲ超ユルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

合製絲

四 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ定ムル方法

第二條 道府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ繭ノ品位ニ付檢定ヲ行フベシ

前項ノ規定ニ依ル繭ノ檢定ニ關シ必要ナル費用ハ道府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ對シ其ノ檢定施設ニ要スル經費ノ二分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

第三條 繭ノ賣買取引其ノ他命令ヲ以テ規定スル繭ノ處理ハ前條ノ檢定ニ依ル品位ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 特約取引ヲ爲サントスル者ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 蠶絲業組合又ハ繭ノ處理ヲ爲ス團體ガ其ノ組織員ノ繭ノ處理ニ關シ統制ヲ爲シタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ統制ヲ故ナク案シ又ハ案サントスル組織員ニ對シ其ノ組合又ハ團體ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ハ蠶絲業組合法第十八條第二號ニ掲グル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

地方長官昭和十一年法律第十號附則第三項又ハ第六項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示シ且農林大臣ニ之ヲ報告スベシ

● 產繭處理統制法 (昭和十一年五月二十六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル產繭處理統制法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

產繭處理統制法

第一條 養蠶者ノ依ルベキ繭ノ處理方法ハ地方ノ狀況其ノ他特別ノ事由ニ因リ生繭ノ賣買取引ヲ必要トスル場合ヲ除クノ外左ノ各號ノ掲グルモノトス

一 乾繭ニ依ル賣買取引(乾繭取引)

二 收購前爲シタル契約ニ基キテ行フ生繭ノ賣買取引(特約取引)

三 産業組合又ハ産業組合聯合會ニ依リ行フ製絲加工(組

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四條ノ認可ヲ受ケズシテ特約取引ノ契約ヲ爲シタル者

第七條 養蠶者、養蠶實行組合、繭ノ處理ヲ爲ス産業組合其ノ他ノ法人、繭ノ賣買若ハ取次ヲ業トスル者又ハ製絲業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ

罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第五條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十條 本法ハ命令ヲ以テ定ムル繭ノ處理ニ付テハ之ヲ適用

セズ

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十月勅令第三八三號ヲ以テ第一條、第四條、第五條、第六條第二號及第七條乃至第十條ノ規定ハ同年十二月一日ヨリ施行、昭和十二年三月勅令第四九號ヲ以テ第二條第二項ノ規定ハ同年四月一日ヨリ施行)

●産繭處理統制法施行規則

(昭和十一年十月二十二日)
(農林省令第三十號)

産繭處理統制法施行規則左ノ通定ム

産繭處理統制法施行規則

第一條 特約取引ノ認可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲

グル事項ヲ記載シ當事者連署ノ上繭生産地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スベシ

一 契約期間

二 繭價格ノ決定方法

三 繭代金支拂ノ時期及方法

四 繭受渡ノ場所及方法

五 買方ニ於テ賣方ニ對シ蠶種其ノ他ノ物品ノ供給又ハ購入轉旋、資金ノ融通、獎勵金ノ交付、養蠶又ハ栽桑ニ關

スル指導等ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ要領

六 第三條但書ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ特別ノ事由

第二條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 契約書案

二 契約期間内各年ノ蠶期別繭取引豫定數量ヲ記載シタル書類

三 賣方タル養蠶實行組合又ハ産業組合ニ屬スル養蠶者ノ數及其ノ一年間ノ蠶期別繭生産額概定數ヲ記載シタル書類

四 賣方タル養蠶實行組合又ハ産業組合ノ最近三年間ニ於ケル各年ノ繭處理狀況ノ概要ヲ記載シタル書類

前項ノ書類ノ外地方長官ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第三條 特約取引ノ賣方ハ蠶絲實行組合又ハ産業組合、買方ハ製絲業者、繭賣買業者又ハ蠶絲共同施設組合タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 特約取引ノ契約期間ハ三年以内タルコトヲ要ス前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新ニ

特約取引ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第五條 特約取引ノ認可ヲ受ケタル者認可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ契約ヲ爲サザルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 特約取引ノ買方其ノ賣方ニ對シ蠶種其ノ他ノ物品ノ販賣又ハ購入轉旋ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ都度數量及價格ヲ明示スルコトヲ要ス

第七條 特約取引ノ認可ヲ受ケタル者第一條第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 特約取引ノ認可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

一 特約取引ノ契約ヲ爲シタルトキ

二 特約取引ノ契約期間ヲ短縮シタルトキ

三 第一條第四號又ハ第五號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキ

四 特約取引ノ契約ヲ解約シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ在リテハ届出書ニ契約書ノ謄本ヲ添付スベシ

第九條 特約取引ヲ爲シタル者ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ特約取引報告書ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十條 特約取引ノ認可ヲ受ケタル者ノ所爲ニシテ産繭處理統制法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 乾繭ノ賣買取引ニシテ買方ニ於テ賣方ニ對シ收繭前蠶種其ノ他ノ物品ノ供給若ハ購入幹旋、資金ノ融通、獎勵金ノ交付又ハ養蠶若ハ栽桑ニ關スル指導ヲ爲スモノハ其ノ賣買取引ニ付繭生産地ヲ管轄スル地方長官ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十二條 産繭處理統制法第五條ノ繭ノ處理ヲ爲ス團體ハ繭ノ處理ヲ爲ス産業組合、産業組合聯合會及蠶絲共同施設組合トス

第十三條 蠶絲業組合又ハ繭ノ處理ヲ爲ス團體ハ總會又ハ總代會ノ決議ニ基キ地方長官ニ對シ産繭處理統制法第五條ノ規定ニ依リ命令ヲ發スルコトヲ申請スルコトヲ得

第十四條 蠶絲業組合又ハ繭ノ處理ヲ爲ス團體前條ノ申請ヲ爲サントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

一 申請ノ理由
二 統制施設
三 統制ヲ確保スル爲執リタル措置

前項ノ申請書ニハ統制施設ニ關スル決議録ノ謄本又ハ定款

及前條第一項ノ規定ニ依ル決議録ノ謄本ヲ添付スベシ
前項ノ書類ノ外地方長官ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 地方長官産繭處理統制法第五條ノ規定ニ依ル命令ヲ發セントスルトキハ豫メ農林大臣ノ指揮ヲ請フベシ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シタル者
二 第十一條ノ認可ヲ受ケズシテ乾繭ノ賣買取引ヲ爲シタル者

第十七條 第八條第一項又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 玉繭又ハ屑繭ノ處理ニ付テハ産繭處理統制法及本則ノ規定ハ之ヲ適用セズ左ノ各號ノ一ニ該當スル繭ノ處理ニ付亦同ジ

一 學術研究ノ用ニ供セントスルトキ
二 蠶種製造其ノ他生絲製造以外ノ用ニ供セントスルトキ
三 自家製絲ノ用ニ供セントスルトキ

第十九條 産繭處理統制法第四條ノ行政官廳ハ地方長官トス産繭處理統制法第五條ノ行政官廳ハ農林大臣及地方長官トス

第十三條及第十四條ニ於テ地方長官トアルハ繭ノ處理ヲ爲ス團體ノ區域ガ道府縣ノ區域ヲ超ユル場合ニ在リテハ農林大臣トス

第二十條 地方長官産繭處理統制法及本則ノ施行ニ關スル規定ヲ定メントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

附則
本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産繭處理統制法第一條第四號ノ規定ニ依リ繭ノ處理方法ヲ定ムルノ件 (昭和十一年十月二十二日勅令第三百八十四號)

朕産繭處理統制法第一條第四號ノ規定ニ依リ繭ノ處理方法ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産繭處理統制法第一條第四號ノ規定ニ依リ養蠶者ノ依ルベキ繭ノ處理方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

生絲ノ製造設備ヲ有スル者ニ委託シテ行フ製絲加工(委託製絲)

附則
本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産繭處理統制法第二條第二項但書ノ規定ニ依ル國庫補助ニ關スル件 (昭和十二年三月三十一日勅令第五十一號)

朕産繭處理統制法第二條第二項但書ノ規定ニ依ル國庫補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産繭處理統制法第二條第二項但書ノ規定ニ依ル國庫補助ハ道府縣ガ繭ノ検査ヲ行フニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ創設ノ爲ニ支出シタル額ヨリ其ノ支出ニ充ツベキ寄附金其ノ他ノ收入ヲ控除シタル精算額ニ對シ之ヲ爲ス

附則
本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九章 農地調整法關係

●農地調整法 (昭和十三年四月二日法律第六十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農地調整法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農地調整法
第一條 本法ハ互讓相助ノ精神ニ則リ農地ノ所有者及耕作者

ノ地位ノ安定及農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ以テ農村ノ經濟更生及農村平和ノ保持ヲ期スル爲農地關係ノ調整ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本法ニ於テ農地トハ耕作ヲ目的トスル土地ヲ謂フ

第三條 農地ノ所有者又ハ耕作者ハ兵役其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リテ農地ヲ自ら耕作シ又ハ管理スルコト能ハザルトキハ市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ニ農地ノ管理又ハ買取ノ申出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申出アリタル場合ニ於テハ同項ノ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農地ノ管理又ハ買取ヲ爲スコトヲ得

第四條 道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ガ農村ノ經濟更生ノ爲命令ノ定ムル所ニ依リ自作農創設維持ニ要スル土地ヲ取得シ又ハ使用スルノ必要アルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ土地ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者ニ對シ土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ關スル協議ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ團體ガ未墾地ヲ開發シテ同項ノ事業ヲ行ハントスル場合ニ於テ同項ノ規定ニ依リ協議調ハザルトキハ開發セントスル未墾地其ノ他其ノ開發ニ必要ナル土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ取得又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收益又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

用ス

第五條 行政官廳農村ノ經濟更生ノ爲必要アリト認ムルトキハ農地ノ所有者ヲシテ農地處分ニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ市町村農地委員會ニ其ノ旨ヲ通知セシムルコトヲ得

第六條 命令ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ自作地ノ讓渡若ハ貸付ヲ爲シ又ハ之ニ付物權ヲ設定スルコトヲ得ズ

第七條 前條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ前條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地タルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第一項ノ規定ニ依リ登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 農地ノ貸貸借ハ其ノ登記ナキモ農地ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ農地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セザル貸貸借ノ目的タル農地ガ賣買ノ目的ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

【參考條文】

民法第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル貸貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

同第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラザルトキハ此限ニ在ラス

第九條 農地ノ貸貸人ハ賃借人ガ宥恕スベキ事情ナキニ拘ラズ小作料ヲ滯納スル等信義ニ反シタル行爲ナキ限り賃貸借ノ解約ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ土地使用ノ目的ノ變更又ハ賃貸人ノ自作ヲ相當トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

當事者ガ農地ノ貸貸借ノ期間ヲ定メタルトキハ當事者ガ期間満了前六月乃至一年内ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ通知又

【參考條文】

民法第六百十七條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

- 一 土地ニ付テハ一年
 - 二 建物ニ付テハ三個月
 - 三 貨席及ヒ動産ニ付テハ一日
- 收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

同第六百十八條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規

定ヲ準用ス

第十條 小作關係ノ爭議ニ付公益上必要アリト認ムルトキハ小作官ハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
小作關係ノ爭議ニ付訴訟ヲ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ小作官ノ意見ヲ聽キ事件ヲ小作調停法ニ依ル調停ニ付スルコトヲ得

第十一條 小作調停法ニ依ル調停ノ爲必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ小作官ノ意見ヲ聽キ調停前ノ措置トシテ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル裁判ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ違反シタル者ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ五百圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得
非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

【參考條文】

非訟事件手續法第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ
當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
手續ノ費用ハ過料ニ處スル旨渡アリタル場合ニ於テハ其旨渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス
抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

同第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス
過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 小作調停法ニ依ル調停委員會ニ於テ調停成ラザル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ小作官及調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ小作關係ノ存續、小作條件ノ變更其ノ他爭議ノ解決上必要ナル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ小作料ノ支拂、小作地ノ引渡其ノ他財産上ノ給付ヲ命ズルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス
第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス
前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
第一項ノ規定ニ依ル裁判確定シタルトキハ裁判上ノ和解ト

同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 小作關係ノ爭議ヲ除クノ外相隣關係其ノ他農地ノ利用關係ニ付爭議ヲ生ジタルトキハ當事者ハ裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小作調停法及第十條乃至前條ノ規定ニ準用ス

第十四條 裁判所第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ小作關係ノ存續、小作條件ノ變更其ノ他爭議ノ解決上必要ナル裁判ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ市町村農地委員會又ハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽クコトヲ得
第十五條 自作農創設維持、小作關係ノ調整、農地ノ交換分合其ノ他農地ニ關スル事項ヲ處理スル爲市町村ニ市町村農地委員會ヲ、道府縣ニ道府縣農地委員會ヲ置クコトヲ得
市町村農地委員會及道府縣農地委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 左ニ掲グル不動産ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ
一 第三條又ハ第四條ノ團體ガ第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ取得
二 第四條又ハ第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地ノ取得
三 第四條又ハ第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設

ノ土地ノ取得

又ハ維持セラレタル土地ノ所有者ガ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地ノ取得

第十七條 本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズルモノトス
附則

第十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年七月勅令第五二五號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

第十九條 命令ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ依リ本法施行前ニ創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ得
第六條、第七條第二項及第三項並ニ第十六條第二號及第三號ノ規定ハ前項ノ自作地ニ關シ之ヲ準用ス

第二十條 第八條及第九條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ存スル農地ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス但シ本法施行ノ際現ニ存スル農地ノ賃貸借ニシテ本法施行後一年內ニ其ノ期間滿了スベキモノニ付當事者ガ其ノ期間滿了前一年內ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絕ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ハ第九條第二項ノ期間內ニ爲サザルモノト雖モ之ヲ同條同項ノ期間內ニ爲シタルモノト看做ス
第二十一條 第十條第二項及第十一條乃至第十四條ノ規定ハ

本法施行ノ際現ニ繫屬スル小作關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル訴訟事件又ハ調停事件ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 登録稅法第十九條但書中「第八號、第九號」ヲ「第八號乃至第九號ノ四」ニ改ム

同法同條第八號中「自作農ノ創設維持又ハ」及「北海道府縣市町村、産業組合、産業組合聯合會、」ヲ削リ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八ノ二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

同法同條第九號ヲ左ノ如ク改ム

九 農地調整法第三條若ハ第四條ノ團體又ハ第六條若ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ二 農地調整法第三條又ハ第四條ノ團體カ同法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

九ノ三 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ四 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記

同法同條第十二號ヲ左ノ如ク改ム

十二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記

●農地調整法施行令 (昭和十三年七月二十九日) (勅令第五百二十六號)

農地調整法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農地調整法施行令

第一條 農地調整法第四條ノ事業ヲ行フ團體ハ道府縣及市町村ノ外産業組合及農事實行組合トス

第二條 農地調整法第四條ノ自作農創設維持ノ事業トハ同條ノ團體ガ命令ノ定ムル所ニ依リ行フ左ノ事業ヲ謂フ

一 個人ノ自作地ト爲スベキ土地ノ購入ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ自作地ノ創設ヲ爲スコト

二 個人ノ自作地トシテ土地ヲ購入シタルニ因リ生ジタル債務ノ借替ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ自作地ノ維持ヲ爲スコト

三 個人ノ自作地ト爲ス爲ノ未墾地ノ購入若ハ開墾ニ必要

ナル資金ヲ貸付ケ又ハ其ノ開墾ニ對シ助成ヲ爲シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

四 自作地ト爲スベキ土地ヲ購入シ、自作地ト爲ス爲未墾地ヲ購入シテ開發シ又ハ自作地ト爲ス爲其ノ所有スル未墾地ヲ開發シ之ヲ資金ノ貸付又ハ代金割賦支拂ノ方法ニ依リ讓渡シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

五 其ノ所有スル土地ヲ代金割賦支拂ノ方法ニ依リ讓渡シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

第三條 農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業トハ道府縣、市町村、産業組合又ハ農事實行組合ガ直接又ハ間接ニ政府ノ資金ノ融通又ハ補助若ハ助成ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ行フ前條第一號乃至第四號ノ事業及同法第四條第二項ノ規定ニ依リ土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ取得シテ行フ前條ノ事業ヲ謂フ

第四條 農地調整法第六條ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セズ

二 自作地ノ創設又ハ維持ノ爲生ジタル事業者ニ對スル債務ノ爲其ノ自作地ニ付抵當權ヲ設定スルトキ

三 自己若ハ家族ノ兵役又ハ徵用ニ因リ自ラ耕作スルコト能ハザル場合ニ於テ事業者ノ承認ヲ得テ其ノ自作地一時貸付クルトキ讓渡ヲ爲スコト

四 自己若ハ家族ノ兵役、徵用若ハ疾病又ハ牛馬ノ徵發其ノ他特別ノ事由ニ因リ自ラ耕作スルコト能ハザル場合ニ於テ事業者ノ承認ヲ得テ其ノ自作地一時貸付クルトキ

第五條 市町村農地委員會ノ設置及廢止ハ地方長官市町村長ノ意見ヲ徵シ之ヲ定ム

第六條 市町村農地委員會ハ左ニ掲グル事項ヲ處理スルモノトス

- 一 農地調整法第三條ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋
- 二 農地調整法第四條ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋
- 三 農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋
- 四 農地調整法第五條又ハ第九條第三項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル斡旋
- 五 小作關係、相隣關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル斡旋及爭議ノ防止
- 六 農地調整法第十四條ノ規定ニ依ル裁判所ニ對スル意見

ノ申出

七 農地ノ交換分合ノ斡旋其ノ他農地事情ノ改善ニ關スル事項

八 前各號ニ掲グルモノノ外農地關係ノ調整ニ關シ地方官ノ命ズル事項

第七條 市町村農地委員會ハ當該市町村ノ區域内ニ存スル農地ニ關スル事項ヲ處理スルモノトス但シ耕作者又ハ農地ノ所有者ノ爲必要アル場合ニ於テハ他ノ市町村ノ區域内ニ存スル農地ニ關スル事項ヲ處理スルコトヲ得

市町村農地委員會其ノ處理スベキ事項ガ二以上ノ市町村ニ關係有シ之ヲ處理スルコト困難又ハ不適當ト認ムルトキハ道府縣農地委員會ニ對シ當該事項ノ處理ヲ申出ヅルコトヲ得

第八條 市町村農地委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第九條 市町村農地委員會ノ委員ハ八人以上トス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ其ノ定數ヲ増加スルコトヲ得特別ノ事項ヲ處理スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第十條 市町村農地委員會ノ會長、委員及臨時委員ハ地方長官之ヲ選任シ又ハ解任ス
會長ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市町村長之ニ選任ス

ルモノトス

第十一條 市町村農地委員會ノ會長、委員及臨時委員ハ名譽職トス
會長及委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アルトキハ任期中ト雖モ之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

補缺選任其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ委員ト選任ノ時ヲ異ニスル委員ノ任期ハ他ノ委員ノ殘任期間トス

會長ハ其ノ任期滿了シタルトキト雖モ後任ノ會長就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フ

第十二條 市町村農地委員會ノ會長、委員又ハ臨時委員ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

第十三條 市町村農地委員會ノ會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十四條 市町村農地委員會必要アリト認ムルトキハ重要ナル事項ヲ除クノ外會長ノ指名スル委員又ハ臨時委員ヲシテ其ノ事務ノ處理ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十五條 市町村農地委員會又ハ前條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ擔任スル委員若ハ臨時委員ハ事務ノ處理ノ爲必要アリト認ムルトキハ期日及場所ヲ定メ當時者ヲ呼出シ又ハ利害關係人ノ参加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 前條ノ場合ニ於テハ當事者又ハ利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村農地委員會又ハ第十四條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ擔任スル委員若ハ臨時委員ノ承認ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

市町村農地委員會又ハ第十四條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ擔任スル委員若ハ臨時委員ハ何時ニテモ前項ノ承認ヲ取消スコトヲ得

第十七條 市町村農地委員會ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十八條 市町村農地委員會ノ事務ノ處理ニ關シ當事者ノ申出ニ因リ特別ノ行爲ヲ爲シタル爲要シタル費用ニ付市町村長ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ徵スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十九條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收シタル費用ハ市町村ノ收入トス

第二十條 北海道廳又ハ府縣ノ小作官又ハ自作農創設維持其ノ他農地ニ關スル事務ニ從事スル官吏若ハ待遇官吏ハ市町村農地委員會ノ會議ニ出席シ且意見ヲ述ブルコトヲ得

第二十一條 道府縣ニ道府縣農地委員會ヲ置ク

第二十二條 道府縣農地委員會ハ左ニ掲グル事項ヲ處理スルモノトス

- 一 農地調整法第四條ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋
- 二 農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋
- 三 小作關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル斡旋及爭議ノ防止
- 四 農地調整法第十四條ノ規定ニ依リ裁判所ニ對スル意見ノ申出
- 五 第七條第二項ノ規定ニ依リ申出アリタル事項
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外農地事情ノ改善ニ關スル事項及農地關係ノ調整ニ關シ農林大臣ノ命ズル事項
- 七 道府縣農地委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 八 道府縣農地委員會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ
- 九 道府縣農地委員會ノ委員ハ十五人以上トス
- 十 特別ノ事項ヲ處理スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 十一 道府縣農地委員會ノ委員及臨時委員ハ農林大臣之ヲ選任シ又ハ解任ス
- 十二 道府縣農地委員會ノ第十一條乃至第十六條ノ規定ハ道府縣農地委員會

會ニ之ヲ準用ス

第二十八條 道府縣農地委員會ニ關スル費用ハ道府縣ノ負擔トス

第二十九條 道府縣農地委員會ノ事務ノ處理ニ關シ當事者ノ申出ニ因リ特別ノ行為ヲ爲シタル爲要シタル費用ニ付地方長官ハ其ノ實費ヲ徵スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第三十條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收シタル費用ハ道府縣ノ收入トス

第三十一條 市町村農地委員會及道府縣農地委員會ハ農林大臣及地方長官ノ監督ニ屬ス

第三十二條 農林大臣又ハ地方長官ハ市町村農地委員會又ハ道府縣農地委員會ニ對シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 本令中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズルモノトス

附則

第三十四條 本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年八月一日ヨリ施行)

第三十五條 農地調整法第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ト

ハ道府縣、市町村、産業組合又ハ農地實行組合ガ自作農創設維持補助規則若ハ自作農創設維持補助規則ニ依ル補助若ハ助成ニ依リ又ハ其ノ補助若ハ助成ニ依ルモノト左ニ掲グル事項ニ付同一ノ條件ヲ以テ道府縣ノ施設ニ依リ行ヒタル自作農創設維持ノ事業ヲ謂フ

- 一 創設又ハ維持セラルル自作地ノ所有者ノ資格
 - 二 創設又ハ維持セラルル土地ノ單價及總價額ノ制限
 - 三 自作ヲ繼續スベキ年限
 - 四 讓渡又ハ抵當權設定ノ制限
 - 五 創設又ハ維持セラルル自作地ノ所有者ガ前各號ノ事項ニ違反シタル場合ノ處置
- 第四條ノ規定ハ前項ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ニ之ヲ準用ス

●農地調整法施行規則(昭和十三年七月二十九日) (農林省令第三十二號)

農地調整法施行規則左ノ通定ム

農地調整法施行規則

第一條 農地調整法第三條ノ團體ハ市町村ノ外市農會、町村農會、産業組合、農地實行組合及養蠶實行組合トス但シ買取ノ事業ニ付テハ市農會及町村農會ヲ除ク

第二條 市町村農地委員會必要アリト認ムルトキハ農地調整

法第三條ノ團體中同條第一項ノ規定ニ依ル農地ノ管理又ハ買取ノ申出ヲ爲スベキ團體ヲ指定スルコトヲ得

第三條 農地調整法第三條第一項ノ規定ニ依リ農地ノ所有者又ハ耕作者ガ農地ノ管理又ハ買取ノ申出ヲ爲スコトヲ得ルハ兵役ノ外自己又ハ家族ノ徵用、牛馬ノ徵發、農村ノ經濟更生ノ爲ニスル移民其ノ他公共ノ爲已ムヲ得ザル事由ニ因リ自作耕作シ又ハ管理スルコト能ハザル場合トス

第四條 農地調整法第三條ノ團體同條ノ事業ヲ爲サントスルトキハ市町村農地委員會ノ審議ヲ經テ規程ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第五條 地方長官ハ何時ニテモ農地調整法第三條ノ團體ヲシテ同條ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ事業ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 農地調整法第四條又ハ第六條ノ自作農創設維持ノ事業ハ資金ノ貸付又ハ助成ニ依リ之ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 自作地ノ創設又ハ維持ヲ受クル者ハ現ニ農業ニ從事シ自作地ノ經營ヲ持續スルコトヲ得ル見込アル者ナルコト
- 二 自作地ノ創設ヲ受クル者ハ土地ガ小作地又ハ借地ナル場合ニ於テハ其ノ小作人又ハ借地人ナルコト但シ其ノ他

ノ者ニ對シ自作地ノ創設ヲ爲スコトニ付其ノ小作人又ハ借地人ガ同意シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

三 自作地トシテ創設又ハ維持ヤラルル土地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作ノ障礙トナルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト

四 自作地ノ創設ヲ受クル者ガ購入セントスル土地ノ購入價格ハ附録ニ定ムル算式ニ依ル標準價格(特ニ必要アルトキハ附録ニ定ムル算式ニ依リ算出シタル價格ノ範圍内ニ於テ農林大臣ノ定ムルモノ)及當該地方ノ普通價格ヲ超エザルモノナルコト

五 自作地ノ維持ヲ受クル者ガ借替ヲ爲サントスル債務額ハ前號ノ標準價格及普通價格ヲ超エズ且其ノ土地ノ購入價格ハ購入當時ニ於ケル前號ノ標準價格及普通價格ヲ超エザルモノナルコト

六 未墾地ノ開墾ニ依リ自作地ノ創設ヲ爲ス場合ニ於テハ未墾地ノ價格ニ開墾費(助成アル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ控除ス)ヲ加算シタルモノガ開墾ニ依ル土地ノ第四號ノ標準價格及普通價格ヲ超エザル見込アルモノナルコト

七 創設又ハ維持セラルル自作地ノ價額ハ一世帯ニ付田畑ニ在リテハ四千圓、宅地ニ在リテハ五百圓ヲ超エザルモノナルコト但シ自作地ノ創設又ハ維持ヲ受クル者ガ現ニ

田畑又ハ宅地ヲ所有スル場合ニ於テハ其ノ田畑又ハ宅地
(維持ノ場合ニ於テハ維持セントスル田畑又ハ宅地ヲ除
ク)ノ價額ト購入シ又ハ維持セントスル田畑又ハ宅地ノ
價額トノ合計額ガ田畑ニ在リテハ四千圓(農林大臣ノ特
ニ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ付テハ六千圓)、宅地ニ
在リテハ五百圓ヲ超エザルモノナルコト

八 貸付利率ハ年三分二厘以下トシ償還期間ハ据置期間ヲ
除キ原則トシテ二十四年トスルコト

九 貸付ハ年賦償還又ハ半年賦償還ノ方法ニ依リ之ヲ爲シ
元金ト利息トヲ併セ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシム
ルコト

十 創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ハ資金ノ貸付
ヲ受ケタル場合ニ於テハ貸付ノ際決定セラレタル償還期
間内(其ノ償還期間内ニ債務ノ辨済ヲ完了セザルトキハ
其ノ辨済ヲ完了スル迄ノ期間)、助成ヲ受ケタル場合ニ於
テハ助成ヲ受ケタル年ヨリ起算シ三十年間事業者ノ承認
ヲ得ルニ非ザレバ自作地ヲ讓渡シ、自作ヲ廢止シ又ハ貸
付金ノ擔保トシテ事業者ノ取得スル抵當權ヲ除クノ外其
ノ土地ノ上ニ抵當權若ハ自作ノ障礙トナルベキ權利ヲ設
定スルコトヲ得ザルモノトスルコト

十一 創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者事業者ノ承

認ヲ得テ其ノ土地ヲ自作地トシテ讓渡スル場合ニ於テハ
讓受人ガ第一號ノ資格ヲ有シ且農地ヲ所有セズ又ハ第七
號但書ニ該當スル者ニシテ事業者ニ對スル一切ノ義務ヲ
承繼スルモノナルトキニ限ルモノトスルコト

十二 創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ガ創設又ハ
維持ノ條件ニ違反シタル場合ニ於テ貸付金ノ未償還金ア
ルトキハ事業者ハ一時ニ之ヲ返還セシメ又ハ其ノ定ムル
條件ヲ以テ創設又ハ維持セラレタル自作地ヲ先買スルコ
トヲ得ルモノトスルコト

前項ノ自作農創設維持ノ事業ハ代金割賦支拂ノ方法ニ依リ
土地ヲ讓渡シテ之ヲ爲ス場合ニ於テハ前項各號ノ例ニ依ル
コトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依ル自作農創設維持ノ事業ヲ爲ス者其ノ事
業ノ爲自作地ト爲スベキ土地又ハ開發シテ自作地ト爲スベ
キ未墾地ヲ購入スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要
ス

一 購入セントスル土地ガ小作地又ハ借地ナル場合ニ於テ
ハ其ノ小作人又ハ借地人ニ付自作地ノ創設ヲ爲スコトヲ
得ルモノナルコト但シ其ノ他ノ者ニ對シ自作地ノ創設ヲ
爲スコトニ付其ノ小作人又ハ借地人ガ同意シタルトキハ
此ノ限ニ在ラズ

二 自作地ト爲スベキ土地ニ在リテハ購入後五年以内ニ、
開發シテ自作地ト爲スベキ未墾地ニ在リテハ開發完了後
遲滞ナク之ヲ讓渡シ自作地ノ創設ヲ爲スコト但シ行政官
廳ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 自作地ト爲スベキ土地又ハ自作地ト爲ス爲開發シタル
土地ハ前號ニ依リ自作地ノ創設ヲ爲ス迄ノ期間ハ其ノ創
設ヲ受ケタル者ヲシテ之ヲ耕作シ又ハ使用セシムルコト

四 自作地ト爲スベキ土地又ハ開發シテ自作地ト爲スベキ
未墾地若ハ開發シタル土地ハ第二號ニ依ル讓渡又ハ前號
ニ依ル貸付ノ場合ヲ除クノ外行政官廳ノ承認ヲ得ルニ非
ザレバ之ヲ自作地ノ創設ノ用ニ供セズ、之ヲ貸付ケ若ハ
讓渡シ又ハ之ニ付抵當權其ノ他ノ物權ヲ設定スルコトヲ
得ザルコト

前項第二號及第四號ノ行政官廳ハ道府縣ガ自作農創設維持
ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ農林大臣、其ノ他ノ團體ガ之ヲ
行フ場合ニ於テハ地方長官トス

第七條 農地調整法第四條又ハ第六條ノ團體同條ノ自作農創
設維持ノ事業ヲ行ハントスルトキハ道府縣ニ在リテハ農林
大臣ノ、市町村、産業組合又ハ農地實行組合ニ在リテハ地
方長官ノ認可ヲ受クベシ但シ市町村、産業組合又ハ農地實
行組合ガ農林大臣ノ承認ヲ得タル道府縣ノ施設ニ基キ行フ

場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 道府縣前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左
ノ書類ヲ添附シ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

- 一 事業計畫書
 - 二 事業ニ關スル收支豫算書
 - 三 事業ニ關スル諸規程
 - 四 資金ニ關スル調書、起債議決書ノ謄本及起債ニ關スル
許可書ノ寫
 - 五 未墾地ノ開發事業ノ施行ニ關シ必要ナル認可、許可、
議決又ハ同意ヲ證スル書面
- 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズ
ルコトアルベシ
- 前二項ノ規定ハ道府縣ガ前條ノ承認ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準
用ス

第九條 農地調整法第四條ノ團體同條第一項ノ認可ヲ受ケン
トスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ道府縣ニ在リテハ
農林大臣ニ、市町村、産業組合又ハ農事實行組合ニ在リテ
ハ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

- 一 取得シ又ハ使用セントスル土地ノ地目、地番、面積及
其ノ土地ニ關シ現ニ存スル權利ノ内容ヲ記載シタル書面
- 二 取得セントスル權利ノ内容ヲ記載シタル書面

三 協議ヲ必要トスル事由及協議ヲ求メントスル者ノ住所氏名ヲ記載シタル書面

四 取得シ又ハ使用セントスル土地ノ附近ノ土地事情ヲ記載シタル書面

五 道府縣農地委員會又ハ市町村農地委員會ノ審議ノ結果ヲ記載シタル書面

第十條 地方長官ハ農地調整法第五條ノ規定ニ依リ區域及通知ヲ爲スベキ場合ヲ定メ其ノ區域内ニ在ル農地ノ所有者ヲシテ農地處分ノ一月前迄ニ其ノ農地ノ所在スル市町村農地委員會ニ其ノ旨ヲ通知セシムルコトヲ得

地方長官前項ノ命令ヲ爲シタルトキハ其ノ旨農林大臣ニ報告スベシ

第十一條 農地調整法第六條ノ自作地ノ所有者同條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ事業者ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ事業者ハ遲滯ナク意見ヲ附シ之ヲ地方長官ニ進達スルコトヲ要ス

第十二條 農林大臣又ハ地方長官ハ何時ニテモ農地調整法第四條又ハ第六條ノ事業ヲ行フ團體ヲシテ同條ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ事業ノ狀況ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 農地調整法第九條第三項ノ規定ニ依ル通知ハ解約ノ申入ヲ爲シ又ハ更新拒絶ノ通知若ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ヲ通知ヲ發スル日ヨリ一月前迄ニ農地ノ所在スル市町村農地委員會ニ、農地ノ所在スル市町村農地委員會ナキ場合ニ於テハ相手方ノ居住スル市町村ノ市町村農地委員會ニ之ヲ爲スベシ

第十四條 地方長官市町村農地委員會ヲ設置シ又ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ告示シ且農林大臣ニ報告スベシ

第十五條 市町村農地委員會ノ會長、委員又ハ臨時委員ノ選任ニ付テハ地方長官ハ市町村長ノ意見ヲ徵スベシ

第十六條 道府縣農地委員會ノ委員又ハ臨時委員ノ選任ニ付テハ農林大臣ハ地方長官ノ意見ヲ徵スルモノトス

第十七條 本則中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズルモノトス

附則

本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年八月一日ヨリ施行)

附錄

小作料金額一公租公課
0.06033

備考

一 小作料ハ平年作ニ於ケル實納小作料ニ依ルコト但シ小作料ノ定ナキ土地ニ在リテハ其ノ土地ニ類似スル土地ノ小作料ニ依ルコト

小作料ガ平年作ニ於ケル收穫高ニ比シ不適當ト認メラルトキハ適當ナル額ヲ以テ小作料ニ代フルコト

二 小作料及收穫高ヲ價額ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ物ノ價格ハ當該地方ニ於ケル最近五年ノ平均價格ヲ用フルコト但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 小作權賣買ノ慣行アル地方ニ於テ土地ノ購入ニ際シ其ノ土地ノ小作權ヲ併セ購入スル場合ニ於テハ小作料ハ小作權者ガ轉貸スル場合ニ於ケル又小作料ニ依ルコト

四 算式中ノ公租公課ニハ地租、地租附加税又ハ之ニ準ズベキ地方税、農會費中地租割及水利組合費(北海道ニ在リテハ土功組合費)ヲ含ムモノトス

●農地調整法施行規則第六條ニ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ關スル件

(昭和十三年八月二十七日)
農林省令第三十三號

農地調整法施行規則第六條第一項第七號ノ特ニ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ關スル件左ノ通定ム

農地調整法施行規則第六條第一項第七號ノ特ニ定ムル自作農創設維持ノ事業ハ支那事變又ハ支那事變ニ際シテノ滿洲ニ於ケル軍事行動ニ關シ戰鬪其ノ他ノ公務ニ從事シ爲ニ死歿シタル者ノ遺族又ハ之ガ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者若ハ其ノ家族ニ對シテ行フ自作農創設維持ノ事業トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●農地調整法施行ニ關スル件

(昭和十三年九月八日)
農林省訓令第九號

廳 府 縣

農地調整法施行ニ關スル件

政府ガ新ニ農地調整法ヲ制定シタル所以ノモノハ農業經營及農家生活ノ基礎タル農地ニ關スル諸般ノ關係ヲ調整シ之ニ依リ農地ノ所有者及耕作者ノ地位ノ安定向上及農業生産力ノ維持増進ヲ圖リ以テ農村經濟ノ更生振興及農村平和ノ保持ヲ期セントスルニ在リ之ガ爲ニ本法ハ我國農村本來ノ美風タル互讓相助ノ精神ニ則リ我國農業ノ特質タル家族制度ノ上ニ立ツ農業經營ノ基礎ヲ安固ナラシムル趣旨ヲ以テ

一 兵役其ノ他特別ノ事由アル農家ノ申出ニ依リ市町村其ノ他適當ナル團體ヲシテ農地ノ管理又ハ買取ヲ爲シ以テ農地

調整上適切ナル處理ヲ爲サシムルノ制度ヲ拓キタルコト

- 一 自作農創設維持ノ事業ニ關スル體系ヲ整備シタルコト
- 一 農地ノ貸貸借ノ存續消滅ニ關スル實體的規律ヲ爲シタルコト

一 小作調停制度ヲ擴充強化シ且小作關係以外ノ農地ノ利用關係ニ關スル調停制度ヲ拓キタルコト

一 市町村農地委員會及道府縣農地委員會ヲ設置スルコトトシ農地ニ關スル各般ノ事項ニ關シ自治的ニ實情ニ即シタル處理ヲ爲サシムルコトト爲シタルコト

等ニ關シテ規定ヲ設ケタルモ農地ニ關スル實體的規定ハ農村ノ實情ニ鑑ミ根本的且普遍的ナル事項ニ關スルモノニ限り之ヲ定メ爾餘ノ事項ニ關シテハ市町村農地委員會及道府縣農地委員會ヲシテ地方ノ實情ニ即シ自治的ニ之ガ處理ヲ爲サシムルコトト爲シタリ仍テ農地委員會ノ委員ノ選定並ニ之ガ指導監督ニ萬全ヲ期シ之ガ公正ナル活動ニ依リ簡易敏捷ニ各地農村ノ實情ニ即應シテ農地關係調整ノ實ヲ舉ゲシムルコトト肝要ナリ

現下非常ノ時局ニ鑑ミルニ本法ノ圓滑適正ナル運用ニ依リ事態ノ推移ニ備ヘ農地關係ノ調整ヲ圖リ殊ニ應召農家ノ農地ノ處置等ニ萬遺憾ナカラシメ以テ銃後農村ニ苟クモ不安ナカラシムルコト洵ニ緊要ナリ地方ニ於テ直接本法運用ノ衝ニ當ル

地方長官ハ克ク其ノ本旨ヲ體シ管下農村全般ニ互リ十分趣旨ヲ徹底セシメ本法所期ノ目的ノ達成ヲ期スベシ

●自作農創設維持補助成規則

(昭和十二年十月二十三日)
(農林省令第四十六號)

【沿革】 昭和十三年八月省令第三四號改正

自作農創設維持補助成規則左ノ通定ム

自作農創設維持補助成規則

第一條 農林大臣ハ自作農ノ創設又ハ維持ヲ圖ル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金又ハ助成金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ道府縣ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フ爲借入タル簡易生命保險積立金其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル資金ノ年賦償還金(利息ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス

一 個人ノ自作農地(自家用宅地ヲ含ム以下之ニ同ジ)ト爲スベキ土地ノ購入若ハ自作農地ノ維持(自作農地トシテ農地ヲ購入シタルニ因リ生ジタル債務ニシテ其ノ農地ヲ抵當トスルモノ其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムルモノノ借替)又ハ自作農地ト爲ス爲ノ未墾地ノ開墾ニ必要ナル資金ノ貸付

二 市町村其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ガ自作農ノ

創設ノ爲ニ行フ土地ノ購入又ハ未墾地ノ開發ニ必要ナル資金ノ貸付

三 道府縣ガ自作農ノ創設ノ爲ニ行フ未墾地ノ購入又ハ開發

助成金ハ道府縣ノ左ニ掲グル獎勵金又ハ費用ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス

一 個人ガ自作農地ト爲ス爲ニ行フ未墾地ノ開墾ノ工事費又ハ之ニ對スル市町村其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ獎勵金ニ對シ交付スル獎勵金

二 市町村其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ガ自作農ノ創設ノ爲ニ未墾地ノ開發ヲ行フ場合ニ於ケル左ニ掲グル費用又ハ獎勵金ニ對シ交付スル獎勵金

(イ) 開墾並ニ之ニ附隨シテ行フ農業經營上必要ナル土地ニ關スル工事及施設ニ要スル費用

(ロ) 移住家屋及共同建造物ノ建設ニ要スル費用又ハ之ニ對シ交付スル獎勵金

三 道府縣ガ自作農ノ創設ノ爲ニ未墾地ノ開發ヲ行フ場合ニ於ケル前號(イ)ノ費用又ハ(ロ)ノ費用若ハ獎勵金

第三條 補助金ノ額ハ借入金ノ年賦償還金ト其ノ年利率ヲ三分二厘トシテ計算シタル年賦償還金トノ差額ヲ標準トス
前條第二項第一號ノ獎勵金ニ對スル助成金ノ額ハ其ノ工事

費ノ十分ノ四以内トス

前條第二項第二號ノ獎勵金又ハ第三號ノ費用若ハ獎勵金ニ對スル助成金ノ額ハ左ノ標準ニ依ル

一 (イ)ノ費用ニ關スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ十分ノ四以内

二 (ロ)ノ費用又ハ獎勵金ニ關スルモノニ在リテハ移住家屋ニ付テハ一戸當參百圓以内、共同建造物ニ付テハ其ノ建設ニ要スル費用ノ十分ノ三以内

第四條 補助金ノ交付ヲ受クル道府縣ハ自作農地トシテ農地ヲ購入シ又ハ自作農地ヲ維持セントスル個人ニ對シ第二條第一項第一號ノ資金ノ貸付ヲ行フ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一 借受人ハ現ニ農業ニ從事シ自作農地ノ經營ヲ持續スルコトヲ得ル見込アル者ナルコト

二 借受人ハ購入セントスル農地ガ小作地又ハ借地ナル場合ニ於テハ其ノ小作人又ハ借地人ナルコト但シ其ノ他ノ者ニ對シ自作農ノ創設ヲ行フコトニ付其ノ小作人又ハ借地人ガ同意シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

三 購入セントスル農地ノ購入價格ハ借受人ガ自作農地ノ經營ヲ持續スルコトヲ得ル爲附録ニ定ムル算式ニ依ル標準價格及當該地方ノ普通價格ヲ超エザルモノナルコト

- 四 小作權買買ノ慣行アル地方ニ於テ農地ノ購入ニ際シ其ノ小作權ヲ併セ購入スル場合ニ於テハ農地ノ購入價格ニ小作權ノ購入價格ヲ加算シタルモノガ前號ノ標準價格及普通價格ヲ超エザルモノナルコト
- 五 維持ノ爲借替ヲ爲サントスル債務額ハ第三號ノ標準價格及普通價格ヲ超エズ且其ノ農地ノ購入價格(小作權ヲ併セ購入シタル場合ニ於テハ小作權ノ購入價格ヲ加算シタルモノ)ガ購入當時ニ於ケル第三號ノ標準價格及普通價格ヲ超エザルモノナルコト
- 六 購入シ又ハ維持セントスル農地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作ノ障礙ト爲ルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト
- 七 購入シ又ハ維持セントスル農地ノ價額ハ田畑ニ在リテハ四千圓、宅地ニ在リテハ五百圓ヲ超エザルモノナルコト但シ借受人ガ現ニ田畑又ハ宅地ヲ所有スル場合ニ於テハ其ノ田畑又ハ宅地(維持ノ場合ニ於テハ維持セントスル田畑又ハ宅地ヲ除ク)ノ價額ト購入シ又ハ維持セントスル田畑又ハ宅地ノ價額トノ合計額ガ夫々四千圓(昭和十三年農林省令第三十三號ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ付テハ六千圓)又ハ五百圓ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス
- 八 貸付金額ハ田畑ニ在リテハ四千圓以内、宅地ニアリテ

- ハ五百圓以内トシ農地ノ購入價額又ハ借替ヲ爲サントスル債務額ノ全額トスルコト但シ全額未滿ノ貸付ヲ受ケントスル者ニ對スル貸付金額ハ其ノ申込額トス
- 九 貸付利率ハ農林大臣ノ適當ト認ムル場合ヲ除クノ外二十年償還期間ハ農林大臣ノ適當ト認ムル場合ヲ除クノ外二十年以下ヲラザルコト
- 十 貸付八年賦償還又ハ半年賦償還ノ方法ニ依リ元金ト利息トヲ併セ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシムルコト
- 十一 借受人ガ前號ニ依ル償還金額ノ外未償還金額ヲ償還セントスルコトキハ之ヲ認ムルコト
- 十二 購入シ又ハ維持シタル農地ノ收穫高ガ不可抗力ニ因リ著シク減少シ又ハ皆無トナリタルトキハ借受人ノ事情ニ應ジ償還方法ヲ適當ニ變更スルコト
- 十三 購入シ又ハ維持シタル農地ノ全部ノ上ニ貸付金ノ擔保トシテ第一抵當權ヲ設定セシムルコト
- 十四 借受人ハ償還了了リタルトキト雖モ貸付ノ際決定セラレタル償還期間内又ハ第十二號ニ依リ變更セラレタル償還期間内ハ貸付者ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ自作ヲ廢止シ又ハ前號ノ抵當權ヲ除クノ外其ノ農地ノ上ニ抵當權若ハ自作ノ障礙トナルベキ權利ヲ設定スルコトヲ得ザルモノトスルコト

- 十五 借受人ハ前號ノ期間内農地ヲ讓渡スコトヲ得ザルモノトスルコト但シ貸付者ノ定ムル制限ニ從ヒ農地ヲ貸付者ニ又ハ貸付者ヲ經テ第三者ニ讓渡ス場合ハ其ノ限ニ在ラス
- 十六 前號ニ依リ農地ヲ貸付者ヲ經テ第三者ニ讓渡ス場合ニ於テハ其ノ讓受人ハ第一號ノ資格ヲ具備シ且農地ヲ所有セズ又ハ第七號但書ニ該當ス者ルニシテ借受人ノ債務ヲ引受クルモノナルコト
- 十七 前號ノ讓受人ナキ場合ニ於テ其ノ他ノ者ニ農地ヲ讓渡シタルトキハ讓渡ノ際借受人ヲシテ未償還金額ヲ返還セシムルコト
- 十八 借受人ガ前號ニ依ル條件ニ違反シタルトキハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシメ又ハ未償還金額ヲ免除スル條件ニ依リ左ノ金額(借受人ガ購入シタル農地ノ上ニ賣買ノ慣行アル小作權ヲ有シタル場合ニ於テハ其ノ小作權ノ價額ヲ加算シタルモノ)ヲ以テ農地ヲ先買スルコトヲ得ルモノトスルコト
 - (イ) 購入價額ノ全額ニ相當スル金額ノ貸付ヲ行ヒタル場合ニ於テハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額
 - (ロ) 購入價額ノ一部ニ相當スル金額ノ貸付ヲ行ヒタル場合又ハ維持ノ爲貸付ヲ行ヒタル場合ニ於テハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額ニ貸付當時ニ於ケル

- 其ノ農地ノ價額(購入ノ場合ニ於テハ購入價額)ト貸付金額トノ差額ヲ加算シタル金額
 - 一 資金ノ貸付又ハ獎勵金ノ交付ヲ受クル者ハ現ニ農業ニ従事シ自作農地ノ經營ヲ持續スルコトヲ得ル見込アル者ナルコト
 - 二 未墾地ノ價格ニ開墾費(但シ獎勵金ノ交付アル場合ニ於テハ之ヲ控除ス)ヲ加算シタルモノガ開墾ニ依ル農地ノ附録ニ定ムル算式ニ依ル標準價格及當該地方ノ普通價格ヲ超エザル見込アルモノナルコト
 - 三 未墾地ノ開墾ニ依ル農地ノ價額ハ田畑ニ在リテハ四千圓、宅地ニ在リテハ五百圓ヲ超エザルモノナルコト但シ資金ノ貸付又ハ獎勵金ノ交付ヲ受クル者ガ現ニ田畑又ハ宅地ヲ所有スル場合ニ於テハ其ノ田畑又ハ宅地ノ價額ト開墾ニ依ル田畑又ハ宅地ノ價額トノ合計額ガ夫々四千圓(昭和十三年農林省令第三十三號ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ付テハ六千圓)又ハ五百圓ヲ超エザルモノトスルコト

ノナルコト

- 四 購入シ又ハ開墾セントスル未墾地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作ノ障礙ト爲ルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト
- 五 貸付金額ハ田畑ト爲ス場合ニ於テハ四千圓以内、宅地ト爲ス場合ニ於テハ五百圓以内トシ未墾地ノ購入價額及開墾費ノ全額トスルコト但シ全額未滿ノ貸付ヲ受ケントスル者ニ對スル貸付金額ハ其ノ申込額トス
- 六 据置期間ヲ五年以内トスルノ外貸付利率、償還期間、償還方法等ニ付テハ前項第九號乃至第十三號ノ例ニ依ルコト
- 七 未墾地又ハ其ノ開墾ニ依ル農地ノ利用又ハ處分ニ付テハ前項第十四號乃至第十七號ノ例ニ依ルコト但シ資金ノ貸付ヲ行ハザル場合ニ於テハ前項第十四號及第十五號ノ期間ハ獎勵金交付ノ時ヨリ三十年間トスルコト
- 八 資金ノ貸付又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ資金ノ貸付ヲ行ヒタルトキハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシメ、獎勵金ノ交付ヲ行ヒタルトキハ獎勵金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ジ又ハ獎勵金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止スルコトヲ得ルモノトスルコト

(イ) 前數號ニ依ル條件ニ違反シタルトキ

- (ロ) 開墾ノ全部若ハ一部ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ開墾ノ成績不良其ノ他目的達成困難ナルトキ
- 九 前號ノ場合ニ於テ道府縣ハ未墾地ノ購入ノ爲ノ貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシムルコトニ代ヘ未償還金額ヲ免除スル條件ニ依リ左ノ金額ヲ以テ土地ヲ先買スルコトヲ得ルモノトスルコト
- (イ) 未墾地ノ購入價額ノ全額ニ相當スル金額ノ貸付ヲ行ヒタル場合ニ於テハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額ニ開墾ニ因リ現ニ存スル増價額ヲ加算シタル金額
- (ロ) 未墾地ノ購入價額ノ一部ニ相當スル金額ノ貸付ヲ行ヒタル場合ニ於テハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額ニ未墾地ノ購入價額ト貸付金額トノ差額及開墾ニ因リ現ニ存スル増價額ヲ加算シタル金額

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ自作農ノ創設ヲ行フ爲農地ヲ購入セントスル市町村其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ニ對シ第二條第一項第二號ノ資金ノ貸付ヲ行フ場

- 合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス
- 一 購入セントスル農地ガ小作地又ハ借地ナル場合ニ於テハ其ノ小作人又ハ借地人ニ付第四號ニ依リ自作農ノ創設ヲ行フコトヲ得ルモノナルコト但シ其ノ他ノ者ニ對シ自作農ノ創設ヲ行フコトニ付其ノ小作人又ハ借地人ガ同意シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 購入セントスル農地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作農ノ創設ニ障礙ト爲ルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト
- 三 据置期間ヲ五年以内トスルノ外貸付利率、償還期間、償還方法等ニ付テハ前條第一項第九號乃至第十一號ノ例ニ依ルコト
- 四 購入シタル農地ハ資金貸付ノ時ヨリ五年以内又ハ特別ノ事由ニ因リ道府縣ノ承認ヲ得タル期間内ニ前條第一項各號ノ例ニ依リ資金ノ貸付ニ代ヘ代金割賦支拂ノ方法ヲ以テ自作農地トシテ之ヲ讓渡スモノトスルコト但シ道府縣ノ承認ヲ得テ第二條第一項第一號ノ資金ノ貸付ニ依リ讓渡スコトヲ妨ゲズ
- 五 購入シタル農地ハ前號ニ依リ自作農ノ創設ヲ行フ迄ノ期間ハ其ノ創設ヲ受ケントスル者ヲシテ之ヲ耕作シ又ハ使用セシムルモノトスルコト
- 六 購入シタル農地ハ道府縣ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ

- 自作農ノ創設ノ用ニ供セズ、之ヲ貸付ケ若ハ讓渡シ又ハ之ニ付抵當權其ノ他ノ物權ヲ設定スルコトヲ得ザルモノトスルコト但シ第四號ニ依ル讓渡又ハ前號ニ依ル貸付ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ
- 七 借受者ガ前數號ニ依ル條件ニ違反シタルトキハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシムルコトヲ得ルモノトスルコト
- 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ自作農ノ創設ヲ行フ爲未墾地ヲ購入シ且開發シ又ハ其ノ所有スル未墾地ヲ開發セントスル市町村其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ニ對シ第二條第一項第二號ノ資金ノ貸付又ハ同條第二項第二號ノ獎勵金ノ交付ヲ行フ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス
- 一 購入シ又ハ開發セントスル未墾地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作農ノ創設ニ障礙トナルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト
- 二 据置期間ヲ五年以内トスルノ外貸付利率、償還期間、償還方法等ニ付テハ前條第一項第九號乃至第十一號ノ例ニ依ルコト
- 三 未墾地ノ開發ニ依ル農地ハ開發完了後遲滞ナク前條第一項各號ノ例ニ依リ資金ノ貸付ニ代ヘ代金割賦支拂ノ方

- 法ヲ以テ自作農地トシテ之ヲ讓渡スモノトスルコト但シ道府縣ノ承認ヲ得テ第二條第一項第一號ノ資金ノ貸付ニ依リ讓渡スコトヲ妨グズ
- 四 未墾地ノ開發ニ依ル農地ハ前號ニ依リ自作農ノ創設ヲ行フ迄ノ期間ハ其ノ創設ヲ受ケントスル者ヲシテ之ヲ耕作シ又ハ使用セシムルモノトスルコト
- 五 移住家屋又ハ共同建造物ヲ建設スル場合ニ於テハ道府縣ノ定ムル所ニ依リ未墾地ノ開發ニ依ル農地ニ付自作農ノ創設ヲ受ケル者ヲシテ使用セシメ又ハ之ニ讓渡スモノトスルコト
- 六 第二條第二項第二號(ロ)ノ獎勵金ヲ交付スル場合ニ於テハ未墾地ノ開發ニ依ル農地ニ付自作農ノ創設ヲ受ケル者ノ移住家屋又ハ共同建造物ノ建設ニ要スル費用ニ對シ道府縣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ交付スルコト
- 七 未墾地若ハ其ノ開發ニ依ル農地又ハ移住家屋若ハ共同建造物ハ道府縣ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ自作農ノ創設ノ用ニ供セズ、之ヲ貸付ケ若ハ讓渡シ又ハ之ニ付抵當權其ノ他ノ物權ヲ設定スルコトヲ得ザルモノトスルコト但シ第三號乃至第五號ニ依ル讓渡又ハ貸付ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ
- 八 資金ノ貸付又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ一ニ該

當スル場合ニ於テハ資金ノ貸付ヲ行ヒタルトキハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシメ、獎勵金ノ交付ヲ行ヒタルトキハ獎勵金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ其ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトヲ得ルモノトスルコト

(イ) 前號ニ依ル條件ニ違反シタルトキ

(ロ) 開發事業ノ全部若ハ一部ヲ停止シ若ハ廢止シタルトキ

キ又ハ開發事業ノ成績不良其ノ他目的達成困難ナルトキ

第六條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受ケル道府縣ハ自作農ノ創設ヲ行フ爲メ第二條第一項ノ資金ヲ借入レ又ハ同條第二項ノ助成金ノ交付ヲ受ケテ未墾地ヲ購入シ且開發シ又ハ其ノ所有スル未墾地ヲ開發セントスル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 購入シ又ハ開發セントスル未墾地ハ其ノ上ニ抵當權又ハ自作農ノ創設ニ障礙トナルベキ權利ガ存在セザルモノナルコト
- 二 未墾地ノ開發ニ依ル農地ハ開發完了後遲滞ナク第四條第一項各號ノ例ニ依リ資金ノ貸付ニ代ヘ代金割賦支拂ノ方法ヲ以テ自作農地トシテ之ヲ讓渡スコト但シ農林大臣ノ認可ヲ得テ第二條第一項第一號ノ資金ノ貸付ニ依リ讓渡スコトヲ妨グズ

- 三 未墾地ノ開發ニ依ル農地ハ前號ニ依リ自作農ノ創設ヲ行フ迄ノ期間ハ其ノ創設ヲ受ケントスル者ヲシテ之ヲ耕作シ又ハ使用セシムルコト
- 四 移住家屋又ハ共同建造物ヲ建設スル場合ニ於テハ未墾地ノ開發ニ依ル農地ニ付自作農ノ創設ヲ受ケル者ヲシテ使用セシメ又ハ之ニ讓渡スモノトスルコト
- 五 第二條第二項第三號ノ獎勵金ヲ交付スル場合ニ於テハ未墾地ノ開發ニ依ル農地ニ付自作農ノ創設ヲ受ケル者ノ移住家屋又ハ共同建造物ノ建設ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付スルコト
- 六 未墾地若ハ其ノ開發ニ依ル農地又ハ移住家屋若ハ共同建造物ハ農林大臣ノ認可ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ自作農ノ創設ノ用ニ供セズ、之ヲ貸付ケ若ハ讓渡シ又ハ之ニ付抵當權其ノ他ノ物權ヲ設定セザルコト但シ第二號乃至第四號ニ依ル讓渡又ハ貸付ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ
- 第七條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受ケル道府縣ハ農林大臣ノ適當ト認ムル自作農審議會ヲ設ケ自作農ノ創設又ハ維持ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議セシムルコトヲ要ス

ノ適當ト認ムル機關ヲ設ケシメ自作農ノ創設又ハ維持ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議セシムルコトヲ要ス

第八條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ毎年二月末日迄之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

- 一 事業計畫書
- 二 事業ニ關スル收支豫算書
- 三 事業ニ關スル諸規程
- 四 第二條第一項ノ資金ニ關スル借入調書、起債議決書ノ謄本及起債ニ關スル許可書ノ寫
- 五 未墾地ノ開發事業ノ施行ニ關シ必要ナル認可、許可、議決又ハ同意ヲ證スル書面

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第九條 補助金又ハ助成金ノ交付ノ申請ヲ爲シタル道府縣ハ前條ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出シタル書類ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第十條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受ケル道府縣ハ第八條ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出シタル書類ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ輕微ナル事項ヲ變更セントスル場合ハ此ノ限ニ

在ラズ

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ其ノ變更ニ付認可、許可、議決又ハ同意ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ證スル書類ヲ添附スベシ

第一項但書ノ場合ニ於テハ變更シタル事項ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第十一條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クル道府縣ハ道府縣又ハ第二條第一項第二號ノ資金ノ貸付若ハ同條第二項第二號ノ獎勵金ノ交付ヲ受クル市町村其ノ他ノ團體ガ未墾地ノ開墾、移住家屋ノ建設、共同建造物ノ建設等ノ工事ヲ開始シ又ハ終了シタルトキハ夫々遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第十二條 補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クル道府縣ハ翌年度六月三十日迄ニ自作農創設維持調書、事業ニ關スル收支決算書及事業報告書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第十三條 農林大臣又ハ地方長官ハ補助金若ハ助成金ノ交付ヲ受クル道府縣、第二條第一項ノ資金ノ貸付若ハ同條第二項ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ自作農ノ創設若ハ維持ヲ行フ市町村其ノ他ノ團體又ハ自作農ノ創設若ハ維持ヲ受クル個人ヲシテ事業其ノ他ニ關スル報告ヲ爲サシメ、當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類、會計若ハ工事ヲ検査セシメ又ハ必要ナル

處分ヲ爲スコトアルベシ
農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ道府縣、市町村其ノ他ノ團體ノ事業計畫又ハ事業ニ關スル規程ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ補助金又ハ助成金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ其ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ違反シタルトキ
- 二 補助金又ハ助成金ノ交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業ノ全部又ハ一部ヲ停止シ又ハ廢止シタルトキ
- 四 事業ノ成績不良其ノ他目的達成困難ト認メタルトキ
- 五 事業施行ノ方法其ノ他ニ付不適當ト認ムル事實アリタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條第一項中二月末日迄トアルハ昭和十二年度ニ限り十一月十五日迄トス

自作農創設維持補助規則ハ之ヲ廢止ス

自作農創設維持補助規則ニ依リ交付ノ指令アリタル補助金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附錄

小作料金額一公租公課
標準價格 0.05033

備考

- 一 小作料ハ平年作ニ於ケル實納小作料ニ依ルコト但シ小作料ノ定ナキ農地ニ在リテハ其ノ農地ニ類似スル農地ノ小作料ニ依ルコト
- 小作料ガ平年作ニ於ケル收穫高ニ比シ不適當ト認メラルトキハ適當ナル額ヲ以テ小作料ニ代フルコト
- 二 小作料及收穫高ヲ價額ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ物ノ價格ハ當該地方ニ於ケル最近五年ノ平均價格ヲ用フルコト但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 小作權賣買ノ慣行アル地方ニ於テ農地ノ購入ニ際シ其ノ農地ノ小作權ヲ併セ購入スル場合ニ於テハ小作料ハ小作權者ガ轉貸スル場合ニ於ケル又小作料ニ依ルコト
- 四 算式中ノ公租公課ニハ地租、地租附加税及ハ之ニ準ズベキ地方税、農會費中地租割及水利組合費（北海道ニ在リテハ土功組合費）ヲ含ムモノトス

●自作地登記令

(昭和十三年七月二十九日勅令第五百二十七號)

朕自作地登記令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自作地登記令

第一條 農地調整法第七條第一項ノ自作地ノ登記ハ道府縣又ハ市町村ガ事業者ナルトキハ其ノ囑託ニ因リ、産業組合又ハ農事實行組合ガ事業者ナルトキハ其ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ囑託又ハ申請ヲ爲スニハ自作地ナル旨ノ地方長官ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 前條第一項ノ囑託又ハ申請アリタルトキハ登記官吏ハ其ノ土地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ土地ガ農地調整法ニ依ル自作地ナル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 自作地ノ讓渡アリタル場合ニ於テ其ノ讓渡ニ因リ自作地タラザルモノト爲リタル土地ニ付所有權移轉登記ノ申請ヲ爲スニハ自作地タラザルモノト爲リタル旨ノ地方長官ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

登記官吏前項ノ移轉登記ヲ爲シタルトキハ之ト共ニ前條ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ自作地ニ付競賣又ハ公賣ノ處分アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 自作地ニシテ農地調整法施行令第四條第一號ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ付行政官廳ノ認可ヲ要セザルニ至リタルモノニ付テハ其ノ所有者ハ第二條ノ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ其ノ旨ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第五條 前四條ノ規定ハ農地調整法第十九條第一項ノ自作地ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年八月一日ヨリ施行）

第十章 税法關係

●所得税法抄（大正九年七月三十一日）

〔沿革〕 大正十一年四月法律第四五號、同十二年三月同第八號、同第二九號、同年四月同第四一號、同十五年三月同第八號、昭和九年六月同第五〇號、同十三年三月同第四三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得税法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得税法

信託ノ利益

乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得税法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル

被相續人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノニハ資本利子稅ヲ課セス

- 一 所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
- 二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

●登録税法抄（明治二十九年三月二十八日）

（法律第二十號）

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
- 二 社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
- 三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供ス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- 五 第十四條第一項第六號ノ所得中營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

●資本利子税法抄（大正十五年三月二十七日）

（法律第十二號）

〔沿革〕 昭和十三年三月法律第四三號改正
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル資本利子税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

資本利子税法

第一條 本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子稅ヲ課ス

第二條 資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付

ル不動産ニ關スル登記

四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

五 市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲メ市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記

七 恩給金庫、產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、庶民金庫、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會又ハ肥料製造業組合ニ付恩給金庫法、產業組合法、庶民金庫法、蠶絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業組合法、貿易組合法又ハ重要肥料業統制法ニ基キテ爲ス登記

八 負債整理ノ爲ニスル負債整理組合又ハ農村負債整理組

合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

八ノ二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

九 農地調整法第三條若ハ第四條ノ團體又ハ第六條若ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ二 農地調整法第三條又ハ第四條ノ團體カ同法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

九ノ三 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ四 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記

十 北海道府縣市町村、產業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一 住宅又ハ住宅用地ニ付產業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

十二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記

十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記

十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

十五 市町村、產業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負債整理ノ爲ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

十六 市町村、產業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、產業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記

●登録稅法施行規則抄(明治三十二年五月十九日)

勅令第二百五十五號

【沿革】 明治三十八年三月勅令第七號、大正三年十月同第二二五號、同十年十月同第一七號、昭和二年三月同四六號、同四年四月同第九三號、同八年五月同第一一五號、同年七月同第二〇六號、同十二年十二月同第七〇〇號、同十三年六月同第四〇三號、同年七月同第五二八號改正

朕登録稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録稅法施行規則

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登録稅法第十九條第八號ノ二乃至第九號ノ四又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス

一 北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合カ行フ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 北海道府縣市町村、產業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合ニ對シ農地調整法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

三 北海道府縣市町村、產業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合カ農地調整法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニス

ル土地ノ權利ノ取得ノ登記

四 北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合カ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

五 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記

六 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、產業組合又ハ農事實行組合ノ土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ二 左ニ掲クル住宅又ハ住宅用地ニ付產業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登録稅法第十九條第十一號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス但シ一人ニ付各一個ニ限ル

一 住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅

二 七十坪以下ノ住宅用地

●印紙稅法

(明治三十二年三月十日)

法律第五十四號

【沿革】 明治三十四年四月法律第一六號、同四十年三月同第二七號、同四十二年五月同第四二號、同四十三年三月同第一四號、同四十四年三月同第四一號、大正十一年四月

同第四七號、同十二年三月同第一二號、同十四年三月同第二二號、昭和二年三月同第七號、同六年三月同第四四號、同年四月同第五二號、同第六二號、同七年九月同第二五號、同八年三月同第三三號、同十一年五月同第一四號、同十二年八月同第七四號、同十三年四月同第五七號、同五八號改正
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙税法

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 (削除)

第三條 (削除)

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

- 一 不動産、鐵道財團、軌道財團、自動車交通事業財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書
- 二 消費貸借ニ關スル證書
- 三 請負ニ關スル證書

記載金高五十圓以下ノモノ 二錢
同百圓以下ノモノ 三錢
同五百圓以下ノモノ 十錢
同千圓以下ノモノ 二十錢
同一萬圓以下ノモノ 五十錢

四 運送ニ關スル證書

同一萬圓ヲ超ユルモノ
記載金高ナキモノ 三錢

五 備船契約書

二錢

六 委任狀

七 約束手形

八 爲替手形

九 銀行預金證書

十 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書

十一 産業組合聯合會、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、商業組合、商業組合聯合會、貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ發スル出資證券

十二 船荷證券

十三 運送貨物引換證

十四 倉庫證券

十五 保險證券

十六 株券

十七 債券

十八 相互保險會社ノ發スル基金證券

十九 株式申込證

二十 社債申込證

二十一 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書

二十二 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書

二十三 信託行爲ニ關スル證書

二十四 無盡ニ關スル證書

二十五 定款又ハ組合契約書

二十六 權利ノ變更ニ關スル證書

二十七 追認又ハ承認ニ關スル證書

二十八 物品切手

二十九 受取書

三十 質權、抵當權ニ關スル證書

三十一 前各號以外ノ證書

三十二 預金通帳

三十三 前號以外ノ通帳

三十四 判取帳

三錢

五錢

五十錢

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シタル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

二 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿

三 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

四 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書

五 小切手

五ノ二 恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書帳簿

六 産業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券

六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及庶民債券

七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形

八 貯金通帳、積金通帳又ハ積金證書 (貯蓄銀行法第一條ノニ限ル)

九 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ

其ノ記載金高十圓未滿ノモノ

十 記載金高十圓未滿ノ物品切手

十一 賣買仕切書

十二 物品又ハ有價證券ノ賣買契約證書

十三 送狀

十四 記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

十五 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書

十六 手形及證券ノ裏面又ハ之ニ併記シタル受取書

十七 株券又ハ債券ニ記載シタル讓渡ノ證明書

十八 手形ノ引受及保證

十九 手形又ハ證券ノ拒絕證書

二十 手形又ハ證券ノ複本及謄本

二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券

二十二 質札又ハ質物通帳(質屋營業者ノ發スルモノニ限ル)

二十三 勤務通帳

二十四 乘車券、乘船券又ハ各種入場券

二十五 第四條第一號乃至第五號及第三十一號ノ證書ニシテ記載金高十圓未滿ノモノ

第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押

捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ證書、帳簿ニシテ營業ニ關スルモノハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ二圓ノ科料ニ處ス

第十四條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法中犯罪ノ不成立、刑ノ減免、併合罪及酌量減輕ノ例ヲ用キス但シ第十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ二 證書、帳簿ノ作成名義人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人等カ名義人ノ爲ニ作成スル證書、帳簿ニ關シ本法ニ違反シ之ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ名義人ヲ處罰ス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附則 (大正十二年三月法律第一二號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十四年三月法律第二二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十四年八月勅令第二六八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

附則 (昭和二年三月法律第七號)

第一類 法規、第十章 稅法關係

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●印紙稅ニ關スル件(大正四年十一月二十九日主稅局通牒)

産業組合ニ於テ作成シ又ハ之ニ向テ發スル證書ノ印紙稅ハ左ノ通り取扱フコト(自一至五並七ハ昭和二年三月法律第七號ニ依リ消滅)

六 産業組合ニ於テ其組合員又ハ組合員以外ノ者ニ對シ發スル受取書ハ營業ニ關セサル受取書トシテ第五條ニ依ルコト

(參照)
第五條 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

(自一至十略)

十一 賣買仕切書

(十二、十三略)

十四 記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

(十五略)

十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書

(自十七至二十略)

● 產業組合ノ事務所ニ對シ家屋稅賦

課ノ件

昭和二年十一月十八日農地第四號
各地方官宛
內務省地方官宛
大藏省主稅局長 通牒

家屋稅ノ賦課ヲ不適當トスル家屋ノ範圍ニ關シテハ本年三月三十一日發地第三號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處產業組合ノ事務所(賃借ニ係ル建物ヲ除ク)ニ對シテモ可成家屋稅ヲ賦課セサルヲ穩當ト被認候ニ付可然御措置相成度

● 產業組合ノ自治監査ニ於ケル書類

ニ對シ印紙稅法適用ニ關スル件

農稅第一二五〇號
農林省農務局長宛大藏省主稅局長通牒

本月二日附七農局第二一八一號ヲ以テ御照會相成候首標ノ件了承右ハ御來旨ノ通印紙貼用ノ要無之モノト思料致候此段及回答候也

(右照會文)

產業組合員カ其ノ組合ニ對スル債務現在高ニ付組合監事ノ照會ニ對シテ發スル回答書ノ印紙稅ニ關スル件

七農局第二一八一號
大藏省主稅局長宛農務局長通牒

產業組合ノ監事ノ行フ組合監査所謂自治監査ノ勵行ハ從來當省ニ於テ獎勵シ來リシ所ニ有之候處監事カ監査執行ノ方法トシテ各組合員ニ對シ其ノ組合ニ對スル債務現在高ニ關シ照會ヲ發シタル場合之ニ對スル組合員ノ回答書ニ付島根縣下稅務署ニ於テハ印紙稅法第四條第一項第二十七號ニ該當スル書類トシテ印紙ノ貼用ヲ要スルモノト取扱ハレ居ル趣ニテ同縣知事ヨリ別紙ノ如キ照會有之候然ル處前記組合員ノ回答書ハ監事ヨリ照會ニ對シ監事宛發セラル、モノニシテ債權者タル組合ニ對スルモノニアラス從ツテ印紙稅法ニ所謂承認ニ關スル證書ニハ該當セサルモノト解セラレ島根縣知事ヨリ照會セラル所ハ相當理由アルモノト被認候ニ付テハ可然御詮議ノ上右書類ニ付テハ印紙貼用ノ要無之様御配慮相煩度此段及照會候也

● 府縣力住宅供給ヲ目的トスル產業組合ノ有スル抵當權ヲ擔保トスル附記登錄稅ニ關スル件

昭和三年五月四日 民事第五〇五三號
主稅局長宛 民事局長 通牒

本年四月十七日附藏第九四三號御照會ニ係ル件ハ產業組合カ當該借入金ヲ住宅供給ノ目的ニ使用スルコト確保セラルルニ於テハ貴見ノ通思考致候此段及回答候也

(右照會文)

昭和三年四月十七日藏稅第九四三號主稅局長問合

府縣力住宅供給ヲ目的トスル產業組合ニ其ノ資金トシテ貸付タル債權ノ爲ニ產業組合ノ有スル抵當權ヲ擔保トスル附記登錄ニ對スル登錄稅ノ取扱方ニ付別紙ノ通り農林省農務局長ヨリ照會有之候處右ハ登錄稅法第十九條第十號規定ノ趣旨ニ依リ免除スルヲ相當ト認メラレ候得共貴局御意見承知致度候右及照會候也

(別紙)

昭和三年二月十三日 三農第一三〇一號
大藏省主稅局長宛農林省農務局長

府縣力住宅供給ヲ目的トスル產業組合ノ有スル抵當權ヲ擔保トスル附記登錄稅ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通東京府知事ヨリ照會ノ次第モ有之候處貴省ノ意見承知致度此段及照會候也

(別紙)

昭和三年二月四日 辰商發第六二號
農林次官宛東京府知事

府縣力住宅供給ヲ目的トスル產業組合ノ有スル抵當權ヲ擔保トスル附記登錄稅ニ關スル件

府縣力住宅供給ヲ目的トスル產業組合ニ融通セル資金ノ擔保トシテ住宅ノ抵當權ヲ取得スル登記ニ關シテハ登錄稅法第十

九條第十號ニヨリ登錄稅ヲ賦課セラレサル儀ニ有之候處同様ノ趣旨ヲ以テ組合ノ有スル抵當額ヲ債權ノ擔保トスル附記登錄ニ付テモ右ニ準シ登錄稅ヲ免除セラルルモノト被存候モ一應貴省ノ御意見承知致度此段及照會候也

● 產業組合加入申込書ノ印紙稅ニ關スル件

昭和九年八月四日 九農部第八五二號
岩手縣知事宛經濟更生部長通牒

首題ノ件ニ關シ照會有之候處產業組合加入申込書ハ加入申込ノ豫約及組合設立ノ場合ニ於ケル申込ト解スヘク株式申込證ノ如ク申込ニ因リ直ニ出資ノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハス且又直ニ社員タル資格ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ財產權ノ創設ヲ證スル證書ト謂フヲ得テ印紙稅法ノ適用ヲ受ケス右及回答候也

追而本件ニ就テハ仙臺稅務監督局ニ於テ產業組合加入申込書ハ印紙ノ貼附ヲ要セサル證書ト決定シ其旨管下ノ各稅務署宛通牒シタル趣ニ付爲念申添候

● 有價證券移轉稅法抄

昭和十二年三月三十日 法律第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル有價證券移轉稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

有價證券移轉稅法

第一條 有價證券ノ賣買、交換、贈與、遺贈其ノ他ノ原因ニ因ル移轉アリタルトキハ本法ニ依リ有價證券移轉稅ヲ課ス

第八條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得稅其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ハ有價證券移轉稅ヲ納ムルコトヲ要セズ

第十一章 諸法規

●日本勸業銀行法 (明治二十九年四月二十日) (法律第八十二號)

【沿革】

明治三十一年六月法律第二號、同三十三年三月同第三九號、同三十五年四月同第四一號、同三十六年六月同第三九號、同三十八年三月同第四八號、同四十年四月同第三七號、同四十二年四月同第三二號、同四十三年四月同第三五號、同四十四年三月同第二六號、同四十五年四月同第一五號、大正三年三月同第二四號、同四年六月同第二〇號、同六年七月同第一七號、同七年三月同第二五號、同九年七月同第一八號、同十年四月同第一一號、同十二年八月同第二二號、同十四年四月同第三三號、同十五年三月同第一號、昭和六年三月同第二一號、同年四月同第六二號、同八年三月同第三一號、同十一年五月同第一一號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一十萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ增加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ五十圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ハ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

前項ニ規定スルモノノ外農工銀行ノ存在セサル府縣毎ニ地方顧問二人以内ヲ置クコトヲ得

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

地方顧問ハ定款ノ定ムル所ニ依リ當該府縣内ニ於ケル日本

勸業銀行ノ業務ニ關シ總裁ノ諮問ニ應ス

第七條 總裁副總裁ハ四百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ百二十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

地方顧問ハ當該府縣内ニ住所ヲ有シ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第八條 總裁副總裁及日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌スル理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第三章 株主總會

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 (削除)

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得但シ水産業ノ爲貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ漁業權ヲ抵當トスルコトヲ得

前項ノ貸付金額及第三十一條ノ二ノ貸付金額ハ拂込資本金及積立金總高ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ス

第四章 營業

日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得但シ水産業ノ爲貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ漁業權ヲ抵當トスルコトヲ得

前項ノ貸付金額及第三十一條ノ二ノ貸付金額ハ拂込資本金及積立金總高ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ス

鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス

第十四條ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地若ハ建物ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付金額並第十五條第五項ノ貸付金額ハ拂込資本金額及勳業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超過スルトヲ得ス

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得
産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得
農工銀行ノ存在セサル府縣内ニ於テ八十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り五箇年以内ニ於テ定期

償還ノ方法ニ依リ又ハ十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得
第十五條ノ二 日本勸業銀行ハ割増金附勳業債券ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚池ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付、漁業權ヲ抵當トスル貸付、前條第一項乃至第四項ノ貸付及農工債券又ハ産業債券ノ引受ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキ又ハ先順位ノ抵當權者カ日本勸業銀行ニシテ舊貸付金額及新貸付金額カ第十八條ノ制限ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス
日本勸業銀行ニ於テ漁業權ヲ抵當トシテ貸付スル場合ニハ有價證券又ハ不動産ヲ添擔保ニ徵スルコトヲ得

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添擔保ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付タル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス漁業權ヲ抵當トスルトキ亦同シ

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ
前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 (削除)

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ因リ之ヲ定メサルコトヲ得

第二十一條ノ二 年賦償還期限前天然事變其ノ他避クヘカラスル事故アリタルトキハ五箇年以内ニ於テ更ニ据置年限ヲ

定ムルコトヲ得

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得
債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ

收用セラルル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス
其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還要求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ
第二十九條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

- 一 預リ金四分ノ一以上ハ國債證券若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ大藏省預金部若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ預入ルコト
 - 二 前號ノ證券又ハ農産物、水産物、工業製造品ヲ擔保トスル手形ノ割引又ハ短期貸付ヲ爲スコト
 - 三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト
 - 四 農工銀行ノ存在セサル府縣内ニ於テ十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り無擔保ニテ短期貸付ヲ爲スコト
 - 五 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト
- 定期預リ金ハ前項ノ外第十四條第二項及第三十一條ノ二ノ定期償還貸付ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第三十二條ノ二** 日本勸業銀行ハ府縣市ノ爲ニ其ノ金銭出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得
- 第三十二條ノ三** 日本勸業銀行ハ其ノ發行スル債券ニシテ政府ノ所有又ハ保管ニ係ルモノヲ日本銀行ノ爲ニ管理スルコトヲ得

債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行、北海道拓殖銀行、産業組合中央金庫又ハ朝鮮殖産銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ農工銀行ノ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ擔保トシテ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得

第三十一條ノ二 日本勸業銀行ハ不動産ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十六條第一項、第十七條、第十八條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ貸付ノ擔保タル債權ニ附隨スル抵當權及其ノ目的タル不動産ニ之ヲ準用ス

第三十一條ノ三 日本勸業銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得

本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用ス

第三十一條ノ四 日本勸業銀行ハ預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得但シ定期預リ金及第三十二條ノ二ニ依リ取扱ヒタル金銭ニシテ運用ヲ許サレタル公金預リ金以外ノ預リ金ノ總額ハ拂込資本金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十五倍ヲ限り勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高、定期償還貸付金總高並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、産業債券及朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

勸業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス

勸業債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十五條ノ二 日本勸業銀行ハ券面金額二十圓以下ノ勸業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス
第一項ノ規定ニ依リ發行スル勸業債券ニハ商號及商法第百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ勸業債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額及商法第百七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス

賣出ノ方法ニ依リ勸業債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十五條ノ三 日本勸業銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第三十五條ノ四 勸業債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、産業債券及朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ
日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増

金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條ノ二 日本勸行銀行ハ第二十三條ニ依リ期限前ノ償還ヲ受ケタル場合ニ於テハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ金額ヲ限度トシ勸業債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

但シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ六箇月毎ニ複利ノ計算ヲ爲シ一定ノ年數毎ニ又ハ元金償還ノ時迄据置キ之ヲ仕拂フコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ元金償還ノ時迄利子据置ノ方法ヲ以テ發行スル勸業債券ニハ利札ヲ附セサルコトヲ得

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行、北海道拓殖銀行、産業組合中央金庫又ハ朝鮮殖産銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得

ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第四十二條 割増金附無記名勸業債券又ハ其ノ利札ヲ喪失シタル者ハ擔保ヲ提供シ又ハ確實ナル保證人ヲ立テ其ノ元金、割増金又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セム

トスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視モシム

大藏大臣ハ農工銀行ノ存在セサル府縣ニ日本勸業銀行地方監理官ヲ置キ當該府縣内ニ於ケル日本勸業銀行ノ業務ヲ監

視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官及日本勸業銀行地方監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得
日本勸業銀行監理官及日本勸業銀行地方監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得
日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セザルトキ政府ハ創立初期ヨリ十箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若クハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ
一 第十四條第十四條ノ二又ハ第十五條ノ二ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ
三 第三十一條ノ四但書ノ規定ニ反シ預リ金ヲ爲シ又ハ第三十二條ノ規定ニ反シ預リ金若ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
五 第三十四條第三十五條ノ三ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス
六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ
七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ
第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
第五十八條 (削除)
附則
第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ
第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ
第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス
第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス
設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

● 農工銀行法

(明治二十九年四月二十日法律第八十三號)

【沿革】 明治三十二年三月法律第三三號、同三十三年三月同第四〇號、同三十五年三月同第一六號、同年四月同第四二號、同第四三號、同三十六年六月同第一〇號、同四十四年四月同第三八號、同四十二年四月同第三三號、同四十四年四月同第三六號、同四十四年三月同第二七號、同四十五年四月同第一六號、大正三年三月同第二五號、同四年六月同第二二號、同六年七月同第一八號、同八年四月同第四九號、同九年七月同第二一號、同十年四月同第八二號、同十二年三月同第三三號、同十五年三月同第二二號、昭和二年三月同第二二號、同六年三月同第二二號、同年四月同第六二號、同八年三月同第三一號、同十一年五月同第一一號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス
前項ノ株式金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ五十圓迄ニ上スコトヲ得
第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得
第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス
第四條 農工銀行ノ取締役及監査役ハ農工銀行ノ營業區域内ニ住所ヲ有スルコトヲ要ス
第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣市町村及市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區モ亦其ノ株主タルコトヲ得
第二章 營業
第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一 五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 拂込資本金及積立金總高ノ二倍ニ相當スル金額ヲ限リ
 不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
 三 府縣市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無
 抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト
 四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地
 整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共
 同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ無抵當
 ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコト
 五 十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任
 ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノ
 ニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ又ハ十箇
 年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコ
 ト
 六 都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ
 土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルト
 キ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ
 ハ無抵當ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコト
 第六條ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ
 外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地
 若ハ建物ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ
 含ム)ヲ質トスル貸付金額並前條第六號ノ貸付金額ハ拂込

資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得
 第七條 前條ノ貸付ハ勅令ヲ以テ指定スル地方ニ限リ拂込資
 本金額及農工債券發行額迄之ヲ増加スルコトヲ得
 第七條ノ二 農工銀行ハ第六條第二號ノ制限内ニ於テ漁業權
 ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得
 第七條ノ三 農工銀行ハ第六條第二號ノ制限内ニ於テ不動産
 ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トシ五箇年以内ノ
 定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得
 第八條第一項、第九條、第十條、第十八條及第十九條ノ規
 定ハ前項ノ貸付ノ擔保タル債權ニ附隨スル抵當權及其ノ目
 的タル不動産ニ之ヲ準用ス
 第七條ノ四 農工銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得
 本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用
 第七條ノ五 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業
 組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ
 無抵當ニテ第六條第一號又ハ第二號ノ貸付ヲ爲スコトヲ得
 第七條ノ六 農工銀行ハ日本勸業銀行カ割増金附勸業債券ノ
 發行ニ依リテ得タル資金ヲ以テ引受ケタル農工債券ニ依ル
 資金ヲ田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚池ヲ抵當トシ又

ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付、
 漁業權ヲ抵當トスル貸付並第六條第三號乃至第五號、第七
 條ノ二及第七條ノ五ノ貸付ノ外使用スルコトヲ得ス但シ大
 藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 農工銀行ニ於テ抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナ
 ルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入ス
 ル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵
 當トナルコトヲ得ヘキトキ又ハ先順位ノ抵當權者カ農工銀
 行ニシテ舊貸付金額及新貸付金額カ第十條ノ制限ヲ超エサ
 ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 農工銀行ニ於テ漁業權ヲ抵當トシテ貸付クル場合ニハ有價
 證券又ハ不動産ヲ添擔保ニ徵スルコトヲ得
 第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ
 確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル
 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限
 ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産
 又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコ
 トヲ得
 第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ
 鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス漁業權ヲ抵當スルトキ
 亦同シ

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ
 通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ
 前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部
 償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 (削除)
 第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ五箇年以内ニ於テ前
 置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ依リ之ヲ定メサルコトヲ
 得
 第十三條ノ二 年賦償還期限前天災事變其ノ他避クヘカラサ
 ル事故アリタルトキハ五箇年以内ニ於テ更ニ据置年限ヲ定
 ムルコトヲ得
 第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シ
 タルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂
 フノ義務ヲ負フ
 第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償
 還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ
 依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得
 第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキ
 ハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其

ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ
償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ
對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ
若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ
得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前
ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收
用セラルル場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ
償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ
供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限
ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應ス
ヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣市町村其ノ他法律
ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利
子ノ拂込期日ヲ過キ其ノ拂込ヲ爲ササルトキ又ハ期限前ノ
償還要求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ農工銀行ハ監督
官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ農工銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ、
市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一
次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣市町村其ノ他法律ヲ以
テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ
拂込マシムヘシ

第二十一條 (削除)

第二十二條 農工銀行ハ預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ
保護預リヲ爲スコトヲ得但定期預リ金及第二十四條第二項
ニ依リ取扱ヒタル金銀ニシテ運用ヲ許サレタル公金預リ金
以外ノ預リ金ノ總額ハ拂込資本金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條 農工銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又
ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

一 預リ金四分ノ一以上ハ國債證券若ハ大藏大臣ノ認可ヲ
受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ大藏省預金部若ハ大藏大
臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ預入ルルコト

二 前號ノ證券又ハ農産物、水産物、工業製造品ヲ擔保ト
スル手形ノ割引又ハ短期貸付ヲ爲スコト但シ定期預リ金
ハ第六條及第七條ノ三ノ貸付ニ使用スルコトヲ得

三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合又
ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲ス

コト

四 十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任
ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ
限り無擔保ニテ短期貸付ヲ爲スコト

五 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行又ハ他ノ農工銀行ノ代
理店タルコトヲ得

農工銀行ハ府縣市ノ爲ニ其ノ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ
得

農工銀行ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ
日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ
得

農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ
擔保トシテ日本勸業銀行ヨリ年賦償還ノ方法ニ依リ借入金
ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ不動産ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質
トシ日本勸業銀行ヨリ定期償還ノ方法ニ依リ借入金ヲ爲ス
コトヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコ
トヲ得ス

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタル
トキハ拂込金額ノ十五倍ヲ限り農工債券ヲ發行スルコトヲ
得但シ年賦償還貸付金總高及定期償還貸付金總高ヨリ第二
十四條第四項及第五項ニ依リ質ト爲シタルモノヲ控除シタ
ル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ
應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條
ノ二ノ規定ヲ適用セス

農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記
載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル
旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社
債總額トス

第二十六條ノ二 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券
ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス

第一項ノ規定ニ依リ發行スル農工債券ニハ商號及商法第百
七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載
スルコトヲ要ス

商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ農工債券ノ賣出期間滿

了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル農工債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス

賣出ノ方法ニ依リ農工債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル農工債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十六條ノ三 農工銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ農工債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第二十七條 農工銀行ハ少クとも年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ但シ第二十四條第四項又ハ第五項ニ依リ質ト爲シタルモノノ償還高ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ

以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セザルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第三十三條 (削除)

第四條 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監督官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監督官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監督官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條第六條ノ二第七條又ハ第七條ノ六ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十二條但書ノ規程ニ反シ預リ金ヲ爲シ又ハ第二十三條ノ規程ニ反シ預リ金若ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條又ハ第二十六條ノ三ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 (削除)

第四十八條 北海道廳長官及府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經

テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ銀行法ヲ適用ス

附則 (昭和二年三月法律第二二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年十一月勅令第三二六號ヲ以テ昭和三年一月一日ヨリ施行)

附則 (昭和六年三月法律第二二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年七月勅令第一八七號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

北海道拓殖銀行法 (明治三十二年三月二十二日法律第七十六號)

【沿革】 明治三十八年三月法律第五〇號、同四十年四月同第三九號、同四十二年三月同第一〇號、同年四月同第三四號、同四十四年四月同第三七號、同四十四年三月同第二九號、同四十五年四月同第一七號、大正四年六月同

第二一號、同五年三月同第二四號、同六年七月同第一九號、同九年七月同第二〇號、同十一年四月同第六九號、同十二年三月同第四號、同十五年三月同第三號、昭和二年三月同第二三號、同六年三月同第二三號、同年四月同第六二號、同八年三月同第三一號、同十一年五月同第一一號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道拓殖銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 北海道拓殖銀行ハ北海道及樺太ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ以テ目的トス

北海道拓殖銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ北海道札幌ニ置ク

第二條 北海道拓殖銀行ノ資本金ハ三百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 北海道拓殖銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第四條 北海道拓殖銀行ニ取締役四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第五條 取締役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會

ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三箇年トス
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第六條 取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス但シ營利ヲ目的トセサル職務ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 營業

第七條 北海道拓殖銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付

二 五十箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付

三 北海道樺太ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其ノ社債券ノ應募、引受

四 爲替、荷爲替及北海道樺太ノ產物ヲ擔保トスル貸付

五 預リ金及保護預リ

六 手形ノ割引

七 擔保附社債ニ關スル信託事業
八 他銀行ノ業務代理
九 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

拓殖銀行ハ前項第四號ニ依ルノ外仍北海道樺太ノ產物ノ貯藏ヲ主タル目的トスル倉庫内ニ貯藏スル產業上必要ノ貨物ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得

漁業權ヲ抵當トシテ貸付クル場合ニハ有價證券又ハ不動産ヲ添擔保ニ徵スルコトヲ得

北海道拓殖銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ又ハ五十箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ北海道又ハ樺太ニ於ケル鐵道財團又ハ軌道財團ヲ抵當トスル貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ二 北海道拓殖銀行ハ五十箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ三 北海道拓殖銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得
本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用ス

第八條 北海道、北海道ニ於ケル市又ハ法律ニ依リ組織スル北海道若ハ樺太ノ公共團體ニ對シ北海道拓殖銀行又ハ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトヲ得
耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出テタルトキ又ハ共同施

行者カ連帯責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帯責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ又ハ十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

於テ年賦償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第八條ノ二 北海道拓殖銀行ハ前四條ニ依ルノ外預リ金ヲ以テ國債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ擔保トスル短期貸付ヲ爲スコトヲ得

第八條ノ三 第七條第一項第三號第四號第六號、同條第二項及前條ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ第七條第一項第一號第二號、同條第四項第七條ノ二及第八條ニ依ル貸付金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券

地方債證券社債券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ應募引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

第十條 北海道拓殖銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ樺太ニ於テ營ム業務ニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十二條 北海道拓殖銀行ハ拂込資本金額ノ十五倍ヲ限リ債

第四條 北海道拓殖債券

券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス

北海道拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス

第十二條ノ二 北海道拓殖銀行ハ券面金額二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス 第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商法及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第十二條ノ三 北海道拓殖銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第十三條 北海道拓殖銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ其ノ債券ヲ償還スヘシ

第十四條 北海道拓殖銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ前條ト同時期ニ抽籤ヲ以テ延滞金額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第十五條 北海道拓殖銀行ハ債券借換ノ爲一時第十二條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ 第十五條ノ二 北海道拓殖債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第五條 準備金

第十六條 北海道拓殖銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テテ及利益配當ノ

平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十七條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監督ス

第十八條 北海道拓殖銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 北海道拓殖銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 北海道拓殖銀行ハ年賦償還貸付金利子ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十一條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十二條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ北海道拓殖銀行ニ對シ支店代理店ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 北海道拓殖銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

北海道拓殖銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ニ命シテ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十六條 北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第二十八條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第二十九條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十一條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十二條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十三條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

四 第十三條第十四條及第十五條第二項ノ規定ニ反シ債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

五 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

第二十八條 北海道拓殖銀行ノ取締役第六條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 北海道拓殖銀行ノ發行スル債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第三十條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行設立委員ヲ置キ北海道拓殖銀行ノ設置ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北海道拓殖銀行取締役ニ引渡スヘシ

第三十四條 北海道拓殖銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ銀行法ヲ適用ス

附則 (大正九年七月法律第二〇號) 本法施行前ニ發行シタル北海道拓殖銀行ノ債券ニ關シテハ第十五條ノ二ノ規定ニ依ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (昭和二年三月法律第二三號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年十一月勅令第三二六號ヲ以テ昭和三年一月一日ヨリ施行)

附則 (昭和六年三月法律第二三號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年七月勅令第一八七號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

●郵便貯金法 (明治三十八年二月十六日) (法律第二十三號)

【沿革】 大正九年八月法律第三三號、同十二年四月同第四五號、昭和十一年六月同第四二號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便貯金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金法 第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

- 一 一度ノ預入額 十錢以上
- 二 貯金總額 二千圓以下
- 一度ノ預入額ノ端數ハ錢位ヲ限トス

第四條 左ニ掲クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金
- 二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
- 三 産業組合又ハ産業組合中央金庫ノ預入金
- 四 振替計算ノ爲ニスル預入金
- 五 退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金ノ預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セ

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル

場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサル

トキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セ

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル爲預

ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閱スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閱ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日內ニ通帳ヲ提出セ

又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間滿了ノ日ヨリ三年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

附則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年五月勅令第一六四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セ又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年內ニ之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

附則 (大正十二年四月法律第四五號)

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和七年十月一日ヨリ施行)

●郵便貯金規則抄(明治三十八年五月十八日)

- 第二條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ限リ二冊以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得
- 一 公共團體、社寺、學校、産業組合又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ
- 二 規約貯金ノ預ケ人ニシテ異ナル組合ニ加入スルトキ
- 三 据置貯金ノ預ケ人ニシテ据置期間異ナル貯金ヲ爲ストキ

- 三ノ二 月掛貯金ノ預ケ人ニシテ据置期間又ハ預入金額ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ
- 三ノ三 集金貯金ヲ爲ストキ
- 四 共同貯金ノ總代人ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ
- 五 通常貯金、規約貯金、据置貯金、月掛貯金、集金貯金中二種以上ノ貯金ヲ爲ストキ
- 六 通常貯金、規約貯金、据置貯金、月掛貯金若ハ集金貯金ノ預ケ人カ共同貯金ノ總代人トナルトキ又ハ共同貯金ノ總代人カ通常貯金、規約貯金、据置貯金若ハ月掛貯金ヲ爲ストキ
- 七 退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金 以下積立金ト稱ストシテ貯金ヲ爲ストキ
- 八 前號ノ貯金ト共ニ積立金ニ非ザル貯金ヲ爲ストキ

●貯蓄銀行法 (大正十年四月十四日 法律第七十四號)

【沿革】 昭和二年三月法律第二四號、同六年四月同第四一號、同十一年六月同第四四號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

- 一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト
 - 二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト
 - 三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト
 - 四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト
- 貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

- 一 定期預リ金
- 二 保護預リ
- 三 債權ノ取立
- 四 公共團體又ハ産業組合ノ金錢出納事務ノ取扱
- 五 公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金
- 六 國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣
- 七 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ノ募集又ハ其ノ元利金支拂ノ取扱

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ合併ニ因リテ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ

一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ前項ノ供託ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者、第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者及第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ハ其ノ預金、給付金及有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券並ニ供託ニ代ヘタル大藏省預金部ヘノ預ケ金ニ付テ

ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額、給付金額又ハ給付ヲ受クヘキ有價證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニシテ給付金又ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

- 一 國債、地方債、社債、株式又ハ滿洲國有價證券ノ應募、引受又ハ買入
- 二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付

- 三 不動産ヲ抵當トスル貸付
- 四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トスル貸付
- 五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限度トスル貸付
- 六 第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ニ對シ既ニ拂込ミタル賦拂金ヲ限度トスル貸付
- 七 道府縣市町村ニ對スル一年內ノ貸付
- 八 割賦償還ノ方法ニ依ル二年內ノ貸付
- 九 銀行若ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
- 十 主務大臣ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信託
- 十一 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入前項ニ規定スル社債、株式及滿洲國有價證券ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預ケ金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十一條第一項第三號又ハ第七號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ各拂込資本金及準備金ノ總額ヲ、第十一條第一項第八

號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條第一項第五號ノ貸付金額中既ニ受入レタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第十一條第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金ハ一人ニ付千圓以下トシ且確實ナル二人以上ノ保證アルコトヲ要ス

第十四條 一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ニ規定スル受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲クル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條第三項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付テハ準用ス

前二項ノ規定ハ一信託會社ニ對スル信託財產及其ノ信託會社ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ニ付テハ準用ス

第十五條 貯蓄銀行カ其ノ財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ノ規定ニ依ル契約ニ基ク銀行ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存續ス

第十六條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
- 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
- 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第十七條 有價證券割賦販賣法ハ第一條及第八條乃至第十一條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニシテ第五條第六號ノ業務ヲ營ム者ニ付之ヲ適用ス
- 第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 - 一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
 - 三 有價證券割賦販賣法第十條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二十一條 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事項ニ付テハ銀行

法ニ依ル

銀行法第十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金及第五條第六號ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘキ有價證券ハ之ヲ預金ト看做ス

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

附則

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年六月勅令第二八四號ヲ以テ同十一年一月一日ヨリ施行)

第二十四條 貯蓄銀行條令ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十五條 前條第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ仍舊法ニ依ル

第二十六條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニシテ現ニ其ノ商號中ニ貯藏銀行又ハ貯金銀行ナル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商業ヲ用ウルコトヲ得

第二十七條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行カ第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テハ本法施行後二年ヲ限り仍舊法ニ依ル但シ其ノ期間内ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル

第二十八條 本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後三年ヲ限り仍之ヲ所有スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル株式ニシテ第十二條ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユルモノニ付テハ本法施行後三年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十一條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル

者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依ル責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十二條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非シテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノノ指定

(昭和六年十二月十日)
(逓信省告示第二千四百五十一號)

【沿革】 昭和七年六月告示第一〇四號、同十一年八月同第二〇六一號、同十三年十月同第三三〇一號改正

本月十六日以降郵便振替貯金規則第十四條但書ニ依リ郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノノ左ノ如シ
昭和六年六月逓信省告示第千二百九十六號ハ本月十五日限り之ヲ廢止ス

一 公共團體、社寺、官公立學校、官公立圖書館又ハ營利

ヲ目的トセサル法人

- 一 執達吏、公證人役場
- 一 官公立病院
- 一 逓信省現業員ノ共済組合
- 一 鐵道省現業員ノ共済組合
- 一 印刷局現業員ノ共済組合
- 一 專賣局現業員ノ共済組合
- 一 國有林野現業員ノ共済組合
- 一 内務省土木現業員ノ共済組合
- 一 陸軍共済組合
- 一 海軍共済組合
- 一 各地聯隊區將校團、陸軍主計團
- 一 警察共済組合
- 一 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會
- 一 帝國在地軍人會

●預金部普通地方資金融通規則

(昭和七年十二月十六日)
(大藏省令第三十號)

【沿革】 昭和九年九月省令第三〇號、同十年五月同第一〇號、同十一年八月同第二八號、同年十月同第三四號、同十三年三月同第一一號改正

第一類 法規、第十一章 諸法規

預金部普通地方資金融通規則左ノ通定ム

預金部普通地方資金融通規則

第一章 總則

第一條 預金部普通地方資金ノ融通ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第二條 預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ十一種トス

- 一 公共團體普通事業資金
- 二 社會事業資金
- 三 耕地整理事業資金
- 四 産業組合事業資金
- 五 森林組合事業資金
- 六 漁業組合事業資金
- 七 畜産組合事業資金
- 八 工業組合事業資金
- 九 輸出組合事業資金
- 十 商業組合事業資金
- 十一 酒造組合事業資金

第二章 融通先

第三條 本資金ハ左ノ各號ノ者ニ限り之ヲ融通スルコトヲ得

- 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ 北海道地方費(以下道ト稱ス)、府縣、市町村、市町

村組合及町村組合

- ロ 水利組合及北海道土功組合
- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合
 - ロ 住宅組合
 - ハ 産業組合
 - ニ 營利ヲ目的トセザル法人
- 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
 - イ 耕地整理組合
 - ロ 耕地整理組合聯合會
 - ハ 耕地整理共同施行者
 - ニ 耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合
- 四 産業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 産業組合
 - ロ 産業組合聯合會
- 五 森林組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 森林組合
- 六 漁業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 漁業組合

- ロ 漁業組合聯合會
 - 七 畜産組合理業資金ニ在リテハ
 - イ 畜産組合
 - ロ 畜産組合聯合會
 - 八 工業組合理業資金ニ在リテハ
 - イ 工業組合
 - ロ 工業組合聯合會
 - 九 輸出組合理業資金ニ在リテハ
 - イ 輸出組合
 - ロ 輸出組合聯合會
 - 十 商業組合理業資金ニ在リテハ
 - イ 商業組合
 - ロ 商業組合聯合會
 - 十一 酒造組合理業資金ニ在リテハ
 - イ 酒造組合
 - ロ 酒造組合聯合會
- 第四條 本資金ノ融通ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 財務ノ整理良好ナルコト
 - 二 事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト
- 産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、工業組合、輸

出組合、商業組合、酒造組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三年ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三章 資金ノ用途

第五條 本資金ハ左ノ各號ノ用途ニ對シ之ヲ融通スルモノトス

- 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ 灌漑及排水事業費
 - ロ 卸賣市場費
 - ハ 産業指導施設費
 - ニ 産業共同施設費
 - ホ 災害豫防費
 - ヘ 病院、隔離病舎及療養所建設費
 - ト 衛生試験所及細菌検査所建設費
 - チ 上水道及下水道費
 - リ 墓地、汚物取扱所、火葬場及塵芥處分場費
 - ヌ 屠場費
 - ル 道路、橋梁及渡船場費
 - ヲ 河川及港灣費
 - ワ 飛行場建設費

- カ 學校、幼稚園及教員住宅建設費
- ヨ 圖書館及公會堂建設費
- タ 動物園、植物園及水族館建設費
- レ 公園及廣場建設費
- ソ 運動場及水泳場建設費
- ツ 開墾及埋立事業費
- ネ 電氣及瓦斯事業費
- ナ 軌道及自動車事業費
- ラ 前記各事業ニ關スル負擔金又ハ寄附金
- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 住宅ノ建設費
 - ロ 公益質屋費
 - ハ 公益市場費
 - ニ 簡易宿泊所費
 - ホ 託兒所費
 - ヘ 職業紹介所費
 - ト 其ノ他ノ社會事業費
- 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
 - イ 耕地整理ニ關スル事業費
- 四 産業組合理業資金、森林組合理業資金、漁業組合理業資金、畜産組合理業資金、工業組合理業資金、輸出組合

事業資金、商業組合事業資金及酒造組合事業資金ニ在リ
テハ

イ 當該組合及同聯合會ノ事業費

第四章 資金ノ借入申込

第六條 地方公共團體又ハ水利組合本資金ノ借入ヲ爲サント
スルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預
金部資金借入申込書(第一號様式)ヲ第二條第一號ノ資金ニ
在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第二號ノ資金ニ在リテハ
大藏大臣及厚生大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣
及農林大臣ニ提出スベシ

東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市(以
下六大都市ト稱ス)以外ノ市町村、市町村組合、町村組合
又ハ水利組合ノ提出スル前項ノ預金部資金借入申込書ニシ
テ大藏大臣ニ提出スルモノニ在リテハ預金部資金局支局ヲ
經由シ、内務大臣、農林大臣又ハ厚生大臣ニ提出スルモノ
ニ在リテハ地方長官ヲ經由スベシ

第七條 (削除)

第八條 地方公共團體及水利組合以外ノ者本資金ノ借入ヲ爲
サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日
迄ニ預金部資金借入申込書(第一號様式)ヲ第二條第一號ノ
資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第二號ノ資金ニ在

リテハ大藏大臣及厚生大臣ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ
在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第八號乃至第十號ノ資金
ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ、第十一號ノ資金ニ在リ
テハ大藏大臣ニ地方長官ヲ經由シテ提出スベシ

第九條 第六條及前條ノ期限ハ大藏大臣ニ於テ必要アリト認
ムル場合ニ於テハ之ヲ延長スルコトアルベシ

第十章 (削除)

第五章 資金ノ融通

第一節 總則

第十一條 地方公共團體及水利組合ニ對スル資金ノ融通ハ直
接預金部資金局ニ於テ之ガ取扱ヲ爲スモノトス

地方公共團體及水利組合以外ノ者ニ對シテハ日本勸業銀
行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合
中央金庫又ハ商工組合中央金庫ヲ經由シテ資金ノ融通ヲ爲
スモノトス但シ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ此ノ外尙
道、府縣轉貸ノ方法ニ依リ融通ヲ爲スコトアルベシ

第十二條 地方公共團體及水利組合ニ對スル預金部資金ノ融
通ハ當該地方債證券若ハ水利組合債證券ノ引受又ハ貸付ノ
形式ニ依ルモノトス
日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、
産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ對スル預金部資

金ノ融通ハ債券引受ノ形式ニ依ルモノトス但シ三年以内ノ
モノニ限り貸付ノ形式ニ依ルコトアルベシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル地方債證券、水利組合債證券、
債券又ハ貸付金ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二
十月以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ
事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ
据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルベシ

第十四條 日本勸業銀行及農工銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定
期償還又ハ年賦償還、北海道拓殖銀行及産業組合中央金庫
ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還、年賦償還又ハ手形割引、日
本興業銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還又ハ手形割引、
商工組合中央金庫ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還、年賦償
還、月賦償還又ハ手形割引ノ方法ニ依ルモノトス

前項ノ定期償還貸付ノ償還期間ハ五年以内、年賦償還貸付
ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内、月賦
償還貸付ノ償還期限ハ二年以内ノ据置期間ヲ併セ五年以内
トス但シ年賦償還貸付ノ償還期限ニ付テハ資金融通ノ目的
タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル
場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲ス
コトアルベシ

第十五條 前四條ノ外預金部資金ノ融通利率其ノ他ノ融通條
件ニ關シテハ大藏大臣ノ時時定ムル所ニ依ルモノトス

件ニ關シテハ大藏大臣ノ時時定ムル所ニ依ルモノトス

第二節 地方公共團體及水利組合ニ對
スル資金ノ融通

第十六條 地方公共團體又ハ水利組合第六條ノ規定ニ依ル預
金部資金ノ借入申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタル場合
ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ預金部資金交付申
請書(第三號様式)ニ起債決議書寫、起債許可書寫及償還年
次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部資金局
ニ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水
利組合ニ在リテハ預金部資金局支局ニ之ヲ提出スベシ但シ
資金ノ交付ヲ受クベキ期日ハ預金部資金交付申請書發送ノ
日ヨリ二十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條 地方公共團體又ハ水利組合日本銀行(本店、支店
又ハ代理店ヲ含ム以下同ジ)ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルト
キハ之ト引換ニ地方債證券、水利組合債證券(第四號様式)
又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行當該店ニ提出スベシ
前項ニ依リ地方公共團體又ハ水利組合ガ日本銀行代理店ニ
地方債證券、水利組合債證券又ハ借用證書ヲ提出スル場合
ニ於テハ之ガ送付書ヲ添付スベシ

第十八條 道、府縣又ハ六大都市ガ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル
預金部資金ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定

ヲ準用ス

第三節 地方公共團體及水利組合以外ノ

者ニ對スル資金ノ融通

第十九條 地方公共團體及水利組合以外ノ者ニ對シ預金部資金ノ割當アリタルトキハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ハ割當額ノ範圍内ニ於テ融通スルヲ適當ト認ムル金額ニ付債券引受申請書(第六號様式)又ハ預金部資金貸付申請書(第七號様式)ヲ預金部資金局ニ提出スベシ但シ資金ノ交付ヲ受クベキ期日ハ債券引受申請書又ハ預金部資金貸付申請書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫前項ノ申請ニ依リ日本銀行本店ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ債券又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行本店ニ提出スベシ

第二十條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫前條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スベシ

第二十一條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日

本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金ノ預金部資金ナルコト並ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且左ノ事項ヲ定ムベシ

一 債務者ガ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的以外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ互リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セザルトキハ之ヲ返還スルコト

二 預金部資金局ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトアルベキコト

第二十二條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタル預金部資金中不用トナリタルモノアルトキ又ハ本資金ニ依ル貸付金ノ返済高ガ大藏省預金部ニ對スル償還豫定高ヲ超過シタルトキハ最近ノ元利金支拂期日ニ於テ該不用額又ハ超過額ニ相當スル金額ヲ償還スベシ但シ債券發行ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ券面額ニ滿チザル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十三條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スベシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、内務大臣及地方長官ニ、第二號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、厚生大臣及長官ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、農林大臣及地方長官ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、商工大臣及地方長官ニ、第十一號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣及地方長官ニ提出スベシ

第六章 償還及利子拂

第二十四條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金拂込内譯書(第八號様式)ヲ添ヘテ送金シ預金部資金局ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書(第九號様式)ヲ送付スベシ

第二十五條 六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合及水利組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ當該融通金ノ交付ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ預金部資金元利金拂込内譯書(第八號様式)ヲ添ヘテ送金シ預金部資金局支局ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書(第九號様式)ヲ送付スベシ

第二十六條

地方公共團體又ハ水利組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ繰上償還ヲ爲サントスルトキハ豫メ之ガ事由ヲ具シ變更償還年次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部資金局ノ承認ヲ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ニ在リテハ預金部資金局支局ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ繰上償還期日ハ最近ノ元利金支拂期日トス但シ特別ノ事情アル場合又ハ全額繰上償還ノ場合ニ於テハ豫メ期日ヲ定メ承認ヲ受クベシ

六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合及水利組合預金部資金繰上償還ノ承認ヲ受ケタルトキハ變更償還年次表ニ送付書ヲ添ヘ第十七條第一項ノ日本銀行當該店ニ送付スベシ

第七章 雜則

第二十七條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ハ其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ニ付別ニ帳簿ヲ設ケ整理スベシ

第二十八條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ハ毎年十二月三十一日現在ヲ以テ預金部資

(註) 一 證券ノ券面種類ハ百圓、五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓トシテ金償還ノ都合ニ依リ適宜種類ヲ選擇シテ發行スルコト

二 證券ハ縦四寸四分、横九寸一分(四尺)

三 證券ハ普通活版ニ附シ別ニ色刷等ヲ爲スニ及バザルモ活字ノ大サハ六號トスルコト

四 證券ニハ利札ヲ附セザルコト

No. _____

所有者 大藏大臣

第一、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ハ發行ノ日ヨリ昭和何年月何日迄據置其ノ後昭和何年月何日迄ニシテ償還ス

第二、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ノ利子ノ割合ハ一年百分ノ何トス

第三、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ノ利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ發行ノ際ニ於テハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニ於テハ支拂當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第四、此ノ(道府縣市町村水利組合)債券面記載事項以外ノ取扱ハ總テ(道府縣市町村水利組合)債募集及償還方法ノ規程ニ遵據スルモノトス

年 月 日 發行

北海道廳長官
北海縣知事
何府縣知事
何市町村長
何水利組合管理者
氏 名

第四號様式

第五號様式 第號

印紙 借用證書

一金何 圓也

右金額ヲ本日大藏省預金部ヨリ左記條件ヲ以テ借用仕候就而借入條件ヲ堅ク遵守ノ上元利金ハ期日ニ相違無支拂可致候也

追而本資金ニ關シ預金部資金局ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スベク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セザルガ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命ゼラルルモ異存無之候尙本借用證書ハ預金部資金局ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ何々債證券(何々債券)ニ引換可申候

- 記
- 一、資金ノ用途 何事業(何々ノ爲轉貸)
 - 一、利 率 年何分何厘
 - 一、元利金支拂方 (註参照)
 - 一、元利金支拂ノ 日本銀行何店
 - 一、場 所

年 月 日

大藏大臣 氏 名宛 借受人 氏 名

(註)

一、元利金支拂方法及時期ノ項ニハ

(イ)年賦償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「別紙償還年次表ノ通り償還スルモノトス(但シ本資金ニ依ル貸付金返済高ガ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本資金ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返済額相當ノ償還ヲ爲スモノトス)借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿テザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スベキ資金ヲ借入レタル者ニ限り記載スルコト

(ロ)定期償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「何年何月何日元金全額ヲ償還ス(但シ本資金ニ依ル貸付金ガ期限前ニ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ利子支拂期ニ於テ之ガ相當額ヲ償還スルモノトス)利子ハ毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿テザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支

註 (其ノ二)

- 一 本表ハ大藏省預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ使用額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト
- 二 備考欄ニハ資金殘額ノ將來使用見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト
- 三 貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記載又ハ同別欄ニ貸付金ト明記シ尙借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト
- 四 六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合及水利組合ニ在リテハ事業完成シ且預金部資金全額使用済ノ報告ヲ爲シタル資金ニ付テハ爾後之ガ記載ヲ要セザルコト

預金部資金ノ借入額及使用額對照表

(何年十二月三十一日現在)

資金名	年度	區別 債券ノ回別	借入 年月日	償還 年月日	資金借入高		資金使 用濟額	差引資 金殘額	備考
					當 借入額	借 現在額			
合計									

註 (其ノ一)

- 一 本表ハ借受人ガ大藏省預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル資金ニシテ他ニ貸付ケタルモ二付作成スルコト但シ日本勸業銀行ガ更ニ農工債券、北海道拓殖銀行ヨリ本表報告ヲ提出シ日本勸業銀行ハ其ノ引受債券毎ニ條件、北海道拓殖銀行ガ更ニ農工債券、北海道拓殖銀行ヨリ本表報告スルコト
- 二 本表ハ道府縣別及資金別(公共團體、普通事業資金、社會事業資金又ハ各種組合普通事業資金)ニ付作成シ貸付一件毎ニ記載スルコト
- 三 合普通事業資金ノ現在額中ニハ元金延滞額ヲ含マシムルコト
- 四 元利金延滞額ニハ貸付一件毎ニ元利支拂延滞ノ有無並ニ其ノ金額ヲ元金ト利子トニ區分掲記スルコト
- 五 備考欄ニハ實地調査上參考トナルキ事項等ヲ記載スルコト尙日本勸業銀行ニ在リテハ直接貸付代理貸付ノ別ヲ記載スルコト

預金部何々資金貸付狀況明細表

(何年十二月三十一日現在)

貸付 名稱	所在地	貸付 高	貸付金 ノ使途	資金ノ 年度別	貸付 年月日	償還 期限	付 利率	元利金 支日	元利金 延滞額	備考
合計									元利金 延滞額 元利金 支日 元利金 支日 元利金 支日	

第十一號様式
年月日

借受人 氏 名宛
預金部資金局長(預金部資金局何支局長) 氏 名宛
預金部資金ノ貸付狀況報告
別紙ノ通及報告候也

名印

註 (其ノ二)

預金部資金ノ借入額及貸出額對照表

(何年十二月三十一日現在)

資金名	年度	區別	借入月日	償還月日	資金借入高		資金ノ貸出高		差引資金殘額	備考
					當初借入額	借現在高	總貸出額	貸現在額		
合計										

一 本表ハ大藏省預金部ヨリ直接隨通ヲ受ケタル金額ト其ノ貸出額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト

二 備考欄ニハ資金殘額ノ將來貸出見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト留日本動業銀行ニ在リテハ直接貸ト代理貸トノ別ヲ記載スルコト

三 農工銀行、北海道拓殖銀行、北滿省預金部直接引受ニ依ル資金ノ外日本動業銀行引受ニ依ル資金ノ分ヲモ本表ニ記載シ備考欄ニ其ノ旨明記スルコト

四 貸付金ノ形式ニ依リ隨通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記載又ハ同別欄ニ貸付金ト明記シ尙信用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

●簡易生命保險積立金貸付規則

(大正八年八月十九日 逓信省令第七十四號)

【沿革】 大正九年十月省令第一〇五號、同年十二月同第一二四號、同十五年六月同第二一號、昭和十三年一月厚生省令第二號改正

簡易生命保險積立金貸付規則左ノ通定ム

簡易生命保險積立金貸付規則

- 第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ簡易生命保險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス
- 第二條 積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定期償還貸付トス
- 第三條 年賦償還貸付及半年年賦償還貸付ニ在リテ元金ト利息トヲ併セテ之ヲ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシム
- 貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年内ノ据置期間ヲ設クコトヲ得但シ其期間内ノ利息ハ此ノ限ニ在ラス
- 年賦償還貸付及半年償還貸付ノ貸付期間ハ前項ノ据置期間ヲ除キ二十五年内トス
- 第四條 定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還

第一類 法規、第十一章 諸法規

三四三

セシム

定期償還貸付ノ貸付期間ハ五年内トス

第五條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ於テ貸付後一年内ヲ限り貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條 地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ借主ヲシテ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テシムコトアルヘシ

第七條 積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル簡易生命保險積立金借入申込書正副二通ニ記名調印ノ上保險院其ノ主ナル事務所ノ所在地ガ簡易保險支ヲ經由シテ之ヲ厚生大臣ニ提出スヘシ

- 一 金額
 - 二 目的
 - 三 償還方法
 - 四 完済期限
 - 五 借主ノ主ナル事務所
- 貸付金ノ受領時期ニ分割交付ヲ受ケムトスルモノハ之ヲ前項ノ借入申込書正副二通ニ附記スヘシ
- 第八條 前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計畫、

豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年度ノ歳入歳出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル書類並其ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添附スヘシ

一 地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アルモノハ其ノ規約ノ謄本

二 公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最近年度事業報告書ノ謄本

三 前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約及最近年度事業報告書ノ謄本、貸借對照表及財産目錄

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタルトキ速ニ之ヲ保險院局ノ主タル事務所ノ所在地ガ簡易保險支店ニ送付スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市制町村制施行規則抄

(大正十五年六月二十四日) (内務省令第十九號)

【沿革】 昭和三年十一月省令第三九號、同四年一月同第一號、同六月同第二二號、同五年五月同第二一號、同六年八月同第二一號、同九年七月同第一六號、同十年七月同第三九號改正

市制町村制施行規則左ノ通定ム

市制町村制施行規則

第六十四條 市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歳計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得

前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

●會計規則抄

(大正十一年一月七日) (勅令第一號)

【沿革】 昭和七年六月訓令第一〇〇號、同八年十二月同第三三〇號改正

朕會計規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第四節 隨意契約

第一百四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的ノ競争ヲ許ササルトキ

二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ

三 政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ

四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ

五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ

八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ

九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ

十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十二 農工場、學校、試験所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ

十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ

十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請

●家畜市場法施行規則

(明治四十三年十二月一日) (農商務省令第二十六號)

【沿革】 大正元年十一月省令第二三號改正

負ニ付スルトキ

十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十九 産業又ハ殖殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ

二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二 事業經營上必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ買入ヲ爲ストキ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

家畜市場法施行規則左ノ通相定ム

家畜市場法施行規則

第一條 家畜市場ヲ分テ常設家畜市場、定期家畜市場及臨時家畜市場トス

常設家畜市場トハ毎年百日以上開催スルモノヲ謂ヒ定期家畜市場トハ毎年定期ニ開催シ其ノ開催日數百日ニ達セサルモノヲ謂ヒ臨時家畜市場トハ常設家畜市場及定期家畜市場ニ該當セサルモノヲ謂フ

第二條 常設家畜市場又ハ定期家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ家畜市場ヲ開設者ノ履歷書、用地ノ面積、建物ノ名稱、構造設備、坪數ヲ記入シタル圖面及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

一 家畜市場ノ名稱及位置

二 入場家畜ノ見込頭數

三 資本金額及收支計算

四 開設期間

家畜市場開設者カ法人ナルトキハ前項書類ノ外尙其ノ定款及事業報告書ヲ差出スヘシ

第三條 臨時家畜市場ヲ開設セントスル者ハ前條第一項第一號、第二號及第四號ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ

履歷書及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條ノ二 家畜市場開設者ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ開設者及新ニ開設者タラムトスル者ノ連署シタル願書ニ新ニ開設者タラムトスル者ノ履歷書（法人ニ在リテハ其ノ定款及事業報告書）ヲ添ヘ其ノ事由ヲ具シテ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 事務所ノ位置

二 家畜ノ種類

三 開場ノ日時

四 市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類並徵收方法

五 仲立業者ノ手數料

六 取引ノ方法、手續

七 違約者處分ノ方法

八 其ノ他業務執行上必要ナル事項

第五條 家畜市場ノ名稱中ニハ其ノ種別ヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

家畜市場ニ非シテ其ノ名稱中ニ家畜市場タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六條 家畜市場開設者市場管理者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第七條 家畜市場開設者ハ彙帳ヲ調製シ入場シタル家畜ヲ一頭毎ニ其ノ種類、產地、飼養地、性、毛色、高サ（羊豚ニ在リテハ重量）、年齢及用途ヲ記入スヘシ賣買交換シタル家畜ニ在リテハ尙買買若ハ交換當事者ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ家畜ノ價額ヲ記入スヘシ

第八條 常設家畜市場ニ於テ賣買交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ノ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ授受スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タル時ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ家畜市場開設者其ノ責ニ任スヘシ

第九條 家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬地ニ牽入ルル家畜ノ健康検査ヲ行ハシムヘシ

常設家畜市場ニ於テハ家畜ノ衛生事務ニ從事セシムル爲メ獸醫ヲ置クヘシ

第十條 家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ定メタル行政廳ニ願出ヘシ

第十一條 家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域内ニ於テ開設スルコトヲ得ル市場左ノ如シ

一 品評會、共進會、博覽會又ハ競馬會ノ開設スル臨時家畜市場

二 産牛馬組合法又ハ産業組合法ニ依リ設置シタル組合ノ家畜市場

三 家畜市場法施行前ニ開設ノ許可若ハ認可ヲ得タル家畜市場

第十二條 家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置ハ公衆及家畜衛生上妨ケナキ場所ナルコトヲ要ス

常設家畜市場ニ於テハ検査所、賣場、繋場、畜舎、隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一 検査所ハ家畜ノ健康検査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

二 賣場ハ屋根ヲ設ケ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料（コンクリート、アスファルト、漆喰等）ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繋場若ハ畜舎ニ於テ賣買交換スル場合ハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得

三 繋場ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ

四 畜舎及隔離所ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其ノ内壁ハ石材、煉瓦、金屬板其ノ他不滲透質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ四尺

以上ノ腰張ヲ爲シ適當ノ窓ヲ設ケ欄房ノ前後ニ各三尺以上ノ通路ヲ附シ欄房ハ牛馬一頭毎ニ犢駒羊豚ハ適宜ニ之ヲ區劃シ尿溜ヲ設ケヘシ但シ家畜ヲ宿泊セシメサル市場ニ於テハ畜舎ヲ設ケサルコトヲ得

五 汚物溜及尿溜ハ不透透質ノ材村ヲ以テ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ侵入ヲ防クヘシ

定期家畜市場及臨時家畜市場並其ノ附屬建設物ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ規定ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第十三條 家畜市場ノ仲立業者タラントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ家畜市場ノ仲立業者タルヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 家畜市場法、本則又ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケ其ノ情狀重キ者
- 四 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 五 三箇年以上畜産業又ハ牛馬商ニ從事シタル經驗ナキ者

六 素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第十四條 仲立業者ハ家畜市場開設者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ市場ニ於テ中立スルコトヲ得ス

第十五條 仲立業者ハ其ノ業務ヲ行フ家畜市場ニ於テハ自己ノ計算ヲ以テ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十六條 家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱、家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ榜示シ市場業務規程ヲ場内ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示スヘシ

第十七條 常設家畜市場開設者ハ其ノ市場ニ於テ賣買交換セル家畜ノ頭數、價額及其ノ平均、最高、最低價格ヲ種類、牝牡幼壯別ニ分チ其ノ當日又ハ翌日場内ニ揭示スヘシ

第十八條 地方長官常設家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名ヲ記載シタル書面ニ市場業務規程ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項及市場業務規程ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官定期家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名、開場ノ日時、取扱フ家畜ノ種類、料金ノ種類及其ノ金額ヲ、臨時家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ市場ノ名稱及位置、取扱フ家畜ノ種類ヲ各一箇年分取纏メ翌年一月三十

一日限り之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官常設及定期家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ、廢止ヲ認可シ又ハ業務ノ停止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

- 第十九條 第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス
- 第二十條 第七條、第八條第一項、第九條、第十四條、第十五條、第十六條又ハ第十七條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條第一項ニ依リ認可ヲ受ケスシテ家畜市場ノ仲立業者ヲ爲シタル者又ハ第十七條ニ掲クル事項ニ付虚偽ノ揭示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

附則

本則ハ家畜市場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種雞種卵拂下規則 (昭和二年十二月二十八日 農林省令第二十七號)

【沿革】 昭和三年七月省令第一〇號、同八年八月同第一七號改正

種雞種卵拂下規則左ノ通定ム

種雞種卵拂下規則

第一條 種雞場ニ於テ拂下グベキ種雞及種卵ノ種類、等級、

第一類 法規、第十一章 諸法規

價格及一出願人ニ對シ拂下グベキ數量ハ農林大臣之ヲ定ム

前項ノ種類、等級、價格及數量ハ之ヲ告示ス

第一條ノ二 種雞場長ハ種雞ノ拂下ヲ受ケントスル者ノ出願ニ依リ種雞引渡ノ際其ノ血統證ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ血統證ヲ交付スルコトヲ得ル種雞ノ範圍ハ農林大臣之ヲ定メ告示ス

第二條 種雞及種卵ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ道府縣、農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ種雞場長ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ限ル

第三條 種雞又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ前年十二月三十一日迄ニ種類、等級及數量並ニ血統證ノ交付ヲ受ケン

トスル種雞ニ付テハ其ノ旨ヲ記載シタル拂下願書ヲ種雞場長ニ差出スベシ

第四條 種雞場長出願ヲ許可シタルトキハ種雞又ハ種卵ノ種類、等級、數量、價額、代金納付期限、引渡期限及引渡場所ヲ指定シ之ヲ出願人ニ通知スベシ

第五條 出願人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金納付期限迄ニ拂下代金ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼付シ消印ヲ爲サズシテ之ヲ種雞場長ニ差出スベシ

第六條 拂受人納付期限迄ニ拂下代金ヲ納付セズ又ハ引渡期限迄ニ種雞又ハ種卵ヲ受取ラザルトキハ種雞場長ノ拂下ノ

許可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ返還セズ
第七條 拂受人種雛又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケタル後ハ如何ナル
事由アルモ代金ノ返還若ハ減額、代物ノ交付又ハ損害ノ賠
償ヲ求ムルニトヲ得ズ

第八條 種雛ノ拂下ヲ受ケタル者ハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨ
リ孵化後三月迄ノ育雛成績ヲ、種卵ノ拂下ヲ受ケタル者ハ
孵化成績ヲ遲滞ナク種鶏場長ニ報告スベシ

附則

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和三年ニ於テ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第三條ノ規定ニ拘ラ
ズ同年一月三十一日迄ニ願書ヲ差出スベシ
種禽種卵拂下規程ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和八年八月農林省令第一七號)

本令ハ昭和八年九月十日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前拂下ノ許可ヲ爲シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ
依ル
昭和八年ニ於テ拂下ヲ受ケントスル者ハ第三條ノ規定ニ拘ラ
ズ同年十月三十一日迄ニ願書ヲ差出スベシ

●水産試験場種苗拂下規則

(昭和四年四月一日 農林省令第六號)

水産試験場種苗拂下規則左ノ通定ム

水産試験場種苗拂下規則

第一條 水産試験場ニ於テ拂下グベキ水産動植物種苗ノ種
類、數量及價格ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二條 種苗ノ拂下ヲ受ケルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ
該當スル者ニ限ル

一 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體

二 水産會、水産組合、漁業組合又ハ産業組合

三 一年以上養殖事業ヲ營ミ相當ノ成績ヲ舉ゲタル者

前項ニ該當セザル者ト雖水産試験場長ニ於テ適當ト認ムル
モノニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルベシ

第三條 種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ養殖ノ場所、
面積又設備ノ概要ヲ記載シタル書類ヲ添へ水産試験場長ニ
差出スベシ

第四條 水産試験場長必要ト認ムルトキハ水産動植物ノ養殖
試験ヲ爲ス者ニ對シ無償ニ種苗ヲ下付スルコトヲ得
前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル
場合ニ之ヲ準用ス

第五條 水産試験場長出願ヲ許可シタルトキハ種苗ノ種類、
數量、價額、代金納付期限、引渡期限及引渡場所ヲ指定シ
之ヲ出願人ニ通知スベシ

前項ノ規定ハ種苗ノ下付ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 出願人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金納付期限迄
ニ代金ヲ納付スベシ

第七條 拂受人種苗ノ引渡ヲ受ケタル後ハ代金ノ返還若ハ減
額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第八條 種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ種苗ニ關シ水産
試験場長ノ指定スル事項ヲ水産試験場長ニ報告スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
水産講習所種苗拂下規則ハ之ヲ廢止ス

●産卵能力檢定規則

(昭和三年七月十三日 農林省令第九號)

産卵能力檢定規則左ノ通定ム

産卵能力檢定規則

第一條 道府縣、農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ地
方長官ノ適當ト認ムル者ハ本則ニ依リ其ノ所有シ又ハ管
理スル鶏ノ産卵能力ノ檢定ヲ種鶏場長ニ依頼スルコトヲ
得

第二條 檢定ヲ爲スベキ鶏ノ種類及羽數ハ農林大臣之ヲ告示
ス

第三條 檢定ヲ受クベキ鶏ハ左ノ各號ニ該當スルコトヲ要ス

一 前二代ノ血統及産卵能力明ナルモノ
二 種類ノ特徴ヲ具ヘ著シキ缺點ナキモノ
三 前年八月以後ニ孵化シタルモノ
四 惡癖又ハ疾病ナキモノ

第四條 檢定ハ毎年十一月一日之ヲ開始シ其ノ期間ハ三百五
十日トス但シ種鶏場長必要ト認ムルトキハ其ノ期間ヲ三百
六十五日ニ延長スルコトアルベシ

第五條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ種類別羽數ヲ記載シタル依
頼書ニ様式ニ依リ調書ヲ添へ地方長官ヲ經由シ八月三十一
日迄ニ之ヲ種鶏場長ニ差出スベシ

種鶏場長依頼ニ應ズル場合ニ於テハ檢定ヲ爲スベキ鶏、其
ノ搬入期日及場所ヲ指定シ之ヲ依頼者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者指定セラレタル期日及場所ニ檢定
ヲ受クベキ鶏ヲ搬入セザルトキハ種鶏場長ハ檢定ヲ爲サザ
ルコトアルベシ

第六條 檢定ノ爲必要アルトキハ鶏ニ對シ刺青其ノ他ノ施術
ヲ爲スコトアルベシ

檢定ノ爲種鶏場ニ於テ管理スル鶏ニ付斃死、疾病其ノ他ノ
事故ニ因リ損害ヲ生ズルコトアルモ種鶏場長ハ其ノ賠償ノ
責ニ任ゼズ

第七條 檢定ノ爲種鶏場ニ於テ管理スル鶏ノ果實ハ政府ノ所

得トス

第八條 種鶏場長必要ト認ムルトキハ檢定ヲ中止スルコトアルベシ

第九條 檢定ヲ終了シ又ハ中止シタル鶏ヲ其ノ搬出期限迄ニ搬出セザルトキハ種鶏場長ハ其ノ管理ノ責ニ任ゼズ

第十條 檢定ノ成績ハ之ヲ公表ス
種鶏場長ハ依頼者ノ請求アリタルトキハ成績證明書ヲ交付ス

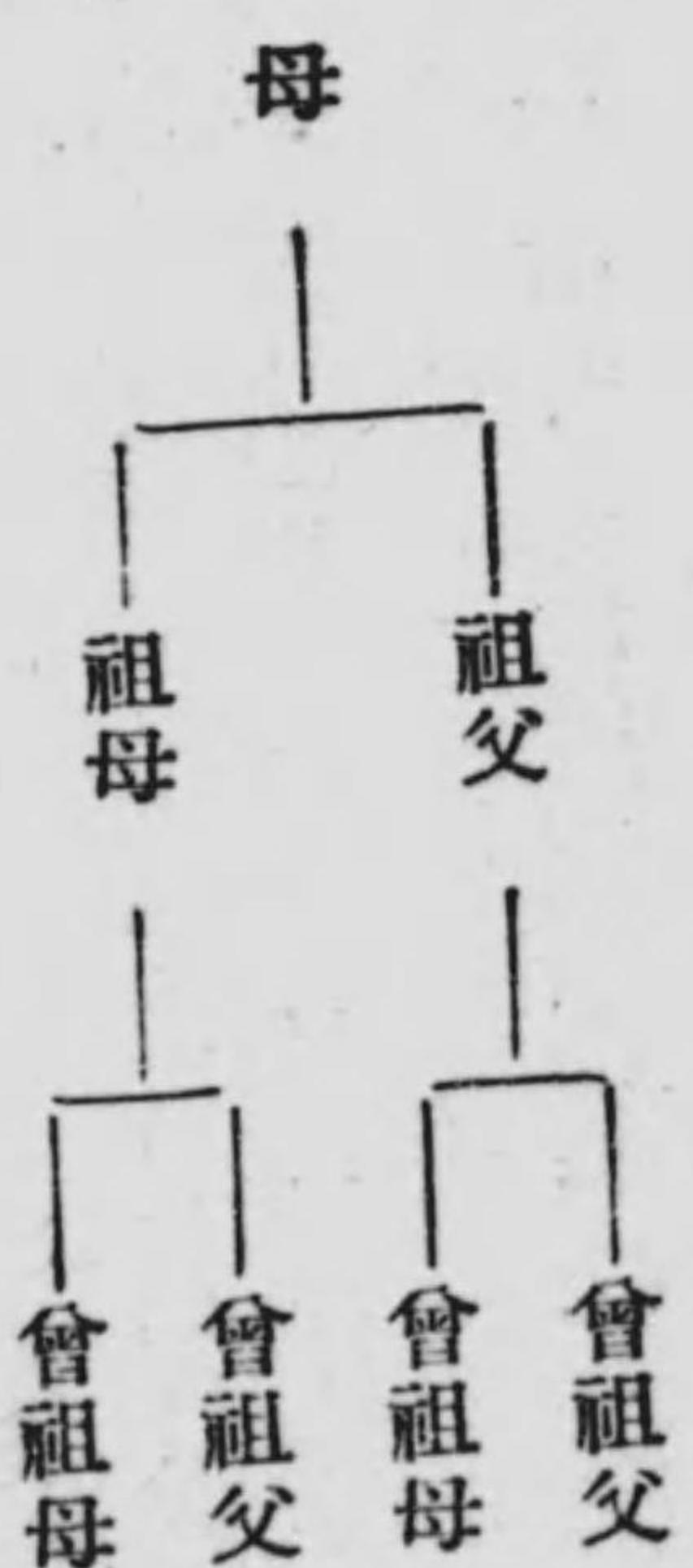
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

調書

- 一 種類
- 二 記號番號
- 三 孵化年月日
- 四 血統及產卵能力



三五二

備考

- 一 調書ハ一羽毎ニ之ヲ作成シ其ノ鶏ニ附シタル記號番號ヲ記載スルコト
- 二 血統及產卵能力ハ成ルベク曾祖父母以上ニ遡リ其ノ明ナル限り之ヲ記載スルコト
- 三 父母等ノ下ニハ其ノ記號番號等ヲ記載スルコト
- 四 產卵能力ニ付テハ檢定ノ時期其ノ期間中ノ產卵數及檢定者ヲ記載スルコト

●國民健康保險法 (昭和十三年四月一日) (法律第六十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國民健康保險法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民健康保險法

第一章 總則

第一條 國民健康保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ疾病、負傷、分娩又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルモノトス

第二條 國民健康保險ハ國民健康保險組合(以下組合ト稱ス)之ヲ行フ

第三條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

組合ガ規約ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラズ時効中斷ノ效力ヲ有ス

第四條 國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第五條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第六條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ

第一類 法規、第十一章 諸法規

例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ
市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ着手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村制百一十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス
第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第二章 國民健康保險組合

第一節 總則

第九條 組合ハ左ノ二種トス

- 一 普通國民健康保險組合
- 二 特別國民健康保險組合

組合ハ法人トス

第十條 普通國民健康保險組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組合員トシ、特別國民健康保險組合ハ同一ノ事業又ハ同種ノ業務ニ従事スル者ヲ組合員トシ之ヲ組織ス

第十四條 第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タル資格ナキ者ハ組合員タルコトヲ得ズ但シ其ノ世帯ニ被保險者タル資格アル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
普通國民健康保險組合ノ地區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ特

三五三

別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作り組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第十二條 組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ地區(特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍)
- 四 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項
- 五 被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項
- 六 其ノ他重要ナル事項

第十三條 普通國民健康保險組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者(特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク)ハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十四條 組合ハ組合員及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ以テ其ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

特別ノ事由アル組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ給付ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトト爲スコトヲ得

第十九條 療養ノ給付、助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス組合其ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合其ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ都度之ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ得

第二十條 組合ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給付ヲ受クル者(給付ヲ受クル者組合員ニ非ザル場合ニ於テハ其ノ屬スル世帯ノ組合員)ヨリ徴收スルコトヲ得

第二十一條 組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

- 一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
 - 二 健康診断ニ關スル施設
 - 三 保養ニ關スル施設
 - 四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設
- 第二十二條** 組合ハ其ノ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保険料ヲ徴收ス
- 組合ハ特別ノ事由アル者ニ對シ保険料ヲ減免シ又ハ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十三條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給付

一 健康保險ノ被保險者

二 他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

三 特別ノ事由アル者ニシテ規約ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ニ拘ラズ組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ包括シテ被保險者ト爲サザルコトヲ得

第十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約違反者ヨリ過怠金ヲ徴收スルコトヲ得

第十六條 組合ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得

組合ハ前項ノ規定ニ依リ組合ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 本法ニ規定スルモノノ外組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 事業

第十八條 組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付、分娩ニ關シテハ助産ノ給付、死亡ニ關シテハ葬祭ノ給付ヲ爲ス但シ特別ノ事由アル組合ハ助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲サザルコトヲ得

組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員(組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合員)ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得

第二十四條 保險給付ノ種類範圍支給期間及支給額、保險料ノ額徴收方法及減免其ノ他保險給付及保險料ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三節 管理

第二十五條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

組合會議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

組合會議員ハ組合員ニ於テ之ヲ互選ス

- 第二十六條** 組合會ノ議決スベキ事項左ノ如シ
- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
- 五 組合債
- 六 規約ノ變更
- 七 其ノ他重要ナル事項

前項第一號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十七條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條 組合ニ理事數人ヲ置ク

理事ハ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限り前項ノ規定ニ拘ラズ理事中ニ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルモノトス

第二十九條 理事ノ中一人ヲ理事長トス

理事長ハ理事ニ於テ之ヲ互選ス但シ前條第三項ノ規定ニ依リ理事アルトキハ特別ノ事由ナキ限り之ニ付選任ス理事長ハ組合ヲ代表ス理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十條 組合會成立セズ又ハ其ノ議決スベキ事項ヲ議決セザルトキハ理事ハ地方長官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十一條 組合會ニ於テ議決スベキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セザルトキ又ハ之ヲ召集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第三十二條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スベシ

第三十三條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事長及理事以外ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四節 分合及解散

第三十四條 組合分割、合併又ハ解散ヲ爲サントスルトキハ組合會ニ於テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十五條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス又ハ分割後存続スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第三十七條 組合解散シタルトキハ理事清算人ト爲ル

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス

清算人缺ケタルトキ亦同ジ

清算人ハ組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ地方長官必要アリト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三章 國民健康保險組合聯合會

第三十八條 組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ國民健康保險組合聯合會（以下組合聯合會ト稱ス）ヲ設立スルコトヲ得

組合聯合會ハ法人トス

第三十九條 組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ作り

地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合聯合會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第四十條 組合聯合會ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合聯合會ノ目的及事業
- 二 組合聯合會ノ名稱
- 三 事務所ノ所在地

四 加入及脱退ニ關スル事項

五 經費ノ分賦ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第四十一條 組合聯合會ニ總會、理事長及理事ヲ置ク總會ノ組織並ニ理事長及理事ノ選任ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第四十二條 第十五條乃至第十七條、第二十六條、第二十七條、第二十九條第三項第四項及第三十條乃至第三十七條ノ規定ハ組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第四章 監督及補助

第四十三條 主務大臣及地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ檢査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ其ノ役員其ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ地方長官ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十五條 地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ